

講義内容の概要

(シラバス)

2013(H25)年度

高知短期大学

※下記URLよりインターネットからも閲覧可能です

<https://www.kochi-jc.ac.jp/College/Sub/Syllabus/index.php>

科目名	法学	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0010	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	法学の総論を学んでいきます。なぜ法は必要なのか、法によって我々はどのような利益や不利益を被るのかといったことを、公法(憲法、行政法、刑法及び国際法)の観点から学習していきます。
授業の進め方	講義形式で行います。配布するレジメに従って講義を進めます。
達成目標	(1)法学及び公法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)法的思考ができるようになる。 (3)実際の問題を法的に分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 法を学ぶにあたって 第2回 法源 第3回 法と裁判 第4回 憲法の基本原理 第5回 人権 第6回 統治機構 第7回 行政法の基本原理 第8回 行政組織 (第1回 小テスト) 第9回 行政行為 第10回 刑法の基本原理 第11回 刑罰の種類 第12回 犯罪の要件 第13回 国際法の基本原理 第14回 国際法の主体 第15回 国際法と国内法 (第2回 小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むこと。
教科書	指定しない。
参考書	講義中に適時あげていきます。
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末試験(40%)

科目名	法学	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0020	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>総論及び公法を扱う法学Iに続いて、本講義では私法（民法など）を題材として、法律学を学習する方法を学びます。具体的には、仕事をする上でも役立つ「ロジカルシンキング(logical thinking)」を用いて、民法などの私法分野を効率的・効果的に学習する方法を受講者が習得することを目指します。</p>
授業の進め方	<p>参加型授業形式で進めます。ロジカルシンキングの思考（ゼロベース思考、フレームワーク思考、オプション思考）やロジカルシンキングの手法（ロジックツリー手法、マトリックス手法およびプロセス手法）などを習得するために、受講者はグループワークおよびプレゼンテーションを行います。</p>
達成目標	<p>(1) ロジカルシンキングを理解できるようになる。 (2) 効率的・効果的な学習法を習得する。 (3) 法律学の基礎である、法的三段論法を理解できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 オリエンテーション、なぜ法律学をロジカルシンキングの視点からみるのか 第2回 論理的思考方法と説明方法 第3回 論理的思考と図表作成の方法（1） 第4回 論理的思考と図表作成の方法（2） 第5回 グループワーク（1） 第6回 グループワーク（2） 第7回 プレゼンテーション（1） 第8回 法律学のフレームワークとなる基礎概念・用語：MECEを利用した基礎概念・用語の整理（1） 第9回 法律学のフレームワークとなる基礎概念・用語：MECEを利用した基礎概念・用語の整理（2） 第10回 法的三段論法とリーガルマインド 第11回 法律の構造と条文の読み方 第12回 条文解釈の方法 第13回 法的文章の作成方法 第14回 グループワーク（3） 第15回 プレゼンテーション（2）</p>
履修上の注意	<p>受講者が予習してくることを前提として、授業を進めます。講義を受ける際には教科書および六法を持参して下さい。</p>
教科書	<p>『民法でみる法律学習法』金井高志著、日本評論社（2011年）</p>
参考書	<p>『考える技術、書く技術』バーバラ・ミント著、ダイヤモンド社（2008年）] 『ロジカル・シンキング：論理的な思考と構成のスキル』照屋華子・岡田恵子著、東洋経済新報社（2001年）</p>
成績評価方法	<p>グループワークおよびプレゼンテーション（100%）により評価します。</p>

科目名	経済学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	A0030	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	需要と供給という経済学の基本理論をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 市場における需要と供給の作用により、価格や取引量がどのように変化するのか理解できるようになる。 (2) 政府が市場に介入しない方がいいとはどういうことか、理解できるようになる。 (3) 政府が市場に介入した方がいい場合とはどういう場合かを知ることができる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに 第2回 市場1:需要と供給 第3回 市場2:均衡価格と取引量 第4回 市場3:環境の変化と価格と取引量 第5回 弾力性とその応用:豊作貧乏と生産調整 第6回 市場の効率性1:需要と供給再考 第7回 市場の効率性2:余剰分析 第8回 市場介入1:参入規制 第9回 市場介入2:税(1) 第10回 市場介入3:税(2) 第11回 市場介入4:補助金 第12回 市場介入5:販売量規制と価格規制 第13回 市場介入6:国際貿易 第14回 市場の失敗:政府が市場に介入した方がいい場合 第15回 おわりに
履修上の注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まるが、どちらか一方だけでも受講に支障はない。
教科書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年)
参考書	『ミクロ経済学 市場の失敗と政府の失敗への対策』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年)
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(80%)、受講態度(20%)を加味して評価する。

科目名	経済学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	A0040	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>最初に当面する経済危機・長引く不況を取りあげた後、やや長期の視点から見た日本経済の課題に焦点をあてます。具体的には日本で急速に進行する高齢化・人口減少の問題を取りあげ、考え方を整理していきます。その上で、経済学の基本的な用語としてGDPや経済成長の意味を検討していきます。また折に触れてグローバル化の急速な進行が生み出す問題（特にヒトの移動・外国人労働力問題）にも可能な限り触れ、それらが生み出している深刻な問題と新たな発展の可能性について考えていくこととします。</p>
授業の進め方	<p>講義の形で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。ビデオも可能な限り活用します。</p>
達成目標	<p>(1)経済成長や国内総生産などの基礎的な用語について、その基本的な意味と性格を理解できるようになる。 (2)高齢化・人口減少が生み出す問題とそれに対する備えについて、深い関心を持ち、いくつかの基本的な側面を理解できるようになる。 (3)グローバル化が生み出す問題と可能性について、深い関心をもって考えられるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>概ね次ように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。</p> <p>第1回 オリエンテーション - 危機の時代と経済学 第2回 なぜ不況が続くのか？ 第3回 なぜ失業が減らないのか？ 第4回 不況対策として何が出来るのか？ 第5回 中間復習 第6回 高齢化・人口減社会 何が問題か？ 第7回 高齢化・人口減社会 なぜ止められないか？ 第8回 高齢化・人口減社会への備え 公的年金は頼れるか？ 第9回 高齢化・人口減社会への備え 貯金は頼りになるか？ 第10回 経済成長と暮らし 国民の所得とは？ 第11回 経済成長と暮らし 成長の生む要因は？ 第12回 経済成長と暮らし 経済成長と豊かさ 第13回 経済成長と暮らし 豊かになるってどういうこと？ 第14回 国境を越えるヒト・モノ・カネ - グローバル化を考える 第15回 総復習</p> <p>以上の講義を踏まえ、期末試験を実施します。</p>
履修上の注意	<p>積極的に参加する姿勢が求められます。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらか一方だけでも受講に支障はありません。</p>
教科書	<p>特に指定しません。</p>
参考書	<p>講義の中で適宜指示します。</p>
成績評価方法	<p>試験の成績を基本に(80%)、授業への参加の姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。</p>

科目名	情報処理 (2クラス)	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0050	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットを使いこなし、Word2007で文章の作成方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) パソコンや周辺機器を使いこなす (2) インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3) Wordで基本的な文章を作成できるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション パソコンの基礎 第2回 Windowsの基礎 第3回 インターネットの基礎とセキュリティ 第4回 インターネットを使う 第5回 Wordの基本 第6回 書式設定 第7回 拡張書式、スタイルの設定、目次の作成 第8回 表の作成 第9回 段落、タブ、箇条書き 第10回 画像の処理(画像処理ソフト) 第11回 画像の操作 第12回 ワードアートとテキストボックス 第13回 SmartArtとグラフ 第14回 差し込み印刷 第15回 まとめ
履修上の注意	自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験(50%)、提出物と講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。

科目名	情報処理 (2クラス)	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0050	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットを使いこなし、Word2007で文章の作成方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) パソコンや周辺機器を使いこなす (2) インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3) Wordで基本的な文章を作成できるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション パソコンの基礎 第2回 Windowsの基礎 第3回 インターネットの基礎とセキュリティ 第4回 インターネットを使う 第5回 Wordの基本 第6回 書式設定 第7回 拡張書式、スタイルの設定、目次の作成 第8回 表の作成 第9回 段落、タブ、箇条書き 第10回 画像の処理(画像処理ソフト) 第11回 画像の操作 第12回 ワードアートとテキストボックス 第13回 SmartArtとグラフ 第14回 差し込み印刷 第15回 まとめ
履修上の注意	自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験(50%)、提出物と講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。

科目名	情報処理	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0060	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、Excel 2007 を使用して表計算ソフトの操作方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) 表計算ソフト (Excel) の基本操作が出来るようになる (2) 計算式、関数を理解する (3) データの処理が出来るようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション Windowsの操作 第2回 表計算ソフトの基礎 第3回 セルの操作 ワークシートの操作 第4回 セルの書式 罫線 第5回 計算式 (絶対番地と相対番地) 第6回 関数1 (数値関数) 第7回 関数2 (文字関数) 第8回 関数3 (制御関数) 第9回 データの処理1 (ソート他 検索と選択) 第10回 データの処理2 (集計 テーマ 条件付き書式 スタイル) 第11回 画像 図形とワードアート SmartArt 第12回 グラフ 第13回 ワークシートの保護 ヘッダーとフッター 第14回 マクロとツールボックス 第15回 まとめ
履修上の注意	パソコンの基本操作と、文字入力ができる方を対象とします。 自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験 (50%)、提出物と講義への参加姿勢 (50%) などから総合的に評価する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）清水		単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070		担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）田中		単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070		担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）小林		単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070		担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）菊池	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）梅村		単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070		担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）大井	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）根岸		単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070		担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）下山		単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070		担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話					
	E-mail					

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	英語 (初級)A	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0080	担当教員	松吉 明子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	テキストに沿って基本的文法事項を学習し、英語を理解し活用できる基礎的な力を身につけることを目的とします。 知識を実践に生かせるようにするため、テキスト付属のCDを活用して音読や口頭練習を行い、使える英語の習得を目指します。																																																																											
授業の進め方	高校時代、英語の自信が持てなかった方、数十年間英語と縁がなかった方に配慮して繰り返し復習することで知識の定着を図っていきます。 ペアワークを多用し、相手と上手くコミュニケーションをとる練習をしていきます。																																																																											
達成目標	(1)中学、高校時代に習った文法項目を復習、整理する。 (2)英語を話す、聞く、読む、書くという4技能に関して基礎力をつける。 (3)さらに英語力を伸ばすことができるような学習方法を身につける。																																																																											
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>英語で挨拶・自己紹介</td> <td>第 1 6 回</td> <td>否定文・疑問文</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>英文と日本語の構成の違い</td> <td></td> <td>第 1 7 回</td> <td>助動詞 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>品詞の働き</td> <td></td> <td>第 1 8 回</td> <td>助動詞 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>基本動詞を含む英文</td> <td>S + V S + V + C S + V + O</td> <td>第 1 9 回</td> <td>比較構文</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>基本動詞を含む英文</td> <td>S + V + O + O S + V + O + C</td> <td>第 2 0 回</td> <td>第 1 6 回から 19 回の復習</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>これまでの復習</td> <td></td> <td>第 2 1 回</td> <td>文の接続</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>修飾語句：前置詞 + 名詞</td> <td></td> <td>第 2 2 回</td> <td>to 不定詞の働き (1)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>現在時制 (1)</td> <td></td> <td>第 2 3 回</td> <td>to 不定詞の働き (2)</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>現在時制 (2)</td> <td></td> <td>第 2 4 回</td> <td>現在分詞と動名詞</td> </tr> <tr> <td>第 1 0 回</td> <td>無生物主語と there is / are 構文</td> <td></td> <td>第 2 5 回</td> <td>第 2 1 回から 24 回の復習</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 回</td> <td>進行形と現在分詞</td> <td></td> <td>第 2 6 回</td> <td>受動態と修飾語句</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 回</td> <td>過去時制 (1)</td> <td></td> <td>第 2 7 回</td> <td>現在完了</td> </tr> <tr> <td>第 1 3 回</td> <td>過去時制 (2)</td> <td></td> <td>第 2 8 回</td> <td>関係代名詞</td> </tr> <tr> <td>第 1 4 回</td> <td>第 7 回から 13 回のまとめ</td> <td></td> <td>第 2 9 回</td> <td>後半のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第 1 5 回</td> <td>前半の総復習</td> <td></td> <td>第 3 0 回</td> <td>総復習</td> </tr> </table>	第 1 回	オリエンテーション	英語で挨拶・自己紹介	第 1 6 回	否定文・疑問文	第 2 回	英文と日本語の構成の違い		第 1 7 回	助動詞 (1)	第 3 回	品詞の働き		第 1 8 回	助動詞 (2)	第 4 回	基本動詞を含む英文	S + V S + V + C S + V + O	第 1 9 回	比較構文	第 5 回	基本動詞を含む英文	S + V + O + O S + V + O + C	第 2 0 回	第 1 6 回から 19 回の復習	第 6 回	これまでの復習		第 2 1 回	文の接続	第 7 回	修飾語句：前置詞 + 名詞		第 2 2 回	to 不定詞の働き (1)	第 8 回	現在時制 (1)		第 2 3 回	to 不定詞の働き (2)	第 9 回	現在時制 (2)		第 2 4 回	現在分詞と動名詞	第 1 0 回	無生物主語と there is / are 構文		第 2 5 回	第 2 1 回から 24 回の復習	第 1 1 回	進行形と現在分詞		第 2 6 回	受動態と修飾語句	第 1 2 回	過去時制 (1)		第 2 7 回	現在完了	第 1 3 回	過去時制 (2)		第 2 8 回	関係代名詞	第 1 4 回	第 7 回から 13 回のまとめ		第 2 9 回	後半のまとめ	第 1 5 回	前半の総復習		第 3 0 回	総復習
第 1 回	オリエンテーション	英語で挨拶・自己紹介	第 1 6 回	否定文・疑問文																																																																								
第 2 回	英文と日本語の構成の違い		第 1 7 回	助動詞 (1)																																																																								
第 3 回	品詞の働き		第 1 8 回	助動詞 (2)																																																																								
第 4 回	基本動詞を含む英文	S + V S + V + C S + V + O	第 1 9 回	比較構文																																																																								
第 5 回	基本動詞を含む英文	S + V + O + O S + V + O + C	第 2 0 回	第 1 6 回から 19 回の復習																																																																								
第 6 回	これまでの復習		第 2 1 回	文の接続																																																																								
第 7 回	修飾語句：前置詞 + 名詞		第 2 2 回	to 不定詞の働き (1)																																																																								
第 8 回	現在時制 (1)		第 2 3 回	to 不定詞の働き (2)																																																																								
第 9 回	現在時制 (2)		第 2 4 回	現在分詞と動名詞																																																																								
第 1 0 回	無生物主語と there is / are 構文		第 2 5 回	第 2 1 回から 24 回の復習																																																																								
第 1 1 回	進行形と現在分詞		第 2 6 回	受動態と修飾語句																																																																								
第 1 2 回	過去時制 (1)		第 2 7 回	現在完了																																																																								
第 1 3 回	過去時制 (2)		第 2 8 回	関係代名詞																																																																								
第 1 4 回	第 7 回から 13 回のまとめ		第 2 9 回	後半のまとめ																																																																								
第 1 5 回	前半の総復習		第 3 0 回	総復習																																																																								
履修上の注意	電子辞書を必ず持ってきてください。 初級のクラスですので、英語の基礎力のある方は、別のクラスを受講してください。																																																																											
教科書	『Grammar Discovery』 福富かおる・樋口千春・伊東裕起著、センゲージラーニング株式会社 (2013 年発行)																																																																											
参考書	高校の時使用していた英文法の本																																																																											
成績評価方法	授業に取り組む姿勢と授業中の発表 (20 %)、試験 (80 %) から総合的に評価します。																																																																											

科目名	英語（初級）B	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0090	担当教員	岡崎 薫	所属	元高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	高校までに学習した英文法の復習と英文読解の演習		
授業の進め方	文法事項の解説と、学生による演習（英文解釈と文法問題）と発表		
達成目標	(1) 基本的な英単語、英熟語が理解できる (2) 正しい英語の発音ができる (3) 英文法の重要事項が理解できる (4) 辞書があれば普通の英文が読めるようになること		
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 第 1 回 オリエンテーション () 第 2 回 動詞について () 第 3 回 名詞について () 第 4 回 代名詞について () 第 5 回 辞書の使い方 () 第 6 回 形容詞について () 第 7 回 冠詞について () 第 8 回 副詞について () 第 9 回 前置について () 第 10 回 助動詞について () 第 11 回 接続詞について () 第 12 回 比較について () 第 13 回 時制について () 第 14 回 完了形などについて () 第 15 回 まとめ () </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 第 16 回 オリエンテーション () 第 17 回 動詞について () 第 18 回 名詞について () 第 19 回 代名詞について () 第 20 回 辞書の使い方 () 第 21 回 形容詞について () 第 22 回 冠詞について () 第 23 回 副詞について () 第 24 回 前置について () 第 25 回 助動詞について () 第 26 回 接続詞について () 第 27 回 比較について () 第 28 回 時制について () 第 29 回 完了形などについて () 第 30 回 まとめ () </td> </tr> </table>	第 1 回 オリエンテーション () 第 2 回 動詞について () 第 3 回 名詞について () 第 4 回 代名詞について () 第 5 回 辞書の使い方 () 第 6 回 形容詞について () 第 7 回 冠詞について () 第 8 回 副詞について () 第 9 回 前置について () 第 10 回 助動詞について () 第 11 回 接続詞について () 第 12 回 比較について () 第 13 回 時制について () 第 14 回 完了形などについて () 第 15 回 まとめ ()	第 16 回 オリエンテーション () 第 17 回 動詞について () 第 18 回 名詞について () 第 19 回 代名詞について () 第 20 回 辞書の使い方 () 第 21 回 形容詞について () 第 22 回 冠詞について () 第 23 回 副詞について () 第 24 回 前置について () 第 25 回 助動詞について () 第 26 回 接続詞について () 第 27 回 比較について () 第 28 回 時制について () 第 29 回 完了形などについて () 第 30 回 まとめ ()
第 1 回 オリエンテーション () 第 2 回 動詞について () 第 3 回 名詞について () 第 4 回 代名詞について () 第 5 回 辞書の使い方 () 第 6 回 形容詞について () 第 7 回 冠詞について () 第 8 回 副詞について () 第 9 回 前置について () 第 10 回 助動詞について () 第 11 回 接続詞について () 第 12 回 比較について () 第 13 回 時制について () 第 14 回 完了形などについて () 第 15 回 まとめ ()	第 16 回 オリエンテーション () 第 17 回 動詞について () 第 18 回 名詞について () 第 19 回 代名詞について () 第 20 回 辞書の使い方 () 第 21 回 形容詞について () 第 22 回 冠詞について () 第 23 回 副詞について () 第 24 回 前置について () 第 25 回 助動詞について () 第 26 回 接続詞について () 第 27 回 比較について () 第 28 回 時制について () 第 29 回 完了形などについて () 第 30 回 まとめ ()		
履修上の注意			
教科書	『大学英語「グラマー・プラス」』南雲堂		
参考書			
成績評価方法	試験（65%）授業への参加姿勢（35%）などから総合的に評価する		

科目名	英語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0100	担当教員	奥村 訓代	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	編入希望者にとっても、 TOEIC受験希望者にとっても、 楽しく学べる中級英語。 毎回、聴解と読解を規則正しく行います。																																																
授業の進め方	基本的に一日一課進むので、必ず予習が必要である。 また、毎回10分間の復習クイズから始め、それを出席代りにするので、時間に遅れないことと復習が必要です。																																																
達成目標	1) 英文の大意が把握できるようになる。 2) 文法に捉われず、日本語らしく訳せるようになる。 3) 英語を聞いて分かるようになる。 4) 英語でコミュニケーションをとることに興味を持つようになる。 5) 即答できるようになる。																																																
授業計画 (講義の具体的 内容)	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回 オリエンテーション</td> <td>第 16 回 後期テキスト・授業オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 Unit 1 Shopping</td> <td>第 17 回 Unit</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 Unit 2 Daily Life</td> <td>1 イギリスのカフェで、及びUnit 10 道路閉鎖</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 Unit 3 Transportation</td> <td>第 18 回 Unit</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 Unit 4 Jobs</td> <td>2 ジョーンズ家族滞在、及び Unit 11 旅程表</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 Unit 5 Meals</td> <td>第 19 回 Unit 3 コピー機の故障、及び Unit 12</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 Unit 6 Communication</td> <td>野菜オーケストラ</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 Unit 7 Fun</td> <td>第 20 回 Unit 4 語学学校の電話、及び Unit 13</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 Unit 8 Office Work</td> <td>レストラン</td> </tr> <tr> <td>第 10 回 Unit 9 Meeting</td> <td>第 21 回 Unit 5 観光案内所で、及び Unit 14</td> </tr> <tr> <td>第 11 回 Unit 10 Travel</td> <td>定期購読</td> </tr> <tr> <td>第 12 回 Unit 11 Finance</td> <td>第 22 回 Unit 6 妻のパート探し、及び Unit 15</td> </tr> <tr> <td>第 13 回 Unit 12 Business</td> <td>セール広告</td> </tr> <tr> <td>第 14 回 Unit 13 まとめ</td> <td>第 23 回 Unit</td> </tr> <tr> <td>第 15 回 Unit 14 前期復習</td> <td>7 新刊料理本、及び Unit 16 書評</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 24 回 Unit 8 仕事の面接、及び Unit 17</td> </tr> <tr> <td></td> <td>テニスの若きエース</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 25 回 Unit 9 セミナーの感想、及び Unit 18</td> </tr> <tr> <td></td> <td>求人広告</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 26 回 応用問題 1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 27 回 応用問題 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 28 回 応用問題 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 29 回 応用問題 4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 30 回 後期復習</td> </tr> </table>	第 1 回 オリエンテーション	第 16 回 後期テキスト・授業オリエンテーション	第 2 回 Unit 1 Shopping	第 17 回 Unit	第 3 回 Unit 2 Daily Life	1 イギリスのカフェで、及びUnit 10 道路閉鎖	第 4 回 Unit 3 Transportation	第 18 回 Unit	第 5 回 Unit 4 Jobs	2 ジョーンズ家族滞在、及び Unit 11 旅程表	第 6 回 Unit 5 Meals	第 19 回 Unit 3 コピー機の故障、及び Unit 12	第 7 回 Unit 6 Communication	野菜オーケストラ	第 8 回 Unit 7 Fun	第 20 回 Unit 4 語学学校の電話、及び Unit 13	第 9 回 Unit 8 Office Work	レストラン	第 10 回 Unit 9 Meeting	第 21 回 Unit 5 観光案内所で、及び Unit 14	第 11 回 Unit 10 Travel	定期購読	第 12 回 Unit 11 Finance	第 22 回 Unit 6 妻のパート探し、及び Unit 15	第 13 回 Unit 12 Business	セール広告	第 14 回 Unit 13 まとめ	第 23 回 Unit	第 15 回 Unit 14 前期復習	7 新刊料理本、及び Unit 16 書評		第 24 回 Unit 8 仕事の面接、及び Unit 17		テニスの若きエース		第 25 回 Unit 9 セミナーの感想、及び Unit 18		求人広告		第 26 回 応用問題 1		第 27 回 応用問題 2		第 28 回 応用問題 3		第 29 回 応用問題 4		第 30 回 後期復習
第 1 回 オリエンテーション	第 16 回 後期テキスト・授業オリエンテーション																																																
第 2 回 Unit 1 Shopping	第 17 回 Unit																																																
第 3 回 Unit 2 Daily Life	1 イギリスのカフェで、及びUnit 10 道路閉鎖																																																
第 4 回 Unit 3 Transportation	第 18 回 Unit																																																
第 5 回 Unit 4 Jobs	2 ジョーンズ家族滞在、及び Unit 11 旅程表																																																
第 6 回 Unit 5 Meals	第 19 回 Unit 3 コピー機の故障、及び Unit 12																																																
第 7 回 Unit 6 Communication	野菜オーケストラ																																																
第 8 回 Unit 7 Fun	第 20 回 Unit 4 語学学校の電話、及び Unit 13																																																
第 9 回 Unit 8 Office Work	レストラン																																																
第 10 回 Unit 9 Meeting	第 21 回 Unit 5 観光案内所で、及び Unit 14																																																
第 11 回 Unit 10 Travel	定期購読																																																
第 12 回 Unit 11 Finance	第 22 回 Unit 6 妻のパート探し、及び Unit 15																																																
第 13 回 Unit 12 Business	セール広告																																																
第 14 回 Unit 13 まとめ	第 23 回 Unit																																																
第 15 回 Unit 14 前期復習	7 新刊料理本、及び Unit 16 書評																																																
	第 24 回 Unit 8 仕事の面接、及び Unit 17																																																
	テニスの若きエース																																																
	第 25 回 Unit 9 セミナーの感想、及び Unit 18																																																
	求人広告																																																
	第 26 回 応用問題 1																																																
	第 27 回 応用問題 2																																																
	第 28 回 応用問題 3																																																
	第 29 回 応用問題 4																																																
	第 30 回 後期復習																																																
履修上の注意	毎回の予・復習が必要である。 また、辞書は毎回必携のこと。																																																
教科書	前期： First Time Trainer for the TOEIC TEST センゲージ ラーニングKK 後期： 『スパイラル英語トレーニング』入江泉著、The Japan Times																																																
参考書	授業中に適宜紹介する																																																
成績評価方法	3分の2以上出席者対象の試験 70% 毎回のクイズ、その他提出物や積極性 30%																																																

科目名	英語（会話初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0110	担当教員	トーマス・マナー	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	英会話に楽しく慣れ親しみ、英会話の基礎を学ぶ。初級。 英語（会話中級）より、初歩の内容です。
授業の進め方	テキストを中心にテープ等も使います。 ペアやグループになって会話の練習をしたり、ゲーム等も取り入れます。英会話初心者用のテキストを使い、その内容にそって授業を進めていきます。ペアやグループになってたくさん会話の練習をしていきますので、失敗をおそれず、積極的に話してみてください。それが上達につながると思います。また、イントネーション、ストレス、発音の指導にも力を入れていきたいと思っています。少しでも多くの英会話ができるよう、楽しい雰囲気 で授業を進めていきたいと考えています。
達成目標	(1) 英語で簡単な会話ができるようになる。 (2) 自然な英語を聞き取れるようになる。 (3) 基本的なことがらについて意見が言える。
授業計画 (講義の具体的 内容)	Lesson 1 To Be(1) Lesson 16 Object Pronouns Lesson 2 To Be(2)/Subject Pronouns Lesson 17 Simple Present Tense Lesson 3 Present Continuous Tense Lesson 18 Adverbs of Frequency Lesson 4 Possessive Adjectives Lesson 19 Simple Present and Present Lesson 5 Adjectives/Possessive Nouns Continuous Tenses Lesson 6 Prepositions of Location Lesson 20 Can/Have to Lesson 7 There Is/There Are Lesson 21 Future Lesson 8 Singular/Plural(1) Lesson 22 Time Expressions (1)/Want to Lesson 9 Singular/Plural(2) Lesson 23 Past Tense(1) Lesson 10 This/That/These/Those Lesson 24 Past Tense(2) Lesson 11 Simple Present Tense(1) Lesson 25 Past Tense(3) Lesson 12 Simple Present Tense(2) Lesson 26 Time Expressions(2) Lesson 13 Review(1) Lesson 27 To Be(Past Tense) Lesson 14 Review(2) Lesson 28 Review(1) Lesson 15 Summary Lesson 29 Review(2) Lesson 30 Summary
履修上の注意	Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話中級）よりやさしい内容を勉強していきますので初めて英会話に挑戦される方や、ほとんど英語が話せない方はこの授業を取られるとよいと思います。
教科書	『SIDE by SIDE』 Steven J. Molinsky他著、ロングマン社
参考書	
成績評価方法	授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。

科目名	英語（会話中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0120	担当教員	トーマス・マナー	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	中級程度の英会話の修得をめざします。 英語（会話初級）より、少し高い内容を勉強します。
授業の進め方	テキストを中心にヒアリング上達のためにテープ等も使います。 ペアやグループになつての会話の練習や、ゲーム等も取り入れます。 テキストにそつて進めていき、その中で、より実践的な英会話が状況に応じて使えるよう、指導していきます。 ユニットごとに基本となる文がのっていますので、これを使って会話の練習をしたり、テープの後について言ったり、また聞き取りテスト等もします。2人やグループでの会話を取り入れ、イントネーション・ストレス・発音の指導にも力を入れていきたいと思ひます。 イラストの入つた楽しいテキストは日常生活の身近な話題ばかりで会話を学ぶ楽しさを実感してもらえます。英語が自然に好きになるような授業をめざしたいと思ひています。
達成目標	(1) 英文法を理解する。 (2) 英語で活発な会話ができるようになる。 (3) 英語を正確に聞き取れるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	Lesson 1 Getting to know each other Lesson 2 Talking about Interests(1) Lesson 3 Talking about Interests(2) Lesson 4 Talking about Family Lesson 5 Talking about People(1) Lesson 6 Talking about People(2) Lesson 7 Talking about Work(1) Lesson 8 Talking about Work(2) Lesson 9 Talking about Past Experiences Lesson 10 Talking about Sports Lesson 11 Talking about other Countries Lesson 12 Talking about Experiences Lesson 13 Review(1) Lesson 14 Review(2) Lesson 15 Summary Lesson 16 Talking about Places(1) Lesson 17 Talking about Places(2) Lesson 18 Travel English partI:Traveling to Hawaii(1) Lesson 19 Travel English partI:Traveling to Hawaii(2) Lesson 20 Talking about Japanese Things(1) Lesson 21 Talking about Japanese Things(2) Lesson 22 Talking about Future Events Lesson 23 Talking about School Lesson 24 Travel English PartII:Traveling to Thailand(1) Lesson 25 Travel English PartII:Traveling to Thailand(2) Lesson 26 Talking about Sickness & Health Lesson 27 Talkopoly Lesson 28 Review(1) Lesson 29 Review(2) Lesson 30 Summary
履修上の注意	Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話初級）から、少し進んだ内容で進めていきますので、簡単な英語なら話せる方や、さらに自分の会話力を伸ばしたい方に適しています。
教科書	『Talk a Lot Book 1』 David Martin著、EFL Press
参考書	
成績評価方法	授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。

科目名	ドイツ語	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0130	担当教員	持尾 伸二	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	英語以外の外国語を新たに学ぶことは、大いに意義のあることです。ドイツ語と英語はきわめて近い関係にあり、実際に学習してみるとその類似性に驚くでしょう。ドイツ語を学ぶことによりドイツ語圏の文化に身近に触れることができるだけでなく、その背後にある西洋というものの姿がこれまでよりも鮮明に見えてくるはずです。																														
授業の進め方	毎回授業の最初に発音練習をやります。そのあと前回の授業の復習をして、練習問題を受講生にやってもらいます。授業中にわからないことがあったら、いつでも遠慮せずに質問してください。																														
達成目標	(1) ドイツ語の正しい発音ができるようになる (2) やさしいドイツ語の文章を辞書を引ながら読めるようになる (3) 簡単なドイツ語の作文ができるようになる																														
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I</td> <td>第16回 前期授業の復習</td> </tr> <tr> <td>第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化</td> <td>第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化</td> </tr> <tr> <td>第3回 第1課の復習と練習問題</td> <td>第18回 第8課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞</td> <td>第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化</td> </tr> <tr> <td>第5回 第2課の復習と練習問題</td> <td>第20回 第9課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令</td> <td>第21回 第10課 完了形</td> </tr> <tr> <td>第7回 第3課の復習と練習問題</td> <td>第22回 第10課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞</td> <td>第23回 第11課 関係代名詞</td> </tr> <tr> <td>第9回 第4課の復習と練習問題</td> <td>第24回 第11課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第10回 第5課 人称代名詞 前置詞</td> <td>第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞</td> </tr> <tr> <td>第11回 第5課の復習と練習問題</td> <td>第26回 第12課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞</td> <td>第27回 第13課 受動態</td> </tr> <tr> <td>第13回 第6課の復習と練習問題</td> <td>第28回 第13課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞</td> <td>第29回 第14課 接続法</td> </tr> <tr> <td>第15回 第7課の復習と練習問題 まとめ</td> <td>第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ</td> </tr> </table>	第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I	第16回 前期授業の復習	第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化	第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化	第3回 第1課の復習と練習問題	第18回 第8課の復習と練習問題	第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞	第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化	第5回 第2課の復習と練習問題	第20回 第9課の復習と練習問題	第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令	第21回 第10課 完了形	第7回 第3課の復習と練習問題	第22回 第10課の復習と練習問題	第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞	第23回 第11課 関係代名詞	第9回 第4課の復習と練習問題	第24回 第11課の復習と練習問題	第10回 第5課 人称代名詞 前置詞	第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞	第11回 第5課の復習と練習問題	第26回 第12課の復習と練習問題	第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞	第27回 第13課 受動態	第13回 第6課の復習と練習問題	第28回 第13課の復習と練習問題	第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞	第29回 第14課 接続法	第15回 第7課の復習と練習問題 まとめ	第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ
第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I	第16回 前期授業の復習																														
第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化	第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化																														
第3回 第1課の復習と練習問題	第18回 第8課の復習と練習問題																														
第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞	第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化																														
第5回 第2課の復習と練習問題	第20回 第9課の復習と練習問題																														
第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令	第21回 第10課 完了形																														
第7回 第3課の復習と練習問題	第22回 第10課の復習と練習問題																														
第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞	第23回 第11課 関係代名詞																														
第9回 第4課の復習と練習問題	第24回 第11課の復習と練習問題																														
第10回 第5課 人称代名詞 前置詞	第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞																														
第11回 第5課の復習と練習問題	第26回 第12課の復習と練習問題																														
第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞	第27回 第13課 受動態																														
第13回 第6課の復習と練習問題	第28回 第13課の復習と練習問題																														
第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞	第29回 第14課 接続法																														
第15回 第7課の復習と練習問題 まとめ	第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ																														
履修上の注意	課題の練習問題は必ずやってきてください。																														
教科書	『怖くはないぞドイツ文法』 朝日出版社																														
参考書	辞書等は第1回の授業で紹介します。																														
成績評価方法	授業への積極的な取り組み(20%) 小テスト(15%) 学期末試験(65%) を考慮に入れて総合的に評価します。																														

科目名	フランス語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0140	担当教員	山本 明日香	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	初めてフランス語を学ぶ人を対象に、最初歩からのフランス語会話と文法を学びます。				
授業の進め方	前週のおさらい / 教科書、CDを使つての講義 / ペアを組んで会話や発音の練習 / プリントを使つて復習や応用練習 (宿題があります)				
達成目標	(1) 正しい動詞の活用や、名詞の性数、それにあつた正しい冠詞などを選ぶ事が出来る。(文法の修得) (2) 簡単な文章を作る事が出来る。読む事が出来る。(応用) (3) 会話を指示に従つて作り、簡単なやりとりが出来る。聞き取つて内容を把握出来る。(コミュニケーション)				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 フランス語の音 / アルファベット / 挨拶 第3～5回 自己紹介 / 国籍・身分 / 数字 (0～10) 第6～8回 職業 / 住んでいる所について / 数字 (11～20) / 第9～11回 否定形 / 言語 (~語を話す) / 喫茶店での飲み物 / 数字 (30～69) 第12～14回 身の回りのもの / 兄弟について言う / 年齢 第15回 まとめ、復習	第16～18回 人を描写する / 国名 / いろんな疑問文 第19～21回 物の位置 / 場所を表す言葉 / 数字 (70～100) 第22～24回 好き嫌いを言う / ~がある / 第25回 フランスの地方料理 / フランスの年間行事 第26～28回 朝食について言う / スポーツ 第29～30回 曜日 / 場所 / 招待する /	後期の間にも、会話の発表や、小テスト、ゲーム、DVD鑑賞などをする事があります。		
履修上の注意					
教科書	『Café français カフェ・フランセ』 朝日出版社				
参考書	仏和辞書				
成績評価方法	学年末試験 (60%) 提出物 (20%) 発表・小テスト (10%) 出席 (10%) これらから、総合的に評価します。3分の1以上の欠席者は試験受験資格を失います。				

科目名	フランス語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0141	担当教員	山本 明日香	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「フランス語（初級）」を履修した方、フランス語の基礎を学んだ経験のある方を対象にコミュニケーションを主体とした授業を行います。				
授業の進め方	前週のおさらい / 教科書、CDを使つての講義 / ペアもしくはグループでの会話や発音の練習 / プリントを使つて復習や応用練習（宿題があります） / グループでの会話発表 / 先生との会話 /				
達成目標	(1) 「フランス語（初級）」で学んだ基礎をベースに、よりスムーズなコミュニケーションができるようになる。 (2) 基礎的な文法で、より広い表現が出来るよう、語彙力を延ばす。 (3) 実際に会話でフランス語を聞き取り、また、発音を正しく出来るようになる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション	第16～20回	行き方を尋ねる（移動手段 / 時間 / 交通機関の時刻 / 費用など）		
	第2回 アルファベ / 記号 / 発音の概念 /	第21～25回	休暇のことを話す（過去形） / 経験について話す		
	第3～5回 自分について言う（住んでいる所 / 出身地 / アルバイトなど）	第26～30回	朝ご飯について言う（食べ物、飲み物について言う） /		
	第6～8回 ペット、持ち物、家族について言う、聞く / 授業、科目について言う		家庭について話す / 後期の総復習		
	第9～12回 休日の過ごし方について言う / 予定について言う				
	第13～15回 天候について話す / 前期の総復習				
履修上の注意	「フランス語（初級）」を履修した方、フランス語の基礎を学んだ経験のある方を対象にしています。				
教科書	「Moi, je...コミュニケーション」 アルマ出版				
参考書	仏和辞書				
成績評価方法	学年末試験（60%）、提出物（20%）、小テスト（会話発表含む）（10%）、出席（10%）から総合的に評価します。授業への積極的な参加が求められます。 3分の1以上の欠席者は学年末試験資格を失います。				

科目名	中国語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0150	担当教員	玉置 啓子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	中国語は日本人にとって漢字という親しみやすさがありますが、発音は全く違うので、発音練習を繰り返すことが大切です。声調という高低アクセントを持つ中国語の発音はとてもしずみカルで、楽しいものです。この授業では全回に渡って発音練習をし、正確な発音を習得するようにします。更に簡単な文章を口頭練習し、聞き取れ、表現できるようにします。中国は日本と長い歴史的交流があり、現在も今後も深いつながりを持つ国です。言葉の習得はその国を理解する上で大きな手助けとなりますし、中国語は今後様々な分野で必要となる言語です。授業の中では、中国事情についても触れる予定です。																														
授業の進め方	演習形式 対話で会話練習 口頭練習を重視																														
達成目標	(1) 中国語のローマ字による発音表記(ピンイン)を習得し、正しい発音ができるようにする。 (2) 基本単語を覚え、基本文法を学ぶ。 (3) 聞き取り練習によって、簡単な文が聞き取れ、簡単な会話ができるようにする。 (4) 辞書を使って単語の意味や、簡単な文が理解できるようにする。																														
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 オリエンテーション</td> <td>第16回 ユニット3 中華街へ行く 第11課 助動詞 ~したい 日付と曜日</td> </tr> <tr> <td>第2回 ユニット1 中国留学生会室で 第1課 発音練習 あいさつ</td> <td>第17回 第12課 誕生日はいつですか 月時刻</td> </tr> <tr> <td>第3回 第2課 発音練習 何年生ですか。</td> <td>第18回 発音練習 復習</td> </tr> <tr> <td>第4回 発音練習 復習</td> <td>第19回 第13課 これはいくらですか お金の言い方</td> </tr> <tr> <td>第5回 第3課 発音練習 人称代名詞</td> <td>第20回 第14課 お茶を飲む 接続詞</td> </tr> <tr> <td>第6回 第4課 発音練習 名前の言い方</td> <td>第21回 発音練習 復習</td> </tr> <tr> <td>第7回 発音練習 復習</td> <td>第22回 第15課 プロフィール ユニット3のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回 第5課 発音のまとめ ユニット1のまとめ</td> <td>第23回 ユニット4 合宿 第16課 どこにありますか 存在の動詞</td> </tr> <tr> <td>第9回 ユニット2 昼食会 第6課 これはおいしい 指示代名詞</td> <td>第24回 第17課 前置詞 できる 助動詞</td> </tr> <tr> <td>第10回 第7課 これは~ですか 疑問文</td> <td>第25回 発音練習 復習</td> </tr> <tr> <td>第11回 発音練習 復習</td> <td>第26回 第18課 できる 助動詞</td> </tr> <tr> <td>第12回 第8課 ご家族は 疑問文</td> <td>第27回 第19課 ~てもよい 助動詞</td> </tr> <tr> <td>第13回 第9課 身体具合が悪いです 主述述語文</td> <td>第28回 ユニット4のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第14回 発音練習 復習</td> <td>第29回 復習とまとめ(1)</td> </tr> <tr> <td>第15回 第10課 プロフィール ユニット2のまとめ</td> <td>第30回 復習とまとめ(2)</td> </tr> </table>	第1回 オリエンテーション	第16回 ユニット3 中華街へ行く 第11課 助動詞 ~したい 日付と曜日	第2回 ユニット1 中国留学生会室で 第1課 発音練習 あいさつ	第17回 第12課 誕生日はいつですか 月時刻	第3回 第2課 発音練習 何年生ですか。	第18回 発音練習 復習	第4回 発音練習 復習	第19回 第13課 これはいくらですか お金の言い方	第5回 第3課 発音練習 人称代名詞	第20回 第14課 お茶を飲む 接続詞	第6回 第4課 発音練習 名前の言い方	第21回 発音練習 復習	第7回 発音練習 復習	第22回 第15課 プロフィール ユニット3のまとめ	第8回 第5課 発音のまとめ ユニット1のまとめ	第23回 ユニット4 合宿 第16課 どこにありますか 存在の動詞	第9回 ユニット2 昼食会 第6課 これはおいしい 指示代名詞	第24回 第17課 前置詞 できる 助動詞	第10回 第7課 これは~ですか 疑問文	第25回 発音練習 復習	第11回 発音練習 復習	第26回 第18課 できる 助動詞	第12回 第8課 ご家族は 疑問文	第27回 第19課 ~てもよい 助動詞	第13回 第9課 身体具合が悪いです 主述述語文	第28回 ユニット4のまとめ	第14回 発音練習 復習	第29回 復習とまとめ(1)	第15回 第10課 プロフィール ユニット2のまとめ	第30回 復習とまとめ(2)
第1回 オリエンテーション	第16回 ユニット3 中華街へ行く 第11課 助動詞 ~したい 日付と曜日																														
第2回 ユニット1 中国留学生会室で 第1課 発音練習 あいさつ	第17回 第12課 誕生日はいつですか 月時刻																														
第3回 第2課 発音練習 何年生ですか。	第18回 発音練習 復習																														
第4回 発音練習 復習	第19回 第13課 これはいくらですか お金の言い方																														
第5回 第3課 発音練習 人称代名詞	第20回 第14課 お茶を飲む 接続詞																														
第6回 第4課 発音練習 名前の言い方	第21回 発音練習 復習																														
第7回 発音練習 復習	第22回 第15課 プロフィール ユニット3のまとめ																														
第8回 第5課 発音のまとめ ユニット1のまとめ	第23回 ユニット4 合宿 第16課 どこにありますか 存在の動詞																														
第9回 ユニット2 昼食会 第6課 これはおいしい 指示代名詞	第24回 第17課 前置詞 できる 助動詞																														
第10回 第7課 これは~ですか 疑問文	第25回 発音練習 復習																														
第11回 発音練習 復習	第26回 第18課 できる 助動詞																														
第12回 第8課 ご家族は 疑問文	第27回 第19課 ~てもよい 助動詞																														
第13回 第9課 身体具合が悪いです 主述述語文	第28回 ユニット4のまとめ																														
第14回 発音練習 復習	第29回 復習とまとめ(1)																														
第15回 第10課 プロフィール ユニット2のまとめ	第30回 復習とまとめ(2)																														
履修上の注意	休まずに受講すること。授業中は積極的に発音、口頭練習をすること。																														
教科書	『ともだち・朋友』 朝日出版社																														
参考書	中日辞典																														
成績評価方法	中間試験、期末試験を行う。中間試験(30%) 期末試験(40%)、授業中の発表、課題の提出(30%)等を併せて総合的に評価する																														

科目名	中国語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0160	担当教員	玉置 啓子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>初級の基礎の上に、単語を増やし、ビデオを見て聞き取り練習をします。応用文を作り、少し複雑な構文を学びます。文法の基礎を学び、基本的な作文ができるようにします。さらに、実際に使える表現を繰り返し練習してマスターするようにします。</p> <p>様々な場面での生き生きした会話を学ぶことで、中国の人々の生活を知り、中国への関心をもってください。</p>				
授業の進め方	<p>演習形式。 ペア練習をします。 随時中国文化に関する読み物を取り入れます。</p>				
達成目標	<p>(1)正しい発音ができる。発音表記(ピンイン)が読み、書ける。 (2)簡単な文が聞き取れ、作文ができ、会話ができる。 (3)ややまとまった文を読んで日本語訳ができるようにする。</p>				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 発音の復習 ユニット1 空港から部屋まで</p> <p>第1課 タクシーで 基本語順</p> <p>第3回 発音の復習 第2課 出会い 形容詞</p> <p>第4回 発音の復習 練習問題</p> <p>第5回 第3課 受付で 疑問文</p> <p>第6回 第4課 部屋を探す 数</p> <p>第7回 " 練習問題</p> <p>第8回 第5課 部屋で 動詞述語文</p> <p>第9回 ユニット1のまとめ</p> <p>第10回 ユニット2 北京映画学院のキャンパスで</p> <p>第6課 プレゼント 所有の動詞</p> <p>第11回 第7課 お茶を飲む 量詞</p> <p>第12回 練習問題</p> <p>第13回 第8課 キャンパス案内</p> <p>存在の動詞 方位詞</p> <p>第14回 第9課 ルームメート 数詞</p> <p>の疑問文</p> <p>第15回 練習問題</p>	<p>第16回 第10課 踊りを見る 「できる」 助動詞</p> <p>第17回 ユニット2のまとめ</p> <p>第18回 ユニット3 チャイナドレスを買う 第1</p> <p>1課 待ち合わせ 曜日 時刻</p> <p>第19回 第12課 バスに乗る 助動詞 前</p> <p>置詞</p> <p>第20回 練習問題</p> <p>第21回 第13課 チャイナドレスを選ぶ 比</p> <p>較</p> <p>第22回 第14課 オーダーメイド お金</p> <p>第23回 第15課 できあがり 動量詞</p> <p>第24回 練習問題 ユニット3</p> <p>のまとめ</p> <p>第25回 ユニット4 雑伎を見に行く 第1</p> <p>6課 雑伎に誘う 動作の完了</p> <p>第26回 第17課 演技場で 動作の進行</p> <p>第27回 練習問題</p> <p>第28回 第18課 プログラム 副詞</p> <p>第29回 第19課 記念写真 過去の経験</p> <p>仮定</p> <p>第30回 練習問題 ユニット4の</p> <p>まとめ</p>			
履修上の注意	<p>授業は休まずに出席すること。 積極的に口頭練習に参加すること。 辞書をよく使いこなすこと。</p>				
教科書	『理香と王麗 スリム版』 朝日出版社				
参考書	中日辞典 日中辞典				
成績評価方法	中間試験、期末試験を行う。授業中の発表と課題の提出(30%) 中間試験(30%) 期末試験(40%) などから総合的に評価する				

科目名	韓国語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0170	担当教員	具 珉京	所属	財団法人福井保育協会
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	韓国語の仕組みからハングルの読み書き、そして基本的な韓国語の文章が理解出来、簡単な挨拶や会話を身に付ける。				
授業の進め方	テキストをもとに講義をする。 プリントを使つての演習とペアやグループになって会話の練習をする。 最初はハングルの文字と発音を十分身に付けるために、韓国語の仕組みや、ハングルの読み書きの練習をし、文法と表現の学習を段階的に学べるようにする。後半では、簡単な会話演習も行う。試験は中間テストと期末試験の2回行う。				
達成目標	(1) 韓国語の仕組みを理解する (2) ハングル文字と日常生活に良く出てくる単語を覚える。 (3) 初めて習う人が1年で簡単な文章が作れるようになる。 (4) 挨拶を中心に簡単な日常会話ができるようになる。 予習復習を熱心にし、巻末の用言活用表で不規則用言の変化まで覚えると、ハングル能力検定試験4級に相当する力がつく。				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 韓国語の仕組みとハングルについて 第3回 挨拶表現(1) 母音(1) 第4回 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2) 第5回 挨拶表現(3)と子音(2)・母音(3) 第6回 挨拶表現(4)と終声 第7回 挨拶表現(4)と発声 第8回 指定詞 第9回 指定詞の否定形 第10回 改まりの上称形 第11回 漢数詞と助数詞 第12回 固有数詞と助数詞 第13回 韓国の日常生活と会話 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習	第16回 親しさの上称形(1) 第17回 親しさの上称形(2) 第18回 方向位置名詞 第19回 過去時制 第20回 否定形と不可能形 第21回 尊敬表現 第22回 動作の継続と希求表現 第23回 婉曲と根拠の表現 第24回 連体形 第25回 意志・相談・可能形 第26回 用言活用、助詞の整理、文法形式 第27回 韓国の風習と言語について 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答			
履修上の注意	欠席しないこと。予習・復習をすること。				
教科書	「楽しく学ぶハングル1」浜之上幸 監修 姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉著、白帝社				
参考書	韓日辞書、日韓辞書				
成績評価方法	授業態度 30% 前期授業期間中に行う中間テスト 30% 後期試験期間に行う期末試験 40%				

科目名	韓国語 (中級)	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0180	担当教員	具 珉京	所属	財団法人福井保育協会
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	韓国語の基本的な文章の理解と会話を習得することを目的とする。	
授業の進め方	テキストをもとに講義をする。(プリントを使つての演習) 単語と文法を覚え、文章を理解し表現できるようにした上で、ペアやグループになって会話練習を行い、ヒアリング力も身につくようにする。 中間テストと期末試験を行う。	
達成目標	(1) 一般的に良く使われるハングル文字や文章の読み書きが出来るようになる。 (2) 日常会話力がレベルアップする。 (3) ヒアリング力がつくようになる。 予習復習を熱心にし、テキストを完全にマスターして、付録や読解編の文法事項まで覚えると、韓国での生活に支障をきたさないレベルの語学力、ハングル能力検定試験3級に相当する力がつく。	
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 韓国語初級からの確認事項 第3回 過去時制と未来連体形 第4回 相談・提案の表現 第5回 否定表現と不可能表現 第6回 現在連体形と活用用言 第7回 変格用言(1)と原因・理由(1)の表現 第8回 変格用言(2)と意向の表現 第9回 過去連体形と経験の表現 第10回 変格用言(3)と連用形を用いた表現 第11回 変格用言(4)と文中の疑問形 第12回 変格用言(5)と継続の表現(1) 第13回 韓国の伝統と文化と言語について 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習	第16回 尊敬の丁寧な命令、勧誘、簡単な表現 第17回 同意・確認と希求・願望の表現 第18回 許可と義務の表現 第19回 意志・推量と意図の表現 第20回 用言の名詞形を用いた表現 第21回 目的の表現と副詞形 第22回 ハンタ体と伝聞の表現 第23回 原因・理由・(2)と動作や対象の変化の表現 第24回 ぞんざい悪い方と禁止の表現 第25回 継続の表現(2) 第26回 自分の力で読んでみよう(読解編) 第27回 補充文法、発音変化の整理、漢数詞と固有数詞、文法形式 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答
履修上の注意	韓国語 (初級)を受講していることが望ましい。 予習・復習をする事、欠席しないように。	
教科書	『楽しく学ぶハングル2』浜之上幸 監修 姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉著、白帝社	
参考書	韓日辞書 日韓辞書	
成績評価方法	授業態度 30% 中間テスト30% 期末試験40%	

科目名	保健体育	単位数	2	期別	後期
科目コード	C0190	担当教員	本間 聖康	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	生活と健康（特に運動と健康） ライフスタイルの変化により、日常生活における身体活動は大幅に軽減された。 ここでは、主に運動（身体活動）と健康の関係についてみていく。
授業の進め方	講義形式
達成目標	(1) 運動（身体活動）と健康の関係について理解し、生活に生かすことができる。 (2) 健康管理のために、メディカルチェックが重要であることが理解できる。 (3) 健康の保持・増進のために運動（身体活動）を実施する際の注意点が理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 人間と運動 第 2 回 運動不足の実態 第 3 回 ベッド・レスト・スタディ 第 4 回 運動と心臓疾患の予防 第 5 回 運動と心臓 第 6 回 運動と血圧 第 7 回 肥満と血中脂質に及ぼす影響 第 8 回 体力に及ぼす効果 第 9 回 喫煙と運動 第 10 回 運動と寿命 第 11 回 自覚的效果 第 12 回 運動の功罪 第 13 回 運動処方とは 第 14 回 運動処方の手順 第 15 回 運動処方の内容
履修上の注意	特になし
教科書	なし
参考書	『新版 運動処方』池上晴夫著、朝倉書店 『スポーツ医学』池上晴夫著、朝倉書店
成績評価方法	期末試験（100%）

科目名	体育実技A	単位数	2	期別	通年
科目コード	C0200	担当教員	神家 一成	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	仲間と共にスポーツのもつ本来の楽しさに触れることにより、生涯を通じて主体的にスポーツに親しむために必要な資質や能力を形成していくことを目的とする。
授業の進め方	全期間を4つの単元に区分し、数種のスポーツ実技を行う。基本技術の習得とゲームの実践を中心として行う。
達成目標	(1) 各スポーツにおける基礎的技能を習得する。 (2) ルールを理解し、ゲームに参加してプレーすることができる。 (3) 審判の役についてゲームを進行することができる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p><バドミントン> 第2回 用具に慣れる 第3回 簡易ゲーム 第4回 ストローク練習、ダブルスゲーム 第5回 ストローク練習、ダブルスゲーム 第6回 フライト練習、シングルスゲーム 第7回 フライト練習、シングルスゲーム 第8回 総括ゲーム</p> <p><ソフトバレーボール> 第9回 ボールに慣れる 第10回 パス練習、簡易ゲーム 第11回 パス練習、簡易ゲーム 第12回 サーブ練習、ゲーム 第13回 集団技能練習、ゲーム 第14回 集団技能練習、ゲーム 第15回 総括ゲーム</p> <p><テニス> 第16回 用具に慣れる 第17回 フォアハンドグラウンドストローク 第18回 フォアハンドグラウンドストローク 第19回 バックハンドグラウンドストローク 第20回 バックハンドグラウンドストローク 第21回 サーブ、ボレーストローク 第22回 ゲーム 第23回 ゲーム</p> <p><卓球> 第24回 用具に慣れる 第25回 フォアハンドストローク 第26回 バックハンドストローク 第27回 シングルスゲーム 第28回 シングルスゲーム 第29回 ダブルスゲーム 第30回 ダブルスゲーム</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育実技にふさわしい服装(ウエア、シューズ)で参加すること。 ・ ルール、マナーを守り、フェアプレーを心がけること。 ・ 仲間と協力して行うことを心がけること。
教科書	不 要
参考書	
成績評価方法	授業への参加状況(40%)、受講態度(40%)、レポート(20%)を総合的に評価する。

科目名	体育実技B	単位数	2	期別	通年
科目コード	C0210	担当教員	稲田 俊治	所属	元高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	いろいろなスポーツを行いながら、楽しみや生きがいとして、また健康やコミュニケーションにとっても大きな働きをもっているスポーツについて考え、主体的に実践できる知識、技能、態度を習得する。				
授業の進め方	全体を5期に区分し、～期は全員が同じ種目を行ない、個人差を認め合いながらもプレイを楽しむためのゲーム力や基本技能を高めるようにする。～期は各自がいくつかの種目から行ないたいものを選択し、他者と協力してゲームを楽しむようにする。				
達成目標	<p>(1) 各種目について、ルールを理解し、技能を習得する。</p> <p>(2) 受講者間でのコミュニケーションや教え合いができる。</p> <p>(3) 技能レベル等の差を認めながらも、みんながゲームを楽しむことができる。</p>				
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第7回 ソフトバレーボール 毎回、説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施しながら、ソフトバレーボールのルール、基礎技術、具体的な練習方法、ゲームの行い方、お互いが楽しむための態度や工夫について学習する。</p> <p>第8回～第13回 バドミントン ダブルスを中心に学習する。ソフトバレーボールと同様に、説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施する。</p> <p>第14回～第18回 卓球 ダブルスとシングルスを行う。説明～基礎練習～ゲームというパターンで実施する。</p>	<p>第19回～第23回 テニス ダブルスを中心に学習する。基礎練習に重点を置き、ストロークのラリー、サーブとレシーブのラリー、ストロークとボレーのラリーが続くようにする。</p> <p>第24回～第29回 ソフトバレーボール、バドミントン、卓球、テニスの中から行いたい種目を他者と協力して楽しむ。人数、施設等を考慮して調整する。</p> <p>第30回 授業のまとめ</p>			
履修上の注意					
教科書	特になし				
参考書	特になし				
成績評価方法	受講態度(80%)、レポート(20%)などにより総合的に評価する。				

科目名	哲学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	D0220	担当教員	原崎 道彦	所属	高知大学教育学部	
連絡先	電話					088-844-8370(研究室)
	E-mail					harasaki@kochi-u.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	授業のサブタイトルは「ダイエットの哲学」。いかにも軽そうなタイトルですが、内容ははかかなりヘビーです。私たちの今日の標準的な食生活を、食の背景にある人間観にさかのぼりながら、全面的に再検討し、ほぼ全面的に否定することになります。もちろん食生活を全面的に変えることを強いる授業ではありませんが、今の食生活を考え直してみる余裕のないかたにとっては、とまどうほかない話が続くかもしれません。
授業の進め方	毎時間、最後に、授業を聞いて考えたことを短いレポートにまとめる時間をとります。次の時間は、そのレポートへコメントするところから始まります。
達成目標	(1) 哲学という学問のスタイルを理解する。 (2) ダイエットをめぐる問題の深さを理解する。 (3) さまざまなダイエットの背景にある人間観・自然観を理解する。 (4) 人間観・自然観にもとづくダイエット法を工夫できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 授業のすすめ方や成績評価についてのオリエンテーション。 第2回 なぜ「ダイエットの哲学」なのか？ 第3回 プラント・ベースのホール・フード。 第4回 ロー・カーボン・ダイエット。 第5回 思想としてのマクロビオティック。 第6回 ロー・フード。 第7回 ファスティング。 第8回 進化論とダイエット。 第9回 なぜむさぼるのか。 第10回 からだにやさしいダイエットの原理。 第11回 ダイエットとリラクゼーション。 第12回 加工食品の功罪。 第13回 オーガニック食品。 第14回 エコとしてのオーガニック。 第15回 オーガニックは世界を救う?!
履修上の注意	6回以上の欠席で、自動的に、履修の資格を失います。20分以上の遅刻は欠席扱いとします。また、授業に出ても、(授業の最後で書いてもらう)レポートの提出がない場合や、レポートの内容が授業の内容にそっていない場合は、欠席扱いとなります。毎時間のレポートがすべて提出されていても、期末レポートの提出がない場合は、失格となります。
教科書	ありません。毎時間、レジメと資料のプリントを配布します。
参考書	授業で紹介します。
成績評価方法	毎時間(ガイダンスの1時間目は除く)、授業の最後に、授業を聞いて考えたことをまとめたレポートを書く時間をとります。そのレポートの点数が、1回5点満点で、14回で70点満点となります。授業全体の終了後に、期末レポートを提出してもらいます。そちらが30点満点となります。期末レポートの課題や分量などについては、1時間目のガイダンスで詳しく説明します。

科目名	文学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0230	担当教員	芋生 裕信	所属	高知県立大学 文化学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	俳句革新、短歌革新、『ホトトギス』への支援、夏目漱石や後輩たちのかかわり等をポイントに、正岡子規が近代俳句、近代短歌、写生文において果たした役割を作品に即してたどっていきます。
授業の進め方	受講生との質疑応答、意見交換を積極的に取り入れながら、子規の作品、文章を丁寧に読んでいきます。一つのテキストを中心にして、ともに読み深める「講読」形式の授業になります。
達成目標	(1) 俳句、短歌、写生文が鑑賞、理解できるようになる。 (2) 近代詩歌の世界において子規が果たした役割が理解できるようになる。 (3) 自分の考えが口頭で、また文章で発表できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 子規の生涯 第3回 俳句の革新 理論(1) 第4回 俳句の革新 理論(2) 第5回 俳句の革新 実作(1) 第6回 俳句の革新 実作(2) 第7回 短歌の革新 理論(1) 第8回 短歌の革新 理論(2) 第9回 短歌の革新 実作(1) 第10回 短歌の革新 実作(2) 第11回 『ホトトギス』と子規(1) 第12回 『ホトトギス』と子規(2) 第13回 漱石と子規(1) 第14回 漱石と子規(2) 第15回 まとめ
履修上の注意	小レポートを数回課しますので、熱心に取り組んでください。
教科書	『ちくま日本文学 正岡子規』筑摩書房(2009年):必携
参考書	授業の中で紹介します。
成績評価方法	平常点(小レポートを含む。40%)と期末レポート(60%)を総合して評価します。

科目名	芸術・文化論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	D0240	担当教員	佐藤 恵里	所属	高知県立大学	
連絡先	電話					088-873-2837
	E-mail					erisato@el.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	歌舞伎は近世を通して庶民が支持し育てた現代演劇であった。市井の生活文化あるいは民俗に根ざしていたので、その影響は文芸はもとより、各地の祭りの芸能にも及ぶ。講義では、歌舞伎を対象に様々な角度から演劇としての特質を質してみたい。現代人として基礎的な教養を身につける一つの機会としてほしい。
授業の進め方	講義形式を基本に、質疑やグループ討議の時間を設け、双方向で進めたい。DVDや絵画資料を多用する。
達成目標	(1) 歴史的な存在である歌舞伎の特質を把握すること。 (2) 受講生各自が現代の演劇ひいては生活文化との共通ないし差異を確認すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	授業は、芸能史および歌舞伎研究の成果を踏まえながら、歌舞伎の本質、歴史、役者と作者、演技と演出、ドラマツルギー(作劇法)といった項目で、歌舞伎の相貌をわかりやすく順次理解してもらう形で行う。授業計画は以下のようである。 第1回 講義ガイダンス 内容概略 第2回 歌舞伎とは何か 第3回 歌舞伎の歴史 芸能史のなかの歌舞伎 第4回 歌舞伎の歴史 社会史のなかの歌舞伎 第5回 役者と作者 第6回 「芝居」と見物 第7回 演技と演出 DVD『助六』を見る 第8回 演技と演出 『助六』台本を読む 第9回 演技と演出 DVD『京鹿子娘道成寺』を見る 第10回 演技と演出 DVD『道成寺』(能)を見る 第11回 演技と演出 DVD『法界坊』を見る 第12回 歌舞伎のドラマツルギー 「実は」の構造 出現の感動、変格の論理 第13回 歌舞伎のドラマツルギー 「やつし」という手法 現代への変換 第14回 歌舞伎のドラマツルギー 「悪」の位相 「時代」と「世話」 第15回 講義のまとめ
履修上の注意	受講者は歌舞伎など古典芸能にいささかでも関心がある人とさせてほしい。また、活発な質疑・発言を求めたい。
教科書	資料を配布する。
参考書	講義の中で随時紹介する。
成績評価方法	期末試験に代えた課題レポート(60%)、出席数を含めた平常点(40%)の比率で、総合的に評価する。平常点には数回実施予定の小レポートの評価を含む。

科目名	文章表現技法	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0250	担当教員	池田 洋一	所属	土佐塾高校非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	講義形式で進めます。しかし、実際に書かないと上達しませんので、後半は小論文を書いてもらいます。よい文章は、一体どうすれば書けるのか。この課題に、よりよい解答が出るように挑戦します。よい文章の書き方として、用字・用語、句読点の勘所、構想の立て方、構成の取り方を最初に学んでいきます。そして、テーマへの取り組み方、その効果的な表現などを当方で用意したテキスト・問題文に即して、実践的に学んでいきます。今後、さまざまな場面で要求される小論文が、最終的にきちんと書ける段階までを目標とします。				
授業の進め方	最初はよい文章とは何かを概説的に説明します。日本語の基礎知識、執筆技術の基礎知識、書き方のコツなどを全般的に指導します。当方で書いたものを配布し、その上で、問題点を話して行きます。その後、テキスト(教科書等)の読み込み、相互の批評・分析を加えて、名文から書き方の要諦・方法を学びます。文章上達のコツは、名文をよく読み込むこと、数多く書き込むことなので、課題文を出して、必要に応じて小論文を書いてもらい、添削・批評をして行きます。文章上達には、他者の目に曝すことが必要です。				
達成目標	(1) 大学生として要求される基礎的な文章表現の能力を身につける。 (2) 明晰で、論理的な文章の書き方を習得する。 (3) 実際に課題をあたえられて、小論文が十分に書けるところまでを目標とする。				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回：オリエンテーション、文章を書く際の基礎知識・概説 第2回：小論文の基本技術 正しい文章を書くために A・主語・述語 B・修飾の順序 C・文末表現 D・助詞の使い方 第3回：小論文の基礎 A・原稿用紙の使い方 B・符号の使い方 C・文のつなぎ方 D・句読点の打ち方 第4回：小論文の基礎 A・よい文章とは一わかりやすさと読みやすさ B・文章修行のやり方など C・小論文 と作文の違い D・情報の集め方など 第5回：小論文の基礎 テーマ・発想の展開 A・テーマの見つけ方 B・テーマの絞り方 C・発想の方法 D・構想の立て方 第6回：小論文の基礎 ・文章構成のノウハウ 具体的な構成の立て方 A・実際的小論文の問題と答案を使う B・書き方の具体的な手順を板書・記載したもので説明 第7回：あなたの文章力をチェックする 小テストを実施 A・名詞・動詞 B・語彙・言葉遣い C・主語・述語 D・修飾 E・文について F・総論・各論・ 目的表示について G・漢字・同音異義語などについて	第8回：「教科書」を読み込む 辰濃和男著『文章のみがき方』を使う A・相互批評を行う B・分析をする C・文章の勘所を学ぶ 第9回：課題文の演習 一課題問題の書き方・方法 抽象的なテーマの場合 A・具体的な書き方は記載したもので説明 B・実際に小論文を書く C・書いたものを推敲 第10回：課題文の演習 複数の資料・グラフのついた問題 A・問題点を指摘し、実際に小論文を書いてもらう 第11回：課題文の演習 時事的な問題 第12回：課題文の演習 時事的な問題 第13回：課題文の演習 よく出る問題 第14回：課題文の演習 よく出る問題 第15回：まとめ 明晰でわかりやすい、論理的な文章を書くための「まとめ」	授業の進め方は、1回から6回目までを、上記の基礎的な内容に費やします。 7回目で小テストを実施。8回目では教科書で文章の要諦・勘所を学びます。 9回から14回目は、その応用・実践編とし、15回目を「まとめ」とします。		
履修上の注意	教科書は言うまでもないが、国語辞典を持参のこと。 原稿用紙は当方で用意をします。				
教科書	『文章のみがき方』辰濃和男著、岩波新書(819円税込) *上記は購入してもらいます。* 他はすべてプリントを配布します。				
参考書	『文章読本』丸谷才一著、中公文庫、『日本語の作文技術』本多勝一著、朝日文庫、 『悪文一裏返し文章読本』中村 明著、ちくま新書、『作家の文体』『名文』ともに中村 明著、ちくま学芸文庫、『勝つための論文の書き方』鹿島 茂著、文春新書				
成績評価方法	授業の姿勢(10%)、書評・小論文の内容(10%)、期末試験(80%)から総合的に評価をします。				

科目名	自然科学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0260	担当教員	一色 健司	所属	高知県立大学 地域教育研究センター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	様々なものの量・状態や現象を計測して量的に表現するために、自然科学の成果が幅広く利用されています。本授業では「計測標準と単位を通して見た自然科学」をテーマとして、日常生活の中で使われているいろいろな量や単位の背景にある自然現象と自然法則を解説します。
授業の進め方	講義形式で進めますが、授業中に演習問題を解いていただくこともあります。質疑応答は授業中に行うほか、レポートに併記された質問、電子メールで出された質問に対しては、授業中またはウェブページへの掲載によって回答します。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎的なことから順を追って論理的に考えることができるようになる。 (2) 様々な量や単位の決め方や測り方を通じて、自然現象と自然法則を理解する。 (3) 自然を理解するときに量的表現を用いることの重要性を実感する。 (4) 科学的なものの見方・考え方のできる教養あるより良き市民を目指す。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>以下の話題を取り上げる予定です。進度や難易度はなるべく受講生に合わせるつもりです。また、受講生からの質問や疑問等への回答や、内容に関連する最新の研究成果や時事的な話題も取り入れながら、内容をふくらませていくことも想定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 単位とは、SI単位、単位に関する法令 第2回 時間の計測と暦－惑星の運動と暦、太陽暦とグレゴリオ暦 第3回 協定世界時と原子時計 第4回 長さや位置－光速不変の原理と特殊相対論、GPS 第5回 質量と重さ－運動方程式、万有引力、等価原理 第6回 物質の構造と原子分子、単位モルとアボガドロ定数、原子の存在証明 第7回 原子の種類と原子量－原子の成り立ちと原子量 第8回 質量の新しい定義－質量標準としての原器、原子数の精密測定 第9回 摂氏温度と絶対温度－理想気体、水の状態変化 第10回 太陽表面温度と地表の温度－放射エネルギー、温室効果 第11回 光と視覚－光度と比視感度曲線 第12回 熱と仕事－エネルギー、質量とエネルギーの等価性、特殊相対論(再) 第13回 電気エネルギー－電気の生成と利用 第14回 放射線と放射能 第15回 計測標準とSI単位(まとめ)
履修上の注意	自習用資料や質問に対する回答のうち授業で触れなかった事項をウェブページで提供しますので、可能であればウェブページを閲覧できる環境を用意してください。自宅でもかまいませんし、大学の情報演習室も使用できます。
教科書	使用しません。映写資料を用いて解説します。 授業の中で計算問題を解いていただくことがありますので、可能であれば電卓を持参してください。携帯電話の電卓機能を使用したのでもかまいません。
参考書	『理科年表』国立天文台編、丸善(毎年発行されています。最新のもの(2013年版)がよいですが、それ以前のものでもかまいません。授業で取り上げた様々な量に関するデータが記載されていますので、自習用教材として使用すると良いでしょう)。
成績評価方法	授業時に出席する小レポート(40%)、期末試験(60%)。

科目名	心理学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0270	担当教員	馬場園 陽一	所属	高知大学教育学部学校教育教員養成課程
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	心理学の多くの分野の中から、受講生の興味や関心が高いと思われる「パーソナリティの心理学」と「発達心理学」の分野を中心に講義を行う。この講義を通して、心を科学的にとらえる力を身につけるとともに、人間理解や自己理解を深めていただきたい。
授業の進め方	・講義形式を主とするが、質問や意見を求める機会も設ける。簡単な心理実験や心理検査なども実施する予定。
達成目標	(1)心理学に対する興味や関心を高める。(関心・意欲・態度) (2)重要な概念や用語の意味を理解できる。(知識・理解) (3)日常的な文脈の中で、学習した事柄を活かすことができる(活用力)
授業計画 (講義の具体的 内容)	全ての学問には基礎的分野と応用的分野があり、心理学も然りである。とりわけ心理学は、日常生活における人間理解や自己理解を深めていくうえでの実用性が高い学問である。本講義では、これまでの心理学研究から見出されてきた様々な理論的見解(心のしくみや働き)を深く学ぶことによって、実生活の中で心理学的枠組みを通して自己を客観的にみつめ、他者の心を理解し、よりよい生き方をしていくための基礎的能力を養う。 第1回 オリエンテーション(心を科学するとは) 第2回 パーソナリティ理解を深めるには 第3回 パーソナリティのタイプとは 第4回 パーソナリティの特性とは(ビッグファイブ) 第5回 深層心理とパーソナリティ 第6回 人間性とパーソナリティ 第7回 パーソナリティの発達 第8回 パーソナリティ障害(1) 第9回 パーソナリティ障害(2) 第10回 発達とは 第12回 乳児期の発達(愛着形成について) 第13回 幼児期の発達(親子関係) 第14回 青年期の発達(アイデンティティの確立) 第15回 発達障害について
履修上の注意	授業中に5回ほど小レポートを課します。
教科書	使いません。資料を配布します。
参考書	その都度、紹介します。
成績評価方法	小レポート(3割)と期末試験(7割)から総合的に評価します。

科目名	日本語音声学・音韻論	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1001	担当教員	橋尾直和	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	日本文学入門	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1002	担当教員	芋生 裕信	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	中国古典文学講読 B	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1011	担当教員	高西 成介	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度	単位数	4	期別	前期
科目コード	D1024	担当教員	鳩間 亜紀子	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	英語文法・英作文	単位数	2	期別	前期
科目コード	D1051	担当教員	金澤俊吾	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	憲法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0280	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する統治機構に関して解説する。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 立憲主義の歴史的発展と、その基本的な理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する統治機構について、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、立憲主義の理念や日本国憲法の諸規定を踏まえて、現代の政治的・法的問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1 回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2 回 憲法とは何か? 第 3 回 立憲主義の歴史的発展 第 4 回 立憲主義の正統性の検討(民主主義との緊張関係について) 第 5 回 わが国の憲法史 第 6 回 日本国憲法の平和主義の検討 第 7 回 国民主権原理について 第 8 回 国会の組織 第 9 回 国会と議院の権能 第 10 回 内閣の組織・権能と議院内閣制 第 11 回 裁判所の組織と権能 第 12 回 財政民主主義と地方自治 第 13 回 憲法保障概説 第 14 回 憲法改正とその手続 第 15 回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	憲法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0290	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する基本的人権に関して解説する。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 人権保障に関する歴史的発展と、その基本的な理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する基本的人権について、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、人権保障の理念や日本国憲法の 諸規定を踏まえて、現代の政治的・法的問題について、きちんと分析し、自分自身で 考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2 回 人権保障の歴史的発展 第 3 回 基本的人権の原理と限界 第 4 回 私人間における人権保障と限界 第 5 回 包括的人権規定と新しい人権 第 6 回 情報化社会とプライバシー権 第 7 回 法の下での平等について 第 8 回 思想・良心の自由と学問の自由 第 9 回 信教の自由と政教分離原則 第 10 回 表現の自由の保障 第 11 回 経済的自由の保障 第 12 回 人身の自由と刑事手続 第 13 回 国務請求権と参政権 第 14 回 社会権の保障 第 15 回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	行政法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0301	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、行政法の基礎原理、行政組織法、および行政作用法などの諸分野について、解説を行う。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 行政法の基礎原理を正確に理解できるようになる。 (2) 行政組織法に関する概念と理論について、正確に理解できるようになる。 (3) 行政作用法に関する概念と理論について、正確に理解できるようになる。 (4) 上記の3項目が達成できたことを前提とした上で、現代の行政に関する諸問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 イン트로ダクション (講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第 2 回 行政法の特徴と法源 第 3 回 法の支配と法治主義 第 4 回 行政裁量 第 5 回 行政組織法概説 第 6 回 行政立法概説 第 7 回 行政計画の必要性とその問題 第 8 回 行政行為の概念のその効力 第 9 回 行政行為の類型 第 10 回 行政上の強制執行 第 11 回 行政上の即時強制と制裁 第 12 回 行政契約、行政指導、および行政調査 第 13 回 行政手続法概説 第 14 回 情報公開制度概説 第 15 回 これまでの講義の補足説明と時事問題の解説
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	期末の試験 (100%) で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	税法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0310	担当教員	山崎 公亮	所属	山崎公亮税理士事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本では現在約50種類以上の税金があります。その中でも普段の仕事・生活において身近で重要な税法(所得税、法人税、消費税、相続・贈与税)の課税システムについて紹介していきます。
授業の進め方	毎回レジュメに基づき各税法の課税システムを勉強していきます。
達成目標	(1) 租税法の理解 (2) 各税法の課税価格の計算理論の理解 (3) 納税額算出の計算理論の理解
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 我が国における租税法の概念 第2回 適正な会計処理、損益計算書、貸借対照表 第3回 所得税の計算(源泉徴収・年末調整) 第4回 所得税の計算(確定申告) 第5回 所得税の計算・理論 第6回 法人税の計算 第7回 法人税の計算・理論 第8回 地方税の計算 第9回 消費税の計算(原則課税) 第10回 消費税の計算(簡易課税) 第11回 消費税の計算・理論 第12回 贈与税の計算 第13回 相続税の計算・理論 第14回 財産評価 第15回 講義の復習とまとめ
履修上の注意	電卓を持参のこと
教科書	毎回レジュメを配布します
参考書	
成績評価方法	期末試験70%、講義への参加姿勢30%

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0331	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、刑法をはじめとするあらゆる刑罰法規に適用される刑法第1編総則の前半部分について勉強します。 後半部分については刑法総論 で勉強することになります。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行うことを予定しています。
達成目標	(1) 犯罪とは何かについての理解すること。 (2) 刑法の基本概念を理解すること。 (3) 行為概念と構成要件について理解すること。 (4) 違法性について理解すること。 (5) 違法性阻却事由について理解すること。 裁判員制度が始まり、4年目になります。誰が、いつ、どんな場合に裁判員に選ばれるかもしれません。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 刑法とは何か、刑法総論とは何か 第 2 回 刑法の基本原則 第 3 回 刑罰の基礎的問題 第 4 回 罪刑法定主義 第 5 回 刑法の適用範囲 第 6 回 犯罪論の体系 第 7 回 行為と構成要件 第 8 回 因果関係(1) 第 9 回 因果関係(2) 第 10 回 不作為犯(1) 第 11 回 不作為犯(2) 第 12 回 違法性の意義と機能 第 13 回 可罰的違法性と違法性 第 14 回 違法性と違法阻却事由 第 15 回 正当行為 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 教科書を事前に読んで、予習してください。 平成25年度版の六法を必ず持参してください。
教科書	『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年)
参考書	特になし。必要があれば、レジュメ等で伝えます・
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0332	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第1編総則の後半部分(刑法総論の続き)について勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。
達成目標	(1) 違法性阻却事由について理解すること。 (2) 責任の概念について理解すること。 (3) 故意・過失について理解すること。 (4) 錯誤について理解すること (5) 共犯について理解すること。 裁判員制度が始まり4年目になりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 正当防衛 第2回 緊急避難 第3回 自救行為と被害者の同意 第4回 責任論の基本問題 第5回 責任能力 第6回 原因において自由な行為 第7回 故意 第8回 錯誤論(1) 第9回 錯誤論(2) 第10回 過失 第11回 未遂 第12回 中止犯 第13回 不能犯 第14回 共犯(1) 第15回 共犯(2) *皆さんの理解度などを助案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法(4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を履修していることが望ましい。 平成25年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年)
参考書	『刑法判例百選 総論第6版』有斐閣(2008年)
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法各論	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0333	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第二編罪の内、個人的法益に関する罪を勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。
達成目標	(1) 生命・身体に対する罪について理解すること (2) 身体の自由に対する罪について理解すること。 (3) 人格的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まり、4年目になりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1回 刑法各論とは何か、刑法の基本原則 第 2回 殺人の罪 第 3回 傷害の罪(1) 第 4回 傷害の罪(2) 第 5回 過失傷害の罪 第 6回 堕胎の罪 第 7回 遺棄の罪 第 8回 脅迫の罪 第 9回 逮捕・監禁の罪 第10回 略取、誘拐及び人身売買の罪 第11回 姦淫の罪 第12回 住居を侵す罪 第13回 秘密を侵す罪 第14回 名誉に対する罪 第15回 信用及び業務に対する罪 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(遅く、若しくは、速く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に履修することが望ましい。 平成25年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	『口述刑法各論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2006年)
参考書	特になし。必要な場合にはレジュメ等で伝えます。
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法各論	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0334	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第2編罪の内、刑法各論 の続きを、財産犯を中心に、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪などについても勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するための小テストも行います。
達成目標	(1) 財産犯の共通概念について理解すること。 (2) 個々の財産犯について理解すること。 (3) 社会的法益に対する罪について理解すること。 (4) 国家的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まり、4年目になりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1回 財産犯総論(1) 第 2回 財産犯総論(2) 第 3回 窃盗の罪(1) 第 4回 窃盗の罪(2) 第 5回 強盗の罪 第 6回 詐欺の罪(1) 第 7回 詐欺の罪(2) 第 8回 恐喝の罪 第 9回 横領の罪 第10回 背任の罪 第11回 盗品に関する罪、毀棄及び隠匿の罪 第12回 社会的法益に対する罪(1) 第13回 社会的法益に対する罪(2) 第14回 国家的法益に対する罪(1) 第15回 国家的法益に対する罪(2) *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に、刑法各論 を履修していることが望ましい。 平成25年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	『口述刑法各論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2006年)
参考書	特になし。必要な場合には、レジュメ等で伝えます。
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑事訴訟法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0340	担当教員	紫藤 秀久	所属	紫藤法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現実の刑事裁判における実例等を織り交ぜながら、刑法を実現する法である刑事訴訟法を学びます。 なぜ弁護士は被告人を擁護するのか、なぜ取調べの可視化が叫ばれるのか、なぜ裁判員制度は必要なのか等の疑問を解消します。				
授業の進め方	講義形式を基礎とします。				
達成目標	(1) 刑事訴訟法の根本原則である「無罪の推定」の大原則について、基本的な理解をすること。 (2) 捜査から公訴提起を経て公判・判決に至る刑事訴訟全体の流れを把握すること。 (3) 裁判員制度の基礎を理解し、裁判員に選ばれた場合の基本的な姿勢を身につけること。				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 刑事訴訟手続全般と刑事訴訟法の基本原則 第3回 捜査 (捜査とは、捜査の端緒、捜査の登場人物) 第4回 捜査 (人に対する捜査、逮捕、勾留) 第5回 捜査 (物に対する捜査、令状主義の例外) 第6回 捜査 (供述を得るための捜査) 第7回 捜査 (問題となる捜査手法、捜査における被疑者の防御) 第8回 公訴の提起 第9回 公判手続 (概観) 第10回 公判手続 (審判の対象) 第11回 公判手続 (証拠調べ、厳格な証明、自白法則、伝聞法則) 第12回 公判手続 (証拠調べ、挙証責任、事実認定、自由心証主義) 第13回 裁判、救済手続、被害者の保護 第14回 裁判員裁判 第15回 まとめ				
履修上の注意	憲法・刑法と関連して学んでください。				
教科書	『伊藤真の刑事訴訟法入門(第4版)』伊藤真著、日本評論社出版(1700円+税)				
参考書	「六法」は必ず1冊準備してください(小型のものでもOKです)。				
成績評価方法	後期試験で評価します。 問題は論述式と小問形式を併用し、配点はほぼ同じ比重とします。				

科目名	民事訴訟法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0341	担当教員	本澤 友彬	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民事訴訟の仕組みと手続の概略，および，重要概念の解説。
授業の進め方	講義
達成目標	(1) 民事訴訟制度の意義と目的について理解できるようになる。 (2) 民事法の考え方を習得することができるようになる。 (3) 民法訴訟の手続の具体的なイメージを持つことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>刑事訴訟については，裁判員裁判の導入や報道等があり，ある程度イメージがわかりやすいと思います。しかし，民事裁判については，イメージがわきにくいのではないかと思います。</p> <p>そこで，具体例（貸した金を返せ等）を使って，授業の中で，民事訴訟の流れをシミュレーションしてみたいと思います。そのシミュレーションの中で，民事訴訟法の重要な用語や論点について触れていきます。また，訴訟実務の話や，実際にどのような紛争のケースがあるのかなどのお話もしていきたいと思います。</p> <p>必要な書籍は，六法です。レジュメを配布する予定です。基本的には，講義であり，質問（教科書の要らない程度のもの。または，以前授業で触れた事柄等）はたまにする程度を予定しています。</p> <p>民法を少し勉強している方が望ましいです。</p> <p>第1回 講義ガイダンス 講義の進め方 訴訟の目的 第2回 訴えの提起（1）訴訟の主体など 第3回 訴えの提起（2）処分権主義 第4回 第1回期日～裁判所での訴訟活動（1）裁判所による争点整理 第5回 第1回期日～裁判所での訴訟活動（2）弁論主義 第6回 第1回期日～裁判所での訴訟活動（3）弁論主義 第7回 第1回期日～裁判所での訴訟活動（4）自由心証主義・証明責任 第8回 判決以外の訴訟の終了 第9回 裁判官による判断内容・判決（1） 第10回 裁判官による判断内容・判決（2） 第11回 判決後の手続・判決の効力の概説 第12回 判決の効力についての論点（1） 第13回 判決の効力についての論点(2) 第14回 通常訴訟以外の訴訟 第15回 講義の復習とまとめ</p>
履修上の注意	
教科書	ポケット六法等の六法（3000円以下のもので可。電子六法でも可）
参考書	授業で指摘します。
成績評価方法	期末の試験（60%），講義への参加姿勢（40%）などから総合的に評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0351	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail kuwa-nao@cc.u-kochi.ac.jp				

授業概要 (テーマ等)	民法の総則編を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（総則編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 民法の基本的な仕組み 第3回 権利の主体（ ）自然人 第4回 権利の主体（ ）法人 第5回 物・意思表示による権利変動 第6回 意思表示の瑕疵（1） 第7回 意思表示の瑕疵（2） 第8回 契約の不当性 第9回 無効と取消し 第10回 代理（1） 第11回 代理（2） 第12回 代理（3） 第13回 法律行為の効力発生時期 第14回 時効 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法(債権) を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『入門民法（全）』潮見佳男著、有斐閣（2007年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0352	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail kuwa-nao@cc.u-kochi.ac.jp				

授業概要 (テーマ等)	民法の物権編の講義をします。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（物権編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 物権の意義と種類、物権的請求権 第3回 物権変動(1) 第4回 物権変動(2) 第5回 物権変動(3) 第6回 占有権 第7回 所有権(1) 第8回 所有権(2)、用益物権 第9回 担保物権総論、留置権 第10回 先取特権、質権 第11回 抵当権(1) 第12回 抵当権(2) 第13回 抵当権(3) 第14回 譲渡担保 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法（総則・物権）を受講しておくこと。また、民法(債権)を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受ける際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『入門民法（全）』潮見佳男著、有斐閣（2007年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0361	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail kuwa-nao@cc.u-kochi.ac.jp				

授業概要 (テーマ等)	民法の債権総論部分を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（債権総論部分）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験を受験する際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 債権関係とその内容 第3回 債務の不履行 第4回 責任財産の保全（1） 第5回 責任財産の保全（2） 第6回 弁済（1） 第7回 弁済（2） 第8回 相殺（1） 第9回 相殺（2） 第10回 債権譲渡（1） 第11回 債権譲渡（2）、債務引受、契約引受 第12回 多数当事者の債権関係（1） 第13回 多数当事者の債権関係（2） 第14回 多数当事者の債権関係（3）、第三者による債権侵害 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法(総則・物権) を同時並行して受講していることが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法と教科書を必ず持参すること。
教科書	『入門民法（全）』潮見佳男著、有斐閣（2007年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80％）および講義への参加姿勢（20％）およびにより評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0362	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail kuwa-nao@cc.u-kochi.ac.jp				

授業概要 (テーマ等)	民法の債権各論部分を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（債権各論部分）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験を準備する際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 契約総論（1） 第3回 契約総論（2） 第4回 贈与、売買契約（1） 第5回 売買契約（2） 第6回 消費貸借、使用貸借 第7回 賃貸借（1） 第8回 賃貸借（2） 第9回 雇用、請負 第10回 委任、寄託・組合・和解 第11回 事務管理・不当利得 第12回 不法行為（1） 第13回 不法行為（2） 第14回 不法行為（3） 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法（債権）を受講しておくこと。また、民法（総則・物権）を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受ける際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『入門民法（全）』潮見佳男著、有斐閣（2007年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80％）および講義への参加姿勢（20％）により評価します。

科目名	民法（家族）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0371	担当教員	中橋 紅美	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	家族と家族の法について学びます。夫婦、親子、扶養、後見、相続などの家族関係を規定している法律が、民法の親族・相続法です。本講義では、民法親族・相続法の基本的な内容について学びつつ、実務で直面した体験談等も踏まえながら、法律を身近に感じてもらい、法律が現実社会にどの様に影響しているかを考えます。
授業の進め方	教科書は特に指定しませんが、何でもいいので家族法に関する文献を購入し、各回のテーマに該当する部分を読んできてもらえれば、講義の理解が深まると思います。講義は主に口頭で行い、その補助として板書をします。
達成目標	(1) 民法親族法・相続法の基礎的内容が理解できる。 (2) 民法上の基本的な法律用語を正しく理解し、生活上必要な知識として活用できる。 (3) 家族に関して、法と社会的現実の関係について理解できる。
授業計画 (講義の具体的内容)	本講義では、毎回テーマを決め、そのテーマについて講義をします。講義のテーマは以下のとおりです。 第1回 オリエンテーション・家族法の概要 第2回 結婚 第3回 離婚 第4回 離婚に伴う財産・子供の関係(1) 第5回 離婚に伴う財産・子供の関係(2) 第6回 親子(1) 第7回 親子(2) 第8回 後見・扶養 第9回 相続の概要 第10回 相続分 第11回 相続の効果 第12回 相続回復請求、相続の承認・放棄 第13回 遺産分割 第14回 遺言 第15回 遺留分 以上のテーマについて講義をする予定です。1回につき1つのテーマにしたいと考えています。講義は基本的には上記の順で行いますが、場合によっては入れ替えることもあります。
履修上の注意	2009年度以前の「民法」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。民法(総則・物権)・民法(債権)に続く科目ですが、これらの内容を理解していることを前提とはしません。民法についてはごく基本的な内容を講義するのにとどめ、法律をはじめて受講する人でもついていける内容にします。
教科書	『六法』。出版社は問いませんが、最新版を用意してください。期末試験にも使います。
参考書	『身近な家族法』川村隆子著、法律文化社(2010年) 『家族法(第3版)』二宮周平著、新世社(2009年) 『はじめての家族法』常岡史子編、成文堂(2008年)
成績評価方法	期末試験を行います。期末試験の成績(70%)、講義への参加姿勢(30%)で総合評価します。

科目名	商法（総則・商行為）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0391	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	企業と企業、あるいは企業と消費者との間でなされる「企業取引」およびその法規制（商法）について理解することを目標とする。商法（総則・商行為）では企業取引の主体である商人とは何かを中心に学んでいく。
授業の進め方	講義形式ですすめる。
達成目標	(1) 商法の基本概念を理解できるようになる (2) 商人とは何か、商行為とは何か理解する (3) 商法と民法の差異が何に由来するのか理解する
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 インTRODクシヨN 第2回 商法の特徴 第3回 商人と商行為 第4回 商人資格と取得時期 第5回 商業登記 第6回 商業登記の効力 第7回 商号 第8回 名板貸 第9回 営業と営業譲渡 第10回 営業譲渡人の債権者・債務者 第11回 商業帳簿 第12回 商業使用人 第13回 支配人と表見支配人 第14回 代理商 第15回 商事代理
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。商法は民法の特別法であるので、民法がすでに履修済みであるか、並行して履修していることが望ましい。六法を持参すること。
教科書	なし。
参考書	授業中に指定する。
成績評価方法	期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。

科目名	商法（総則・商行為）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0392	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	企業と企業、あるいは企業と消費者との間でなされる「企業取引」およびその法規制（商法）について理解することを目標とする。商法（総則・商行為）では商行為と法規制（企業取引法）について学んでいく。
授業の進め方	講義形式で進める。
達成目標	(1) 商行為とは何か理解する (2) 手形・小切手法について基本概念を理解する (3) 保険法について基本概念を理解する
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 インTRODクシヨN 第2回 商行為とは 第3回 商人の報酬請求権、商事法定利率、商事時効 第4回 商事売買 第5回 消費者売買 第6回 消費者契約法 第7回 運送営業 第8回 運送取扱営業 第9回 場屋営業、倉庫営業 第10回 交互計算、匿名組合 第11回 手形法概説 第12回 手形の権利移転と権利行使 第13回 保険法 総論 第14回 保険法 損害保険 第15回 保険法 生命保険
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。商法は民法の特別法であるので、民法がすでに履修済みであるか、並行して履修していることが望ましい。六法を持参すること。
教科書	なし。
参考書	講義中に指示する。
成績評価方法	期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。

科目名	商法（会社）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0401	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。
達成目標	(1) 株式の意義、株主の権利について理解する。 (2) 株式会社の機関の仕組み、役員の義務と責任の内容について理解する。 (3) 会社の設立手続きについて理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 ガイダンス 第2回 会社法総論 第3回 会社の設立 第4回 設立登記、設立中の法律関係 第5回 株式とは何か 第6回 株式の種類 第7回 株主名簿、株式の消却、併合、分割 第8回 機関総論 第9回 株主総会 第10回 株主総会の決議 第11回 株主総会と決議の瑕疵 第12回 取締役と取締役会 第13回 取締役の義務と責任 第14回 株主代表訴訟と差止請求権、第三者に対する責任 第15回 監査役と監査役会
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。 。六法を持参のこと。
教科書	『リーガルクエスト会社法 第2版』伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征著、有斐閣（2011年）
参考書	『会社法判例百選』江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬著、有斐閣（2011年）
成績評価方法	学期末試験（80％）、講義への参加姿勢（20％）により総合的に評価します。

科目名	商法（会社）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0402	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。
達成目標	(1) 会社の計算書類の意義について理解する (2) 会社の資金調達について理解する (3) 会社の組織再編について理解する
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 インTRODクシヨN 第2回 会社の計算 第3回 連結計算書類、利益の分配、株主の帳簿閲覧権 第4回 資金調達とは 第5回 新株発行 第6回 新株発行の瑕疵 第7回 社債 第8回 定款変更の意義と手続 第9回 資本の減少 第10回 企業の買収・結合・再編 第11回 会社の合併 第12回 会社の分割 第13回 株式交換・株式移転 第14回 会社の解散と清算 第15回 持分会社
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。 。六法を持参のこと。
教科書	『リーガルクエスト会社法 第2版』伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征著、有斐閣（2011年）
参考書	『会社法判例百選』江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬著、有斐閣（2011年）
成績評価方法	学期末試験（80％）、講義への参加姿勢（20％）により総合的に評価します。

科目名	経済法	単位数	2	期別	後期	
科目コード	E0410	担当教員	横川 和博	所属	高知大学人文学部	
連絡先	電話					088-844-8257(研究室)
	E-mail					yokokawa@cc.kochi-u.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	日本の市場経済に関わる法律を概観し、国際的視野から評価・分析する。
授業の進め方	講義
達成目標	(1) 日本の市場経済に関わる法律の基本構造を理解する。 (2) それが経済社会の実態とどう関わるかについて考察できるようになる。 (3) 日本の経済法制を国際的視野から評価する能力を獲得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	次の順序で講義する。 第1回 経済法とはなにか 第2回 独占禁止法の意義 第3回～第4回 独占禁止法違反事件例・・・不当な取引制限 第5回 流通系列化と化粧品業界 第6回 医薬品業界と独占禁止法 第7回 自動車製造業と独占禁止法 第8回 コンビニ業界と独占禁止法 第9回～第10回 中小企業の競争力と中小企業法制 第11回 知的財産権法制 知的財産権とはなにか 第12回 著作権法の概要 第13回 特許法の概要 第14回～第15回 市場経済と独占禁止法・知的財産権法
履修上の注意	特になし
教科書	特に指定しない。
参考書	講義時に指示する。
成績評価方法	評価は最終筆記試験の成績による。 講義の内容が概ね理解できていれば60点。 講義時に指示した文献等に自分でアクセスし、講義内容を深めていれば70点。 講義で獲得した評価の視点で、講義内容を分析し、その結果を表現できれば80点以上となる。

科目名	労働法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0420	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	わたしたちは、働くことによって生活の糧を得るのであり、また、多くの時間を労働に費やしているのであるから、雇用関係を規制する法を知っておくことはきわめて重要である。具体的には、採用内定や試用期間、人事といった職業生活の各場面について、どのような法規制がなされているのかを考えてみることにしたい。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 労働法の理念を学ぶ。 (2) 労働法をめぐる当事者(労働者、労働組合、使用者)の関係について理解を深める。 (3) 労働条件を規制するもの(労働契約、就業規則、労働協約)の関係について理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 はじめに、労働法とは何か 第 2 回 労働契約の意義・労働法の適用対象 第 3 回 労働契約と労働者の権利義務 第 4 回 募集と採用 第 5 回 労働条件の決定(1) 第 6 回 労働条件の決定(2) 第 7 回 労働条件の変更(1) 第 8 回 労働条件の変更(2) 第 9 回 人事(1)配転、出向 第 10 回 人事(2)転籍 第 11 回 人事(3)懲戒処分 第 12 回 労働時間(1)労働時間の定義 第 13 回 労働時間(2)弾力的な労働時間 第 14 回 休憩、休日、年次有給休暇(1)休憩、休日 第 15 回 休憩、休日、年次有給休暇(2)年次有給休暇
履修上の注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ労働法 もつづけて履修してもらいたい。
教科書	『基礎から学ぶ労働法 第3版』金子征史ほか著、エイデル研究所(平成24年) 『労働関係法規集 2013年版』労働政策研究・研修機構編、労働政策研究・研修機構(平成25年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	労働法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0430	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、労働法 につづけて、賃金や雇用平等などに関してどのような法規制がなされているかを見ていくこととする。おわりに、労働法の規制の要ともいえる、解雇を中心とした労働契約の終了について学ぶこととする。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 労基法を中心とした法律が、どのように労働関係を規制しているかを学ぶ。 (2) 近時問題となっている非正規労働者の処遇について理解する。 (3) 解雇を中心とした労働契約の終了につき、判例及び法令上どのような法規制がなされているかを理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 はじめに、賃金(1) 賃金の定義、賃金支払いの原則(1) 第 2 回 賃金(2) 賃金支払いの原則(2)、最低賃金 第 3 回 賃金(3) 賞与、退職金 第 4 回 雇用平等 第 5 回 非正規労働者の処遇(1) パートタイム労働 第 6 回 非正規労働者の処遇(2) 派遣労働 第 7 回 仕事と生活の調和 第 8 回 営業譲渡と労働契約 第 9 回 労働安全衛生 第 10 回 労災補償 第 11 回 労働契約の終了(1) 労働契約の終了事由 第 12 回 労働契約の終了(2) 解雇(1) 第 13 回 労働契約の終了(3) 解雇(2) 第 14 回 労働契約の終了(4) 有期契約の雇い止め 第 15 回 労働契約の終了(5) 労働契約終了後の法規制
履修上の注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては労働法 を事前に履修してほしい。
教科書	『基礎から学ぶ労働法 第3版』金子征史ほか著、エイデル研究所(平成24年) 『労働関係法規集 2013年版』労働政策研究・研修機構編、労働政策研究・研修機構(平成25年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	基礎法学	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0431	担当教員	緒方 賢一	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>法学を学ぶ際、法律用語や条文、あるいは判例など、とにかく知識を増やすことが重要だと考えがちです。もちろん、法律を実際に利用する場合に法的知識や解釈力は欠かせないものですが、現実の社会関係において法がどのように位置づけられるか、法と社会（あるいは私たち市民）との関係はどのようなものであるのかという基本認識を持つことも重要です。</p> <p>本講義では、法と社会の現実の関係について「法社会学」的な視点から検討し、社会の中で法がどのような機能を果たしているのかを検討対象として、法の現実を理解していきます。</p>
授業の進め方	<p>レジュメにもとづいて基本的な問題状況を講義形式で説明し、皆さんにじっくり考えてもらう時間をとりながら授業を進めていきます。</p> <p>授業開始時に出席確認を兼ねたペーパー（出席確認カード）を配布し、毎回簡単な課題への回答および感想等を書いてもらいます。</p> <p>講義中および講義後の質問はもちろん歓迎します。</p> <p>毎回の出席確認カード提出のほかに、講義の区切りのところで簡単なレポートを書いてもらいます。すべての講義終了後、期末試験（テストまたはレポート）を行います。</p>
達成目標	<p>(1) 法学の基本的分類と法社会学の法学上の位置づけについて理解できる。</p> <p>(2) 法と社会の関係について法社会学的な視点から理解することができる。</p> <p>(3) 社会的現実の中での法のあり方を考えることができる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>法社会学の基本的な考え方、問題へのアプローチの仕方についてまず学び、その後土地制度および民法のの歴史的な展開を一通り学んだ後、現代的な状況の中でどのような法的課題があるかについて考えます。</p> <p>第 1 回 法学・法社会学の基礎 第 2 回 継受法としての民法の基礎構造 第 3 回 土地制度の展開（1）近代的所有権の絶対性 第 4 回 土地制度の展開（2）所有権に対する制限 第 5 回 土地制度の展開（3）地域的公序に基づく土地所有権の管理 第 6 回 農地制度が抱える現代的課題 第 7 回 コモンズとしての入会の現代的役割 第 8 回 家族と法の展開過程 第 9 回 家族の法の現代的諸課題 第 10 回 過失責任主義の限界と制限 第 11 回 過失責任主義を超えて 第 12 回 漁業・漁村・漁業権のあり方 第 13 回 企業社会と中間団体論 第 14 回 司法制度と日本人の法意識 第 15 回 まとめ</p> <p>講義1回につき一つのテーマを扱う予定ですが、次回にまたがる場合もあります。 また、担当教員の判断・皆さんのリクエストによって順序を変更したり、テーマを変更することもあり得ます。</p>
履修上の注意	<p>基礎法学のうち、法社会学に関する講義です。法的な知識があることを講義の前提とはしませんが、法律問題に関心のある学生の受講を歓迎します。</p>
教科書	<p>毎回レジュメを配布しますので、教科書は特にありません。</p>
参考書	<p>テーマごとに適宜紹介しますが、さしあたり『法社会学への誘い』 榎野達雄・榎澤能生編、法律文化社(2002年)、『地域農業の再生と農地制度』 原田純孝編著、農文協(2011年)を読んでおく講義内容の理解がしやすくなります。</p>
成績評価方法	<p>期末試験（60%）、小課題（20%）、講義への参加姿勢（20%）で総合評価します。配点の若干の変更はあり得ます。</p>

科目名	基礎法学	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0432	担当教員	寺田 博	所属	元高知短期大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本国憲法第97条に規定されている「基本的人権の本質」、すなわち「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、過去幾多の試練に堪え、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである」、および12条の「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」の両規定の意義を基礎法学的に、すなわち法制史、法社会学、法哲学の視点から検討し、日本国憲法の歴史的、現代的意義をとくに労働と生活保障の権利に焦点をあてて講義する。																		
授業の進め方	授業はレジュメと資料にもとづいて行う。レジュメ、資料はその都度授業で配布する。																		
達成目標	(1)法学を学ぶ上で実定法だけではなく、法制史、法哲学、法社会学などの法学の基礎となる分野のあることを理解する。 (2)憲法の原理のなかの柱の一つである「基本的人権」について、労働と生活保障の権利を中心に、法解釈論ではなく人権の「形成」、「展開」、「発展」の視点から理解する。 (3)歴史的に形成されてきた基本的人権が現代社会においてどのような問題を抱えているかを法社会的に検討し、基本的人権の現代的意義について理解する。 (4)法学を学ぶことが私たち国民1人1人の「豊かな生活」を実現することと密接に関連していることを理解する。 (5)日本国憲法「改正」が政治的に論ぜられている今、日本国憲法の役割と意義を理解する。																		
授業計画 (講義の具体的内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 基礎法学 のオリエンテーション 基本的人権とその歴史、哲学、法社会的 検討</td> <td>第11回 日本国憲法の現在 雇用と労働者の権利</td> </tr> <tr> <td>第2回 基本的人権の形成 その「普遍性」 ・国民主権は「人類普遍の原理」である、 ・基本的人権は「人類の多年にわたる自由獲 得の努力の成果」である、 ことの意味</td> <td>第12回 働き方の変化と労働者の権利 第13回 国民生活の現実と国民の生活保障 第14回 教育と国民の教育を受ける権利保障 第15回 まとめ 憲法「改正」論と憲法の現代的意義</td> </tr> <tr> <td>第3回 日本における基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 天皇制</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と臣民</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回 「戦後改革」と日本国憲法 「戦争」と基本的人権</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回 日本国憲法のめざしたもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回 日本国憲法のめざしたもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回 日本社会の変化と日本国憲法 高度経済成長と基本的人権</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回 「構造改革」と基本的人権</td> <td></td> </tr> </table>	第1回 基礎法学 のオリエンテーション 基本的人権とその歴史、哲学、法社会的 検討	第11回 日本国憲法の現在 雇用と労働者の権利	第2回 基本的人権の形成 その「普遍性」 ・国民主権は「人類普遍の原理」である、 ・基本的人権は「人類の多年にわたる自由獲 得の努力の成果」である、 ことの意味	第12回 働き方の変化と労働者の権利 第13回 国民生活の現実と国民の生活保障 第14回 教育と国民の教育を受ける権利保障 第15回 まとめ 憲法「改正」論と憲法の現代的意義	第3回 日本における基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 天皇制		第4回 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と臣民		第5回 「戦後改革」と日本国憲法 「戦争」と基本的人権		第7回 日本国憲法のめざしたもの		第8回 日本国憲法のめざしたもの		第9回 日本社会の変化と日本国憲法 高度経済成長と基本的人権		第10回 「構造改革」と基本的人権	
第1回 基礎法学 のオリエンテーション 基本的人権とその歴史、哲学、法社会的 検討	第11回 日本国憲法の現在 雇用と労働者の権利																		
第2回 基本的人権の形成 その「普遍性」 ・国民主権は「人類普遍の原理」である、 ・基本的人権は「人類の多年にわたる自由獲 得の努力の成果」である、 ことの意味	第12回 働き方の変化と労働者の権利 第13回 国民生活の現実と国民の生活保障 第14回 教育と国民の教育を受ける権利保障 第15回 まとめ 憲法「改正」論と憲法の現代的意義																		
第3回 日本における基本的人権 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と 天皇制																			
第4回 「戦前」とは何であったのか 明治憲法と臣民																			
第5回 「戦後改革」と日本国憲法 「戦争」と基本的人権																			
第7回 日本国憲法のめざしたもの																			
第8回 日本国憲法のめざしたもの																			
第9回 日本社会の変化と日本国憲法 高度経済成長と基本的人権																			
第10回 「構造改革」と基本的人権																			
履修上の注意	基礎法学 とは別個の講義であり、関連性はない。したがって、シラバスを参照して履修をきめればよい。																		
教科書	教科書は使わない。																		
参考書	参考書は授業のテーマとの関係でその都度紹介する予定																		
成績評価方法	成績評価は試験結果で判定する。試験は記述式とする。 試験70% 講義への参加姿勢30%																		

科目名	国際法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0433	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際法の基本的事項である条約及び慣習法を中心に学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で行います。適宜レジユメを配布し、それにそって講義を進めます。
達成目標	(1)国際法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を理解できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づいて分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 国際法とは何か 役割 第2回 国際法とは何か 歴史 第3回 国家 成立要件 第4回 国家承認 第5回 国家免除 第6回 外交関係・領事関係 第7回 国際機関 (第1回小テスト) 第8回 国際法の法源 条約 第9回 国際法の法源 慣習法 その他 第10回 条約法 締結 第11回 条約法 効力、留保 第12回 国際法と国内法の関係 第13回 国家責任 国際違法行為 第14回 国家責任 違法性阻却事由・外交的保護 第15回 領土 (第2回小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	『国際法(第2版)』中谷和弘他著、有斐閣アルマ(2011年)、『ベーシック条約集(2011年版)』松井芳郎他編、東信堂(2011年)、講義開始前後に最新の条約集(2013年版)が販売されるであろうが、購入される場合そちらを購入していただきたい。
参考書	『国際法学講義』杉原高嶺著、有斐閣(2008年)、『講義国際法(第2版)』小寺彰他編、東京大学出版会(2010年)、『新版国際法』山本草二著、有斐閣(1994年)、『プラクティス国際法』柳原正治他著、信山社(2010年)、『国際法』中谷和弘他著、有斐閣アルマ(2006年)、『国際法(第5版)』松井芳郎他著、有斐閣sシリーズ(2007年)
成績評価方法	講義を補強する教材として以下のものがよい。『国際関係法辞典』国際法学会編、三省堂(2005年)、『国際法判例百選』山本草二他編、有斐閣(2001年)、『判例国際法』松井芳郎他編、東信堂(2006年)

科目名	国際法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0434	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際刑事法、環境法、経済法といった国際法の個別分野について学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で行います。毎回レジメを配布し、それに沿って講義を進めます。
達成目標	(1)国際法の個別領域を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を分析できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づき自分で分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 海洋 第2回 海洋 第3回 空・宇宙 第4回 個人 個人の地位 第5回 個人 人権 第6回 国際刑事法 第7回 国際経済法 (第1回小テスト) 第8回 国際環境法 第9回 国際紛争の平和的処理 歴史的展開、解決手段 第10回 国際紛争の平和的処理 仲裁、司法 第11回 武力行使・経済制裁 第12回 武力紛争法 中立法 第13回 武力紛争法 ハーグ法 第14回 武力紛争法 ジュネーブ法 第15回 まとめ (第2回小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	『国際法第2版』中谷和弘他著、有斐閣アルマ(2011年)。条約集については必ず購入すること。以下の条約集が最も利用しやすい。『ベーシック条約集(2011年版)』松井芳郎他編、東信堂(2011年)。なお、講義開始前後に最新の条約集(2013年版)が販売されるであろうが、購入される場合そちらを購入していただきたい。
参考書	『国際法学講義』杉原高嶺著、有斐閣(2008年)、『講義国際法(第2版)』小寺彰他編、東京大学出版会(2010年)、『新版国際法』山本草二著、有斐閣(1994年)、『ブラクティス国際法』柳原正治他著、信山社(2010年)、『国際法』中谷和弘他著、有斐閣アルマ(2006年)、『国際法(第5版)』松井芳郎他著、有斐閣Sシリーズ(2007年)
成績評価方法	講義を補強する教材としては以下のものがよい。『国際関係法辞典』国際法学会編、三省堂(2005年)、『国際法判例百選』山本草二他編、有斐閣(2001年)、『判例国際法』松井芳郎他編、東信堂(2006年)

科目名	社会保障法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0440	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会保障は、現在、国民の大きな関心事となっており、これからも重要な法改正がなされていくであろうことは疑いようがない。本授業では、まず、社会保障の定義やその歴史を概観した上で、社会保険に焦点を当てて進めることとする(ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険は社会保障法 で扱うため、この授業では扱わない)。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 社会保障法の理念を学ぶ。 (2) 社会保障を構成する各制度について理解を深める。 (3) 受給者や要保障事由について理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 はじめに、社会保障とは何か 第 2 回 社会保障の歴史 第 3 回 医療保障(1) 保険関係 第 4 回 医療保障(2) 給付の種類 第 5 回 医療保障(3) 医療提供者 第 6 回 医療保障(4) 診療契約と保険診療 第 7 回 年金保険(1) 保険関係 第 8 回 年金保険(2) 老齢給付 第 9 回 年金保険(3) 障害給付 第 10 回 年金保険(4) 遺族給付 第 11 回 労災補償(1) 保険関係 第 12 回 労災補償(2) 給付の種類 第 13 回 労災補償(3) 労災民訴と労災保険の関係 第 14 回 雇用保険(1) 保険関係 第 15 回 雇用保険(2) 給付の種類
履修上の注意	社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ社会保障法 もつづけて履修してもらいたい。
教科書	『トピック社会保障法 第7版』本沢巳代子、新田秀樹編著、不磨書房(平成25年) 『社会保障法令便覧 2013』労働調査会出版局編、労働調査会(平成25年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で成績評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	社会保障法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0450	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、社会保障法の中でも社会保険以外の制度（社会福祉、社会手当及び公的扶助）に焦点を当てて授業を進めていくこととする（ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険はこの授業で扱う）。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 社会保障を構成する各制度について学ぶ。 (2) 受給者や要保障事由について理解する。 (3) 社会保障を支える当事者（利用者、サービス提供事業者、地方公共団体など）の関係を理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 はじめに、介護保険（1）保険関係 第 2 回 介護保険（2）給付の種類（1） 第 3 回 介護保険（3）給付の種類（2）、高齢者福祉 第 4 回 障害者福祉（1）障害者の定義と障害者総合支援法の給付（1） 第 5 回 障害者福祉（2）障害者総合支援法の給付（2） 第 6 回 障害者福祉（3）障害者福祉各法の概要（1） 第 7 回 障害者福祉（4）障害者福祉各法の概要（2） 第 8 回 児童福祉（1）保育所 第 9 回 児童福祉（2）児童虐待 第 10 回 単親家庭福祉、社会手当 第 11 回 生活保護（1）給付の種類 第 12 回 生活保護（2）申請手続と不服申立 第 13 回 社会福祉の基盤を支える法（1）社会福祉法と他の社会福祉サービス法との関係 第 14 回 社会福祉の基盤を支える法（2）社会福祉法人 第 15 回 社会福祉の実施体制
履修上の注意	社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては社会保障法 を事前に履修してほしい。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『トピック社会保障法 第7版』本沢巳代子、新田秀樹編著、不磨書房（平成25年） 『社会保障法令便覧 2013』労働調査会出版局編、労働調査会（平成25年）
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験（90%）、受講態度（10%）

科目名	法学特殊講義（不動産法概論）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0460	担当教員	竹村 克彦	所属	竹村克彦事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	不動産に関わる法律全般を受講者の学習進度に合わせ進め、土地家屋調査士、宅地建物取引業主任者等の資格試験に結びつく講義内容とする。
授業の進め方	不動産を取り巻く法律を実務レベルの視点から、希望する資格試験に対応する項目に可能な限り結び付けた講義を目指し、講師である私も受講生と共に学ぶ姿勢で進めたい。
達成目標	(1) 不動産を取巻く法規について、実務の中でどのように作用しているかなどの概要を理解する。 (2) 特に不動産登記記録を調査する基礎的な知識を修得する。 (3) 土地利用に関して、用途の転用、権利の移転、また、単に建物を建築するなどの場合、不動産の法的、並びに、物理的な状況を把握する基礎知識を修得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	関係法令の重要条文の解説、並びに実務における条文の解釈に重点を置く。 第1回～第6回 不動産登記法（表示に関する登記） 立法趣旨（制度の役目・表示に関する登記の基本・手続き概要） 筆界に関する項目（概念・変遷・実務上の取扱・関係する制度） 測量に関する項目（測量技術の変遷・測量精度の考え方） 第7回～第8回 都市計画法（開発許可に関する内容・用途地域に関する内容） 第9回 農地法（農地の転用・農地の権利移転） 第10回 土地区画整理法（法的効果・登記法との関係） 第11回～第12回 建築基準法（基礎知識・実務における取扱） 第13回～第14回 事例研究 第15回 授業のまとめ
履修上の注意	民法第2編（物権）に関する知識がベースとなるので、予習をされていることが望ましい。広範囲にわたる内容となるので復習を励行し、意欲的に受講していただきたい。
教科書	特になし。必要に応じてレジュメを配布する。
参考書	不動産登記法：農地法：建築基準法：宅地建物取引業法：都市計画法等が掲載されている六法
成績評価方法	講義内容に関するレポート、並びに、授業態度による。 【レポート内容の評価】 レポートにより講義内容の理解度を評価する。 講義終了後1週間以内に、講義内容に関するものを提出。（1200字以上） 【授業態度】講義内での質問の内容、参加姿勢により評価する。 【評価比率】レポート内容：60% 授業態度：40%

科目名	経済原論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0492	担当教員	頭川 博	所属	元高知大学人文学部教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>テーマ 剰余価値と資本蓄積</p> <p>資本の本質的な機能は、労働者を雇って剰余価値を生産することです。剰余価値は資本家に帰属するため、その生産は、労働者にとって、労働成果から剰余価値だけ取得分が落ちこむ貧困の形成を意味します。さらに、剰余価値の資本への再転化すなわち資本蓄積の過程では、資本そのものが増大するため、剰余価値は一層増大します。その結果、労働者のつくりだした労働成果のうち、かれには帰属しない落ちこみ分が増大し、貧困の蓄積が成り立ちます。そこで、この授業では、まず剰余価値生産のしくみから、資本家の富に対する労働者の貧困の形成をとり、次に、資本蓄積によって、富の蓄積に対応して、労働者の側に貧困の蓄積が成り立つゆえんを導きます。全体として、マルクス『資本論』第 巻（1867年刊行）の基本的なながれを解説しますので、社会科学系必修者にも興味をわかせ、『資本論』に触れたい適宜、受講までの読書箇所を参照本授業論状の文章深くを認るべきながれに添って準備します。</p>
授業の進め方	
達成目標	剰余価値生産のしくみの理解を土台にして、そこで形成される貧困が、資本蓄積においていっそう増大して、貧困の蓄積となるゆえんを会得すること。
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>授業は、次のような順序で進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業のテーマと計画の説明 2 商品の価値と価格（1） 3 商品の価値と価格（2） 4 貨幣の資本への転化 5 絶対的剰余価値の生産（1） 6 絶対的剰余価値の生産（2） 7 絶対的剰余価値の生産（3） 8 相対的剰余価値の生産（1） 9 相対的剰余価値の生産（2） 10 相対的剰余価値の生産（3） 11 資本蓄積と貧困の蓄積（1） 12 資本蓄積と貧困の蓄積（2） 13 資本蓄積と貧困の蓄積（3） 14 剰余労働消滅と個人的所有の再建 15 授業のまとめと試験発表 16 筆記試験
履修上の注意	経済学に関する予備知識は必要としません。きちんと授業に出席すれば理解できるように説明します。授業には欠かさず出席し、わからないところはそのつど質問するようにしてください。
教科書	必携テキスト 『資本と貧困』頭川博著、八朔社、2010年
参考書	
成績評価方法	授業での説明がどれだけきちんと理解されているかを、筆記試験によって評価します。

科目名	経済史	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0493	担当教員	柳川 平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	近世以降のヨーロッパとアメリカ合衆国を対象に、経済史の基礎概念と方法論を系統的に学びます。特に、近代世界システム論の新しい見方を紹介しながら、イギリス、オランダ、フランス、アメリカ合衆国等の近代化・工業化の過程を比較史的に考察し、あわせて南北問題の歴史的起源となる発展途上国の従属化過程を対比的に取り上げる予定です。
授業の進め方	主として、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年、部分的に扱うため購入の必要はありません）の代表的項目をとりあげ、統計資料を配付しながら講義形式で授業を進めます。ここにちのグローバル資本主義に至る経済の歩みを、できる限りビデオ等のビジュアル資料を活用しながらイメージ的にもとらえられるよう心がけたいと思います。
達成目標	(1)経済史学にとって重要な諸概念(例えば重商主義・古典派経済学等)を理解できるようにする。 (2)欧米と日本を比較しながら比較経済史の分析手法を学ぶ。 (3)近世・近代の比較経済史に関わる代表的理論や経済学史上重要な学説の背景を知り、その特色を把握する
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下の事項を中心にして、各回配布の資料プリントを用いながら、検討を試みる。 第1回 はじめに（授業ガイダンスと問題提起：リーマンショックからユーロ危機へ） 第2回 序論（現状分析と理論的把握の必要性：二つの発展段階論の限界と破綻） 第3回 理論的前提（発想の転換：堺憲一『あなたが歴史に出会うとき』を手がかりに） 第4回 「商業革命」（大航海時代の開始による貿易構造の大転換） 第5回 「近代世界システム」の成立とオランダのヘゲモニー（「覇権」）確立 第6回 二つの「重商主義」（イギリスを例に） 第7回 ブルジョワ革命の課題（フランスの場合） 第8回 イギリス産業革命の歴史的前提 第9回 イギリス産業革命とアメリカ合衆国 第10回 鉄道業の成立と後発資本主義諸国の産業革命 第11回 「世界の工場」イギリスと「19世紀アジアの三角貿易」 第12回 特論：日本の「近代化」と鉄道業、土佐電気鉄道創業の意義 第13回 中南米・アフリカの「従属化」過程 第14回 大恐慌とニューディール 第15回 展望
履修上の注意	高等学校公民の政経もしくは現代社会、あるいは地歴世界史A程度の基礎知識を前提としますが、講義時に適宜紹介する入門的参考文献等を付属図書館等で参照していただければ未履修でも充分に対応可能です。
教科書	購入の必要はありませんが、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年）の一部を参考にしながら講義し、毎回統計地図資料などのプリントを配布の予定。
参考書	『イギリス近代史講義』川北稔著、講談社現代新書（2010年）、『フランス革命とヨーロッパ』塚塚忠躬他編、同文館（1996年）第5章「プロイセン改革期の営業の自由政策の特質」（柳川平太郎）など
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。

科目名	ミクロ経済学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0494	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	ミクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 政府が市場に介入しない方がいい場合と政府が市場に介入した方がいい場合について理解できるようになる。 (2) 政府が市場に介入した方がいい場合の一つとして、独占について考えることができるようになる。 (3) 政府が市場に介入した方がいい場合の一つとして、外部性がある場合や公共財について考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 第2回 生産の費用 第3回 競争市場における企業1 第4回 競争市場における企業2 第5回 競争市場における企業3 第6回 弾力性と限界収入 第7回 独占1 第8回 独占2 第9回 独占3 第10回 外部性1 第11回 外部性2 第12回 外部性3 第13回 公共財1 第14回 公共財2 第15回 おわりに
履修上の注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」を履修済みか履修中、もしくはその知識を修得済みか修得しようとしていることが望ましい。
教科書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年)
参考書	『ミクロ経済学 市場の失敗と政府の失敗への対策』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年)
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	マクロ経済学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0495	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	マクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 経済データの見方が分かるようになる。 (2) 経済成長について考えることができるようになる。 (3) 景気変動と財政・金融政策の効果を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回はじめに 第2回マクロ経済学のデータ1:国民所得の測定 第3回マクロ経済学のデータ2:生計費の測定 第4回長期の実物経済1:生産と成長 第5回長期の実物経済2:貯蓄、投資と金融システム 第6回長期の実物経済3:ファイナンスの基本的な分析手法 第7回問題演習 第8回長期における貨幣と価格1:貨幣システム 第9回長期における貨幣と価格2:貨幣量の成長とインフレーション 第10回短期の経済変動1:総需要と総供給 第11回短期の経済変動2:総需要に対する金融・財政政策の影響 第12回短期の経済変動3:乗数効果とIS-LM分析 第13回短期の経済変動4:金融政策と財政政策 第14回問題演習 第15回おわりに
履修上の注意	2010年度以前の「国民所得論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 積極的に演習問題に取り組むこと。 「経済学」を履修済み、もしくはそれに相当する知識を修得していること。
教科書	『マンキュー経済学 マクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年)
参考書	『マクロ経済学』吉川洋著、岩波書店(2009年)
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	国際経済論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0497	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化とか、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、グローバル化の歴史と現段階を総括的に見た上で、おカネの動き、国際通貨問題に焦点をあて、グローバル化の意味を検討します。またそのために国際収支や為替相場など基礎的事項を学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。
達成目標	(1) 国際的な取引の基本的性格、国際収支の基本的考え方について理解を得る (2) 為替市場と為替相場についての基本的な理解を得る (3) 戦後の国際通貨体制の特徴と現在の問題について基礎的な理解を得る (4) 国際通貨問題への関心を深める
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね次のように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。 第1回 オリエンテーション - グローバリゼーションとは 第2回 グローバリゼーションの起源と歴史 - 原動力 第3回 グローバリゼーションの起源と歴史 - その歩み 第4回 グローバリゼーションの現段階 第5回 国際取引と国際収支 - 国際取引とは何か？ 第6回 国際取引と国際収支 - 赤字と黒字どちらが得？ 第7回 国際収支と為替相場 - 為替とは何か？ 第8回 国際収支と為替相場 - 為替相場はどう決まる？ 第9回 国際収支と為替相場 - 円高・円安の影響は？ 第10回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦前から戦後への大転換 第11回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦後のIMF体制の基本特徴 第12回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 固定相場制から変動相場制へ 第13回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 資本移動の拡大とその影響 第14回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 不安定化するドルと国際通貨協力 第15回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 欧州通貨統合とアジアでの通貨協力 以上の講義を踏まえ、期末試験を行います。
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけの受講でもかまいません。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義の中で適宜指示します。
成績評価方法	試験(80%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。

科目名	国際経済論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0498	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化とか、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、モノの動き、国際貿易に焦点をあて、自由貿易を理念とする戦後の通商体制(GATT・WTO)とその下での貿易の拡大がどのような役割を果たしてきたかを考えます。
授業の進め方	講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。
達成目標	(1) 戦後自由貿易理念が登場する背景を理解する (2) 戦後自由貿易を促進してきたGATT・WTOの基本的な仕組みとルールを理解する (3) GATT・WTOの役割や課題について考える (4) 自由貿易の利益と問題点について考える
授業計画 (講義の具体的 内容)	概ね次ように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。 第1回 オリエンテーション - グローバル化はどこまで来たか？ 第2回 戦後世界とGATTの成立 第3回 GATT・WTOの貿易原則 第4回 GATT・WTOの貿易原則とその例外 第5回 GATTからWTOへ 第6回 WTO交渉の現状 第7回 GATT・WTOの理念と現実 - そのギャップ 第8回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易の理論：比較生産費説とは？ 第9回 GATT・WTOと南北問題 - 一次産品問題と途上国の自由貿易への反発 第10回 GATT・WTOと南北問題 - 資源をもつ国は強いのか？ 第11回 GATT・WTOと南北問題 - アジア途上国の成長と自由貿易の受容 第12回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易のメリットとデメリット 第13回 自由貿易と地域統合 - GATT・WTOと地域統合 第14回 自由貿易と地域統合 - 日本とアジアの地域統合の動き 第15回 自由貿易と現代：食糧問題、環境問題、労働問題
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらからだけを受講してもかまいません。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義の中で適宜指示します。
成績評価方法	レポート(60%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。

科目名	財政学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0499	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現在、日本の財政は国・地方ともに厳しい財政事情にある。しかしながら、少子高齢化やグローバル化等に対応した福祉政策や産業政策の構築が急がれている。本講義では、財政と政策の関連性を理解し、自治体の財政システムを学ぶとともに、納税者としての意識の醸成にも取り組んでいきたい。
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	(1) 自治体財政の概要を把握する。 (2) 財政と政策の関連性を理解する。 (3) 税のあり方、税の使われ方を考える。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 なぜ、自治体財政を学ぶのか 第3回 地方税の概要 第4回 地方交付税、国庫補助金の仕組み 第5回 地方債 - 自治体の借金 第6回 予算編成とは 第7回 自治体の予算を解読してみる 第8回 財政診断 - 決算からわかること 第9回 行政評価の現状と課題 第10回 地域づくりと自治体の役割 第11回 住民サービスと自治体財政 第12回 業務の民間委託・指定管理者制度 第13回 ケーススタディ 公営バス 第14回 ケーススタディ 企業誘致の効果 第15回 まとめ
履修上の注意	自治体財政や自治体の住民サービスに興味を有していることが望ましい。 私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	『自治体財政のツボ』小西砂千夫著、関西学院大学出版会（2007） 『図解 よくわかる自治体財政のしくみ』肥沼位昌著、学陽書房（2008）
成績評価方法	期末レポート（80%）と講義への参加姿勢（20%）より評価する。

科目名	財政学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0500	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	財政はすべての国民にとって身近な問題である。しかし、日本の財政は多くの課題を抱え、公共サービスのあり方や消費税の増税などの改革が議論されている。本講義では、経済学の視点から財政の理論を学ぶとともに、社会保障などの諸問題を考えていきたい。
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	(1) 財政の役割と課題を理解する。 (2) 日本財政の現状を認識する。 (3) 日本財政に対する課題意識を深める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 財政の現状 第3回 財政の役割 第4回 財政の理論 市場の失敗・外部性 第5回 財政の理論 公共財 第6回 財政再建 小さな政府と行政改革 第7回 租税の概要 第8回 公債の発行 第9回 消費税の値上げ論 第10回 望ましい税制に向けて 第11回 企業課税と経済のグローバル化 第12回 国と地方の財政関係 地方分権 第13回 国と地方の財政関係 財政健全化法 第14回 社会保障制度の再構築 第15回 まとめ
履修上の注意	私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	『Basic現代財政学』重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編、有斐閣ブックス(2009) 『財政学』佐藤主光著、放送大学教育振興会(2010)
成績評価方法	期末レポート(80%)と講義への参加姿勢(20%)より評価する。

科目名	金融論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0501	担当教員	松本 朗	所属	立命館大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>本講義のテーマ：金融理論の基礎を学び、現代の貨幣金融問題を考える</p> <p>本講義の概要：現代経済を考える場合、貨幣金融問題は避けては通れない重要な問題です。本講義では、金融の基礎を学ぶと同時に、現代の貨幣金融問題を考えていきます。講義では、貨幣の本質と機能から始まり、中央銀行政策までを学びます。</p>
授業の進め方	講義形式で行います。講義中、適宜質問をしながら、双方向の講義に心がけたいと思います
達成目標	<p>本講義の獲得目標：金融の基礎理論の習得およびその応用</p> <p>社会経済学のスタンスで現在の貨幣金融問題を考える基礎力を養うことをが目標となる</p> <p>目の前で起こっていることをそのまま捕らえるのではなく、なぜそのようなことが起こるのかを考える力を身につけてください。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回イントロダクション（講義のテーマ・目標・内容・進め方）、履修の仕方・心構え、試験についてなど）</p> <p>第2回現代のマネーとは何か（預金、小切手、手形、銀行券、硬貨、補助貨）</p> <p>第3回貨幣の本質と機能（価値尺度、流通手段、蓄蔵貨幣、支払手段、世界貨幣）</p> <p>第4回なぜ預金はマネーなのか（信用の本質、信用貨幣、ペイメントシステム）</p> <p>第5回資本と信用（資本とは何か、資本の運動と信用の機能）</p> <p>第6回利子生み資本（利子生み資本の本質、企業者利得、利率）</p> <p>第7回銀行のとは何だろうか（1）(資本としての銀行、貨幣取り扱い資本としての銀行)</p> <p>第8回銀行とは何だろうか（2）(利子生み資本としての銀行、信用創造)</p> <p>第9回金融市場と銀行（金融市場の種類、金融市場の役割、長期金利と短期金利）</p> <p>第10回中央銀行（国家、中央銀行、中央銀行の独立性）</p> <p>第11回金融政策（マネーサプライ、公定歩合政策、公開市場操作、預金準備率操作）</p> <p>第12回国債累積と金融の量的緩和政策（国債、買いオペレーション、ゼロ金利、時間軸）</p> <p>第13回擬制資本の理論（擬制資本、資本還元、金融資産、証券化）</p> <p>第14回インフレーションとデフレーションの経済学1（インフレとデフレの定義、代表金量、価格標準）</p> <p>第15回インフレーションとデフレーションの経済学2（インフレとデフレの非対称性、資産インフレ論）</p>
履修上の注意	集中講義期間中であれば、昼夜問わずいつでも質問にお答えします。
教科書	『入門金融経済』松本朗著、駿河台出版社
参考書	『大月金融辞典』などがあると便利です。その他の参考書は、講義中に指示します
成績評価方法	授業への参加姿勢および最終試験の結果で行います

科目名	農業経済論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0502	担当教員	岩佐 和幸	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>スーパーやファーストフードに象徴されるように、私たちの「食」は、日本のみならず世界各地の「農」と結びついています。しかし、こうした「食」と「農」のグローバル化は、安全性問題や産地間競争の激化をもたらすとともに、地産地消のようなローカルな動きを再活性化させています。また、最近は食料高騰やバイオ燃料の登場、ランドラッシュの進行に伴って世界的な食料危機の兆しも表れており、食と農がますます切実な問題になってきています。</p> <p>本講義では、グローバル化時代の「食」と「農」について、アグリビジネス論の視点から紹介し、今後の展望について一緒に考えてみたいと思います。</p>
授業の進め方	<p>基本的にはオーソドックスな講義形式を予定していますが、一部ワークショップ方式など、双方向型授業を適宜取り入れたいと考えています。</p>
達成目標	<p>(1) 農業・食料生産の歴史と現状について、グローバルかつローカルな視点から理解できようになる。 (2) 農業と食料の今後について、当事者の視点から関心を持ち、自らの主張を持てるようになる。 (3) 日常生活や地域において、持続可能な農業・食料に関心を持ち、実践に挑戦できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 農業・食料問題をみる視角 第3回 食生活の変貌とその影響 第4回 食の外部化とフードビジネス 第5回 映像で見るアグリビジネスと農業・食料 第6回 国際化と日本農業・農政の展開 第7回 農産物自由化・食料輸入大国化とアグリビジネス 第8回 日本と世界を結ぶモノ：バナナ 第9回 日本と世界を結ぶモノ：ヤシ 第10回 日本と世界を結ぶモノ：コーヒー 第11回 日本と世界を結ぶモノ：水産物 第12回 グローバル化と農業・食料：途上国における輸出指向型農業と産地の変貌 第13回 グローバル化と農業・食料：回転寿司と地域 第14回 グローバル化時代の農業・食料問題：課題と展望 第15回 グローバル化時代の農業・食料問題：課題と展望</p> <p>基本的には、以上の順で行います。 毎回レジュメを配布する他、講義と関連する内容のビデオもお見せする予定です。</p>
履修上の注意	なし
教科書	なし
参考書	<p>『現代の食とアグリビジネス』大塚茂・松原豊彦編、有斐閣（2004年）『利潤への渴望：農業経営者・食料・環境に対するアグリビジネスの脅威』F・マグドフほか編、大月書店（2004年）『燃料が食料か：バイオエタノールの真実』坂内久・大江徹男編、日本経済評論社（2008年）</p>
成績評価方法	<p>期末レポート試験（10割）に加えて、小レポート等の提出もプラスアルファ（10～20点）として、評価に加味したいと思います。</p>

科目名	日本経済論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0503	担当教員	鈴木 啓之	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	近年の日本経済の状況を理解するために、日本の企業経営の特徴、産業構造と企業間関係の特徴、金融業・金融市場の変化などを中心として講義します。 この授業では、(1)日本に関する経済ニュースを理解できるような前提的知識を獲得すること、(2)経済原論等の専門科目を学ぶ際に前提となるような日本経済に関するイメージを持ってもらうこと、(3)最終的に社会人の常識として知っておくべき、日本経済の中心をなす企業経済の特徴を理解してもらうこと、の3点を目的とします。
授業の進め方	講義レジュメを配布し、それに沿って講義を行います。教科書は使いません。受講者の皆さんの疑問を解決するため、できる限り質問の時間を設けたいと思います。
達成目標	
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下のような項目を予定している (1)オリエンテーション 授業の目的・授業計画等の説明 (2)日本経済の歩みと現在 (3)「日本的経営論」の原型 終身雇用・年功制・企業別組合 (4)「日本的経営論」の展開1 生産管理と日本的経営 (5)「日本的経営論」の展開2 人事政策・経営組織 (6)「日本的経営論」の展開3 賃金・雇用政策の変化 (7)日本企業の企業間関係1 企業間関係論の基礎 (8)日本企業の企業間関係2 二重構造と系列取引 (9)日本企業の企業間関係3 企業集団の形成と再編 (10)戦後日本の金融市場とその変容1 (11)戦後日本の金融市場とその変容2 (12)戦後公共政策の転換1 70年代のスタグフレーションと経済政策 (13)戦後公共政策の転換2 新自由主義と福祉国家の衰退 (14)世界経済の構造変化と日本経済 (15)まとめ
履修上の注意	経済ニュースに目を配ってもらい、できるかぎり新聞の経済欄等は予習・復習のために読むようにして頂きたい。また参考文献は適宜追加するつもりなので、それを学習して頂きたい。
教科書	指定しない
参考書	『日本型資本主義と市場主義の衝突』ロナルド・ドーア著、東洋経済新報社(2001年、2,400円) その他、講義で知らせます。
成績評価方法	試験60%、講義への参加姿勢40%で総合的に評価します。

科目名	経済政策論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0505	担当教員	石筒 寛	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本の経済発展に経済政策がどのような役割を果たしてきたかを考える。
授業の進め方	サブテーマを設け講義を行うとともに、各テーマにおいてグループディスカッションを行います。
達成目標	(1) 経済政策がなぜ行われる必要があるのかを理解できる。 (2) 経済における市場と政府の役割の違いを理解できる。 (3) 経済政策の現代的課題について理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第 1 回 イン트로ダクション 経済政策論の対象とは？</p> <p>第 2 回 経済政策論の基礎 1 経済政策の必要性 第 3 回 経済政策論の基礎 2 政府と企業 第 4 回 経済政策論の基礎 3 市場経済とは？ 第 5 回 経済政策論の基礎 4 グループディスカッション 第 6 回 経済政策論の基礎 5 ディスカッションの振り返り</p> <p>第 7 回 日本の経済発展と経済政策 1 幕末と明治初期の経済的背景 第 8 回 日本の経済発展と経済政策 2 戦後復興と高度経済成長 第 9 回 日本の経済発展と経済政策 3 グループディスカッション 第 10 回 日本の経済発展と経済政策 4 ディスカッションの振り返り</p> <p>第 11 回 経済政策の現場から 1 経済成長理論と現実 第 12 回 経済政策の現場から 2 景気と経済政策 第 13 回 経済政策の現場から 3 グループディスカッション 第 14 回 経済政策の現場から 4 ディスカッションの振り返り</p> <p>第 15 回 まとめ</p>
履修上の注意	グループディスカッションでは、3名から5名が1つのグループになり、共通のテーマについて議論します。ディスカッションが行われる日は、ディスカッション振り返りペーパーを実施しますので、欠席しないように注意してください。なお、日程については、講義初日に確認をします。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
成績評価方法	期末試験(60%)、ディスカッション振り返りペーパー(30%; グループディスカッションを欠席すると提出できません)、授業中に実施するレポート(10%)を成績評価の対象とします。全体で60%以上のポイントを獲得した受講生に単位を認定します。

科目名	地域経済論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0506	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	わが国は少子高齢化の時代を迎え、地域がその特性に合わせた政策運営を行うことが求められ始めている。本講義は、地域経営が抱える課題とその背景を包括的に学習したのち、自治体、企業、地域のコミュニティなどの多様な組織や種々な資源を動員して、いかにその最適化を図りながら持続可能な地域社会を形成するかを検討する。
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	(1) 地域経済の課題を把握する。 (2) 地域経済の活性化策の考え方を理解する。 (3) 受講生が考える「地域」の地域経済活性化をイメージする力を醸成する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 地域経営の視点 第4回 地域経営の方針：自治体の総合計画 第5回 地域経営と産業振興：エコノミックガーデニング 第6回 産業集積論：知識創造と学習 第7回 自治体のまちづくり：ケーススタディ 企業誘致 第8回 自治体のまちづくり：ケーススタディ アート（芸術） 第9回 自治体のまちづくり：ケーススタディ 環境モデル 第10回 社会的企業の存在 第11回 地域雇用：場：中小企業 第12回 場とネットワーク 第13回 地域のデザイン 創発力 第14回 地域のデザイン マネジメント 第15回 まとめ
履修上の注意	日頃から身近な地域の出来事やニュースについて関心を持つよう心掛けて欲しい。 私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	『地域づくりの経済学入門』岡田知弘著、自治体研究社（2005） 『地域産業政策 自治体と実態調査』植田浩史ほか編著、創風社（2012）
成績評価方法	期末レポート（80%）、講義への参加姿勢（20%）より総合的に評価する。

科目名	経済学特殊講義（協同組合論）	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0545	担当教員	杉本 貴志	所属	関西大学商学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>規制緩和が声高に叫ばれるなか、そこで理想とされる徹底した自由競争の世界に、皆さんは魅力とともに不安をも感じることはないでしょうか。「リストラ」「派遣切り」「内定取り消し」などで会社を放り出された人々の悲惨な境遇、失業者や破産者の痛ましい自殺などを新聞やニュースで目にして、これは他人事ではないという思いを抱いた人も多いでしょう。</p> <p>200年程前、産業革命期のイギリスで協同組合の設立に立ち上がった人々は、まさにそうした思いから、競争社会に代わる「協同」の社会を建設することを夢見たのです。以後、協同組合運動は劇的な発展を遂げ、今日では全世界で10億人も組合員を抱える巨大な事業・運動体へと成長しています。</p> <p>この講義では、とくに日本の生活協同組合を例に挙げ、そうした協同組合の思想、運動、組織、事業、ガバナンスを見直し、活用するほか、毎週刊の事業関係課題と可能性を配布し、これを扱った協同組合の発展に際して環境問題への貢献などで大きな成果をあげてきました。ところが最近、安全を売り物にしてきたコープの餃子に農薬が混入するなどという事件が起こっています。なぜこんなことが起こるのでしょうか。福島原発事故を受けて、東北の農産物と農業者に対して、生協はどういう態度を取っているのでしょうか。労働者が報われる社会を目指していたはずの協同組合で、実際に働いている人々の境遇はどうなっているのでしょうか。</p> <p>歴史や理念と現実とを照らし合わせることで、協同組合の課題と可能性を検討し、現代の社会経済を考えるための一助としたいと考えています。</p>
授業の進め方	
達成目標	<p>(1) 生活協同組合のあゆみを把握する。</p> <p>(2) 生活協同組合の現状を知る。</p> <p>(3) 協同組合を見ることによって、現代の社会経済が抱える課題と解決策を自らの視点で論じられるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>(1) ロッチデールの先駆者達</p> <p>(2) 日本への移植</p> <p>(3) 戦後生協運動の歴史</p> <p>(4) 共同購入</p> <p>(5) 個配</p> <p>(6) 店舗</p> <p>(7) コープ商品</p> <p>(8) 産直</p> <p>(9) 表示問題</p> <p>(10) 単協のガバナンス構造</p> <p>(11) 「創業者」支配と経営者支配</p> <p>(12) 事業連合時代の生協ガバナンス</p> <p>(13) 組合員主権と社会的責任</p> <p>(14) さまざまな協同組合と生協</p> <p>(15) まとめ</p>
履修上の注意	<p>2012年度以前の「協同組合論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。</p> <p>本を読む習慣がない人、新聞を毎日読まない人、自分で夕食の買い物をしたこともないような人には、経済を理解することはできません。毎日の生活全てが勉強となるはずで、協同組合論を学ぶためには、とりわけこのような社会への関心が求められます。</p>
教科書	<p>『協同組合を学ぶ』中川雄一郎・杉本貴志編著、日本経済評論社（2012年）</p> <p>その他、必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考書	
成績評価方法	<p>授業期間中および授業終了後にレポートの提出を求め、その採点をもって成績評価とする。</p>

科目名	労働経済論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0550	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	働くということについて、経済学的に考える力を養う。
授業の進め方	講義を中心に進める。
達成目標	(1) 効率化と格差是正について、考えることができるようになる。 (2) 労働を、経済学的にはどう考えればいいのかを、理解できるようになる。 (3) 賃金の違いの原因を考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに 第2回 効率化と格差是正1:効率化と「パイを増やす」ということ 第3回 効率化と格差是正2:格差是正と「パイの切り分け方」と効率化 第4回 効率化と格差是正3: 効率化原則実施の条件 第5回 効率化と格差是正4:効率化政策と格差是正政策の両立 第6回 生産要素としての労働1:資本と労働の共通点と相違点 第7回 生産要素としての労働2:フローとストック 第8回 複数の労働市場1:需要不足失業とミスマッチ失業 第9回 複数の労働市場2:勤労所得と差別 第10回 労働市場と労働需要1:賃金と生産性の関係 第11回 労働市場と労働需要2:派生需要、資本との代替、外国との競争 第12回 労働市場と労働供給:就業意欲と女性、若者、高齢者 第13回 労働市場の余剰分析:所得税と最低賃金 第14回 格差是正政策と就業意欲 第15回 おわりに
履修上の注意	「経済学」を履修済みであれば望ましい。
教科書	『ミクロ経済学 効率化と格差是正』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年)
参考書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年) 『労働経済』清家篤著、東洋経済新報社(2002年) 『労働経済』松繁寿和著、放送大学教育振興会(2008年)など
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	経営学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0670	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>この講義では、現代企業の組織や行動を経営学の観点から理解することを目的としています。講義の半分は理論的な説明についやします。理論というと難しく聞こえるかもしれませんが、丁寧に考えれば必ず理解できるものです。</p> <p>まず、なぜ大規模な組織が存在するのかということを理論的に説明することからはじめます。そして、経営学の主な対象である株式会社の基本的な仕組みや問題点について考察を進めます。次に、財閥や企業集団といった企業間の連帯の構造や機能について解説をします。そして最後に、企業の戦略について論じます。</p>
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	<p>(1) 企業組織の構造について理解すること。</p> <p>(2) 日本の企業間関係について理解すること。</p> <p>(3) 上記2点について、諸外国との比較ができるようになること。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第一部 経営学とは何か</p> <p>第1回 経営学説史：科学的管理法</p> <p>第2回 経営学説史：人間関係学派</p> <p>第3回 経営学説史：現代の経営学</p> <p>第二部 企業の形態と所有</p> <p>第4回 企業の形態</p> <p>第5回 所有と経営の分離</p> <p>第6回 コーポレートガバナンス</p> <p>第7回 エージェンシー理論</p> <p>第三部 企業間関係と企業の境界</p> <p>第8回 日本の財閥と企業集団</p> <p>第9回 日本の系列</p> <p>第10回 取引コスト論：コースの理論</p> <p>第11回 取引コスト論：ウイリアムソンの理論</p> <p>第12回 企業の境界の変化：自動車産業</p> <p>第13回 企業の境界の変化：鉄鋼業</p> <p>第14回 多角化</p> <p>第15回 組織の編成</p>
履修上の注意	経営学 と の両方を受講することが望ましい。
教科書	特になし。
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポート(70%)および授業への参加姿勢(30%)で評価をします。

科目名	経営学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0680	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、現代日本企業の人材マネジメントについて学びます。その特徴を明らかにするために、日本企業における人事労務管理制度の歴史的変遷を検討し、さらに国際比較（とくにアメリカ）を行ないます。また、モチベーション、職務満足、組織へのコミットメントなどの産業組織心理学の基礎的な理論と研究成果を学びます。
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	(1) 日本企業の人事労務管理について理解すること。 (2) 人事労務管理についてアメリカとの比較ができるようになること。 (3) 産業組織心理学の基礎理論を習得すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 日本企業の人材マネジメントの動向 第2回 採用管理：誰を採用するのか 第3回 昇進管理：年功序列はぬるま湯か？ 第4回 人事制度：組織における地位の管理 第5回 人事考課：見えない能力を評価する 第6回 賃金の決め方：基礎理論 第7回 賃金の決め方：成果主義 第8回 賃金の上がり方：基礎理論 第9回 賃金の上がり方：賃金プロファイル 第10回 賃金制度の日米比較 第11回 賃金制度の日米比較 第12回 日本人の就業意識 第13回 仕事への動機付け 第14回 職務満足 第15回 集団と意思決定
履修上の注意	経営学 と の両方を受講することが望ましい。
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポート（70%）および授業への参加姿勢（30%）で評価をします。

科目名	企業分析論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0691	担当教員	玉置 雄次郎	所属	高知短期大学名誉教授	
連絡先	電話					088-843-6794
	E-mail					yjtamaki@gmail.com

授業概要 (テーマ等)	企業分析の基礎を学ぶ。
授業の進め方	講義形式で行います。主として、金融商品取引法によって公開される資料(有価証券報告書)によって、企業分析の基礎を講義します。
達成目標	公表される資料(財務諸表)による、企業分析(経営分析)の基礎を理解することを、目標とします。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>(1) 企業分析の基礎(第1回～第3回)</p> <p>第1回 この講義の目標と企業分析のための資料</p> <p>第2回 財務諸表に関する基礎知識(1)</p> <p>第3回 財務諸表に関する基礎知識(2)</p> <p>(2) 収益性分析の基礎(第4回～第8回)</p> <p>第4回 売上高利益率</p> <p>第5回 資本利益率</p> <p>第6回 資本回転率</p> <p>第7回 生産性分析(付加価値分析)</p> <p>第8回 損益分岐点分析</p> <p>(3) 安全性分析(第9回～第13回)</p> <p>第9回 流動比率、固定比率</p> <p>第10回 自己資本比率</p> <p>第11回 キャッシュフロー分析</p> <p>第12回 自己金融比率</p> <p>第13回 内部留保</p> <p>(4) 企業集団の分析(第14回～第15回)</p> <p>第14回 企業集団と連結決算制度</p> <p>第15回 連結企業集団の分析</p>
履修上の注意	出席を大切にしてください。
教科書	『ビジュアル経営分析の基本』佐藤裕一著(日本経済新聞社)
参考書	講義において紹介します。
成績評価方法	試験と講義への参加態度によって評価します。

科目名	会計学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0700	担当教員	山内 高太郎	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	簿記、会計の初学者からある程度理解がある学生を対象とした授業です。受講者数等により講義内容が変更となる場合があります。 この講義では、まず、簿記と会計の接点を理解し、現在の日本の簿記がどのような会計理論にもとづき行われているかを理解します。その上で会計の国際化、つまり国際会計基準の我が国の会計制度への影響について理解を深めます。
授業の進め方	この授業は、主として講義形式で行います。(受講生数によって変更される場合があります) この講義では、簿記や会計の初学者に対応するために、まず、会計学の基礎となる基礎的な簿記について学びます。(簿記について詳しく知りたい人は、簿記の講義を履修してください)それを通して、企業経営とその記録(帳簿記帳)の関係を理解します。 次に、こうした簿記がどのような理論によって行われているか理解するために、日本の会計原則について学びます。 その上で、近年、重要な意味を持ってきている国際会計基準(IFRS)とIFRSが我が国の会計制度に与える影響について理解を深めます。
達成目標	(1) 簿記の仕組みと会計理論の関係が説明できること。 (2) 日本の会計制度と会計理論について理解し、要点を説明できること。 (3) 国際会計基準が日本の会計制度に与えた影響について理解できていること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 会計学の基礎として簿記を学ぶ1 第3回 会計学の基礎として簿記を学ぶ2 第4回 会計学の基礎として簿記を学ぶ3 第5回 会計学の基礎として簿記を学ぶ4 第6回 発生主義と期間損益計算 - 減価償却の本質 - 第7回 発生主義と期間損益計算 - 費用・収益の見越・繰延 - 第8回 収益認識 - 商品売買を中心に 第9回 企業会計原則と企業会計基準 第10回 会計ビッグバンの影響1 - 国際会計基準の影響 - 第11回 会計ビッグバンの影響2 - 金融商品会計 - 第12回 会計ビッグバンの影響3 - 連結決算 - 第13回 会計ビッグバンの影響4 - 税効果会計 - 第14回 会計監査と粉飾問題 第15回 まとめ
履修上の注意	電卓を持ってきてください。
教科書	プリントを配布します。
参考書	授業の中で紹介します。
成績評価方法	毎回の確認テストと期末筆記試験で行う。 確認テスト(20%程度)、期末筆記試験(80%程度)

科目名	簿記学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0721	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	複式簿記の学習を通して、貸借対照表・損益計算書等、財務諸表の基礎的な理解力をつける。
授業の進め方	講義と演習の繰り返しで進める。
達成目標	(1) 計数的合理的処理能力を養う。 (2) 複式簿記の基礎的な処理方法を理解する。 (3) 複式簿記の基礎的なシステムを理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 貸借対照表 第 3 回 損益計算書 第 4 回 勘定科目・・・資産 負債 資本 第 5 回 勘定科目・・・収益 費用 第 6 回 取引の処理・・・仕訳 総勘定元帳 転記 第 7 回 演習 第 8 回 演習 第 9 回 補助簿について 第 10 回 演習 第 11 回 決算手続き 6 桁精算表 第 12 回 演習 第 13 回 貸借対照表 損益計算書 第 14 回 演習 第 15 回 演習 まとめ
履修上の注意	積み重ねの学習なので、休むと理解できなくなる。
教科書	そのつどプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験(90%)、演習(10%)として評価する。

科目名	簿記学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0722	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	実務に対する応用力を身につけ、財務諸表等の理解を深める。 日本商工会議所簿記検定3級程度の力をつける。
授業の進め方	講義と演習の繰り返しで進める。
達成目標	(1) 記帳能力を高め、複式簿記が理解できるようになる。 (2) 財務諸表等を理解することができる。 (3) 企業の財務内容を理解することができる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 簿記手続きの一巡 資産 負債 資本 収益 費用 第 2 回 演習 第 3 回 補助簿への記帳 第 4 回 主要簿と補助簿 第 5 回 演習 第 6 回 試算表 第 7 回 貸倒償却 減価償却他 決算整理事項 第 8 回 決算整理仕訳 決算仕訳 第 9 回 演習 第 10 回 8桁精算表 第 11 回 演習 第 12 回 伝票会計 第 13 回 貸借対照表 損益計算書 第 14 回 演習 第 15 回 演習 まとめ
履修上の注意	できるだけ休まないこと。 簿記 ・ は、内容的に連続しているので、 を履修していることが望ましい。
教科書	そのつどプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験 (9 0 %)、演習内容 (1 0 %) として評価する。

科目名	現代産業論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0723	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>この授業では、次の2つの視点から日本の産業について学びます。</p> <p>製品開発：企業や産業の発展にとって重要な要素の一つは、市場に受け入れられる製品やサービスを生み出すことです。この授業では、産業ごとの製品開発パターンの違いを比較検討します。</p> <p>経営戦略。経営戦略は産業構造に規定されます。どのような産業や企業で収益が上がるのかという問題を産業構造に着目して明らかにします。</p>
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	<p>(1) 企業の製品開発活動についての理解を深めること。</p> <p>(2) 効果的な製品開発パターンの産業間比較ができるようになること。</p> <p>(3) 経営戦略についての理論的枠組みを理解すること。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第一部 製品開発論</p> <p>第1回 製品開発の基礎理論</p> <p>第2回 自動車産業(1)</p> <p>第3回 自動車産業(2)</p> <p>第4回 鉄鋼業(1)</p> <p>第5回 鉄鋼業(2)</p> <p>第6回 アパレル産業(1)</p> <p>第7回 アパレル産業(2)</p> <p>第8回 電器産業</p> <p>第9回 食品産業：ビールの開発</p> <p>第10回 医薬産業</p> <p>第二部 経営戦略論</p> <p>第11回 経営戦略の基礎理論</p> <p>第12回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第13回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(2)</p> <p>第14回 資源アプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第15回 資源アプローチの経営戦略論(2)</p>
履修上の注意	特になし
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポート(70%)および授業への参加姿勢(30%)で評価をします。

科目名	統計学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0760	担当教員	谷本 真二	所属	高知県立大学 地域教育研究センター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	統計学の基礎を学び、その考え方を修得する。
授業の進め方	配布するプリントをもとに講義形式で進める。
達成目標	(1) 確率と統計学の関係を理解する。 (2) 平均, 分散の計算とその意味を理解する。 (3) 統計データから推定と検定を行う。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 統計学とは何か 第2回 統計データ 第3回 平均と分散 第4回 データの分類 第5回 標本平均と標本分散の計算法 第6回 確率 第7回 組合せの数と二項分布 第8回 二項分布の平均と分散 第9回 正規分布と確率の計算 第10回 二項分布の正規近似 第11回 推定値 第12回 標本平均の分布 第13回 t分布 第14回 平均と割合の推定 第15回 平均と割合の検定
履修上の注意	2010年度以前の「経営情報システム論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 課題の提出をおろそかにしないこと。
教科書	プリントを配布する。
参考書	
成績評価方法	学期末試験の成績(50%)および課題提出と授業における積極的参加で評価(50%)

科目名	経営情報システム論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0761	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	色々なアプリケーションを使用して、データの収集・整理・分析・発表をします。
授業の進め方	情報処理実習室内における講義と実習。
達成目標	(1) インターネットから、検索してデータの収集が出来る。 (2) Excelで、データの分析が出来る。 (3) PowerPointで、分析結果を発表する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 Windowsの操作 第3回 インターネットの基礎 第4回 インターネットでのデータの収集をする 第5回 Excelの基礎 第6回 関数 第7回 データの整理 第8回 データの分析 第9回 データのグラフ化 第10回 画像の処理 第11回 パワーポイントの基礎 第12回 文字や画像を入力 第13回 SmartArt、ワードアートを使う 第14回 アニメーションを使ってみる 第15回 まとめ
履修上の注意	2010年度以前の「経営情報システム論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 文字入力とマウス操作が出来る方を対象とします。 自分データを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業前にプリントを配布します。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。

科目名	経済学特殊講義（工業簿記）	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0769	担当教員	中野 慶伸	所属	土佐コンピュータ学院非常勤教員
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日商簿記2級を学習します。
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等
達成目標	(1) 企業で用いられる簿記を学習し、職業会計人としての基礎を築く。 (2) 日商簿記2級合格が一つの目標の目安になる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 工業簿記の基礎 第 2 回 工業簿記の勘定連絡 第 3 回 材料費 () 第 4 回 材料費 () 第 5 回 労務費 () 第 6 回 労務費 () 第 7 回 経費 第 8 回 個別原価計算 () 第 9 回 個別原価計算 () 第 10 回 部門別個別原価計算 () 第 11 回 部門別個別原価計算 () 第 12 回 総合原価計算 () 第 13 回 総合原価計算 () 第 14 回 総合原価計算 () 第 15 回 総合原価計算 ()
履修上の注意	日商検定は知名度も高く、企業の人事担当者にも知られている資格の一つです。 簿記2級取得を目指す科目ですので、主な受講対象者は、すでに簿記実務経験のある人または簿記3級の実力のある人となります。
教科書	日商簿記2級工業簿記合格テキスト T A C 出版
参考書	講義の中で紹介します。
成績評価方法	講義への参加姿勢 (6 0 %)、期末試験 (4 0 %) などから総合的に評価します。

科目名	政治学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0770	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	民主主義諸国間の比較を通じて、政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのか、について講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2) 他国との比較を通じて、日本の政治制度の仕組みを理解する。 (3) 政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのかを理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 組織された集団 第3回 大企業と政治 第4回 官僚と政治家 第5回 多元主義論と制度論 第6回 多数決型とコンセンサス型 第7回 選挙制度(1回目課題配布) 第8回 執政制度 第9回 政党制度(1回目課題提出) 第10回 議会制度 第11回 官僚制 第12回 司法制度(2回目課題配布) 第13回 中央銀行制度 第14回 中央・地方関係制度(2回目課題提出) 第15回 まとめ
履修上の注意	政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』北山俊哉・真淵勝・久米郁男著、有斐閣(2009年)；『比較政治制度論』建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史著、有斐閣(2008年)；『民主主義対民主主義 多数決型とコンセンサス型の36ヶ国比較研究』アレンド・レイプハルト著、粕谷祐子翻訳、勁草書房(2005年)。
成績評価方法	2回の課題提出(1回目と2回目はそれぞれ50%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。また課題配布および提出は、講義回に依拠します。たとえば、第9回(1回目課題提出)が台風などで休講の場合、第9回は次週になります。したがって、課題提出は、次週になります。次週も台風などで休講になった場合、次々週になります。

科目名	政治学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0771	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	政党と選挙の説明を通じて、現代民主政治の仕組みについて講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2) 政党と選挙の仕組みを理解する。 (3) 現代民主政治の仕組みを理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 政党の目的と形成(1) 第3回 政党の目的と形成(2) 第4回 政党組織 第5回 議会と政党 第6回 政党システム 第7回 選挙制度と政党システム(1回目課題配布) 第8回 日本の政党間競争と選挙(1) 第9回 日本の政党間競争と選挙(2)(1回目課題提出) 第10回 選挙民の中の政党 第11回 投票行動と政党(1) 第12回 投票行動と政党(2)(2回目課題配布) 第13回 日本の政党システム 第14回 政党と政権(2回目課題提出) 第15回 まとめ
履修上の注意	政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『現代の政党と選挙【新版】』川人貞史、平野浩、吉野孝、加藤淳子著、有斐閣(2011年)；『投票行動研究のフロンティア』山田真裕・飯田健著、おうふう(2009年)。
成績評価方法	2回の課題提出(1回目と2回目はそれぞれ50%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。また課題配布および提出は、講義回に依拠します。たとえば、第9回(1回目課題提出)が台風などで休講の場合、第9回は次週になります。したがって、課題提出は、次週になります。次週も台風などで休講になった場合、次々週になります。

科目名	政治史	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0781	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	近代国家の形成、発展、崩壊を中心に、戦前・戦中の日本政治史について講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治史を理解し、説明できるようになる。 (2) 戦前・戦中の日本政治史を理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な政治史の知識を習得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 西洋の衝撃と倒幕(1) 第3回 西洋の衝撃と倒幕(1) 第4回 明治国家の形成(1) 第5回 明治国家の形成(2) 第6回 明治国家の形成(3) 第7回 政府と議会(1)、日清戦争(1回目課題配布) 第8回 政府と議会(2)、日露戦争 第9回 政党と軍部、第1次世界大戦(1回目課題提出) 第10回 政党政治の確立、第1次世界大戦後の内政と外交 第11回 政党政治の衰退と軍部の台頭(1) 第12回 政党政治の衰退と軍部の台頭(2)(2回目課題配布) 第13回 政党政治の衰退と軍部の台頭(3) 第14回 日中戦争と第2次世界大戦(2回目課題提出) 第15回 まとめ
履修上の注意	政治史 と政治史 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『日本政治史 外交と権力』北岡伸一著、有斐閣(2011年)；『政党から軍部へ 1924～1941』北岡伸一著、中央公論新社(1999年)。
成績評価方法	2回の課題提出(1回目と2回目はそれぞれ50%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。また課題配布および提出は、講義回に依拠します。たとえば、第9回(1回目課題提出)が台風などで休講の場合、第9回は次週になります。したがって、課題提出は、次週になります。次週も台風などで休講になった場合、次々週になります。

科目名	政治史	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0782	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	自由民主党(自民党)の政権運営を中心に、戦後の日本政治史について講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治史を理解し、説明できるようになる。 (2) 戦後の日本政治史を理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な政治史の知識を習得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 保守と革新 第3回 自民党政治の歴史的背景(1) 第4回 自民党政治の歴史的背景(2) 第5回 自民党政治の確立: 鳩山内閣と石橋内閣、岸信介と安保改定 第6回 自民党の黄金時代(1): 池田勇人と所得倍増計画 第7回 自民党の黄金時代(2): 佐藤栄作と沖縄返還(1回目課題配布) 第8回 自民党の動揺(1): 田中角栄と列島改造 第9回 自民党の動揺(2): 三木武夫と保守政治の修正、福田赳夫と全方位外交(1回目課題提出) 第10回 自民党の動揺(3): 大平正芳と新しい保守のビジョン 第11回 自民党政治の再生(1): 鈴木善幸と和の政治 第12回 自民党政治の再生(2): 中曽根康弘と日米同盟の強化(2回目課題配布) 第13回 自民党政権の崩壊(1): 竹下登と税制改革、海部俊樹と湾岸戦争 第14回 自民党政権の崩壊(2): 宮沢喜一と自民党政権の崩壊(2回目課題提出) 第15回 まとめ
履修上の注意	政治史 と政治史 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『自民党 政権党の38年』北岡伸一著、読売新聞社(1995年); 『戦後と高度成長の終焉』河野康子著、講談社(2002年)。
成績評価方法	2回の課題提出(1回目と2回目はそれぞれ50%)によって評価します。ただし、授業中、他の受講生の迷惑となる行為、(他の人の写しやインターネットからのコピー・ペーストなど)課題作成の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。また課題配布および提出は、講義回に依拠します。たとえば、第9回(1回目課題提出)が台風などで休講の場合、第9回は次週になります。したがって、課題提出は、次週になります。次週も台風などで休講になった場合、次々週になります。

科目名	国際関係論	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0789	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際関係論の基本的事項を学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で行います。毎回レジメを配布し、それに沿って講義を進めます。
達成目標	(1)理論を理解できるようになる。 (2)国際実行を分析できるようになる。 (3)実際の時事問題に理論を当てはめて考えられるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 国際関係論とは何か 第2回 国際関係論とは何か 第3回 国際関係の主体 国家 第4回 国際関係の主体の多様化 第5回 国際関係理論 リアリズム、リベラリズム 第6回 国際関係理論 コンストラクティヴィズム、その他 第7回 国際関係史 古代、中世、近代 (第1回 小テスト) 第8回 国際関係史 現代 第9回 冷戦の勃発と終結 第10回 核抑止論 第11回 ポスト冷戦の世界 低強度紛争、テロリズム 第12回 ポスト冷戦の世界 安全保障、国際機構 第13回 グローバリズム 第14回 地域主義の台頭 第15回 まとめ (第2回 小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	特に指定しない。
参考書	ジョセフ・ナイ『国際紛争』(有斐閣 2003年)。
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%)で評価。

科目名	国際関係論	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0790	担当教員	中西 三紀	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>米国とメキシコ以南のラテンアメリカ諸国の間には、その距離の近接性にもかかわらず、対立と従属の長い歴史があります。本講義では、その歴史を紐解きながら、先進国・米国と途上国・ラテンアメリカの関係が形成されていく過程とその内実、現状を明らかにしていきます。</p> <p>南北アメリカ関係を理解することは、単にこの地域の実情を理解することにとどまらず、いまだ世界に厳然と存在する先進国と途上国間の格差（南北問題）を理解する一助となるはずで、受講生の皆さんの世界観を広げられるような講義になればと思います。</p>
授業の進め方	<p>毎回レジュメを配付し、それをもとに講義を進めていきます。</p> <p>授業終了後に質疑応答の時間を設けます。</p>
達成目標	<p>(1)南北アメリカ関係を米国およびラテンアメリカの二つの異なる視座から考え理解することができるようになる</p> <p>(2)グローバル化が進展するなかで変化していく南北アメリカ間の関係を理解することができるようになる</p> <p>(3)先進国からのみではない視点に立った世界理解に興味・関心をもつことができようになり、複眼的視点が求められる現代世界において社会的自覚を高めること</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>歴史を知ることは今日の問題の理解につながることをと思っています。そこで本講義では、南北アメリカ間の歴史を、概略的にはありますが振り返ったうえで、グローバル化の進展と南北アメリカ関係について検討していきたいと思っています。授業計画は以下の通りです。なお、授業計画は大体の目安であり、回数が若干前後する可能性があることをあらかじめお断りしておきます。</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 南北アメリカ関係のはじまり（19世紀後半以降）</p> <p>第3回 南北アメリカ関係のはじまり（19世紀後半以降）</p> <p>第4回 南北アメリカ関係のはじまり（19世紀後半以降）</p> <p>第5回 世界大恐慌から1970年代までの南北アメリカ関係</p> <p>第6回 世界大恐慌から1970年代までの南北アメリカ関係</p> <p>第7回 世界大恐慌から1970年代までの南北アメリカ関係</p> <p>第8回 世界大恐慌から1970年代までの南北アメリカ関係</p> <p>第9回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第10回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第11回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第12回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第13回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第14回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第15回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p>
履修上の注意	<p>国際関係論 と併せて受講すると理解が深まると思います。</p>
教科書	<p>なし。</p>
参考書	<p>教科書は特に指定しませんが、必要に応じて随時参考文献を紹介します。</p>
成績評価方法	<p>期末試験（60％）、講義への参加姿勢（40％）などから総合的に評価します。</p>

科目名	歴史学	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0800	担当教員	小幡 尚	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本近代史に関する基本的な書籍を精読することにより、日本近代史の基礎的な流れを正確に把握することを目指す。そのため、解説を加えながら、テキストを丁寧に読んでいく。加えて、さまざまな関係史料を読む(史料を掲げたプリントを配付する予定)。
授業の進め方	基本的には講義形式で、日本近代史について概説する。 ただし、「話しばなし」ではなく、理解の程度を確認したり、意見を求めたり等、できるだけ多く挙手や発言をもとめたい。 少なくとも、2回目の授業からは参加のこと。3回目以降からの参加は認めない。
達成目標	(1)日本近代史研究の基礎を理解する。 (2)日本近代史上の諸史実について理解する。 (3)日本近代史に対する関心を涵養する。
授業計画 (講義の具体的内容)	1回目 ガイダンス 今後の講義計画および履修上の留意事項などについて説明する。 2回目以降は、テキストの順に従いながら、時代順に講じていく。また、講義に際してはさまざまな関係史料も読んでもらう(史料を掲げたプリントを配付する予定)。すなわち、第1回帝国議会が開かれた1890年頃から始め、太平洋戦争の敗戦(1945年)頃までを時代順に扱う予定。 大まかな予定は以下の通り(状況により変化する可能性がある)。 2・3回 明治憲法の制定と初期議会 4-6回 日清戦争・日露戦争 7-10回 大正デモクラシー・政党政治 11回 満州事変 12・13回 日中戦争 14・15回 アジア太平洋戦争
履修上の注意	授業に対する積極性が必要である。「聞いているだけ」の学生が単位を取得することは難しい。
教科書	使用する予定(講義開始までに掲示等で指示する)。プリントも配付する予定。
参考書	講義中に適宜紹介する。
成績評価方法	学期末に試験を課し、それによって評価する。ただし、状況によって変更もあり得る。

科目名	社会保障・福祉論		単位数	2	期別	前期
科目コード	G0810		担当教員	田中 きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部
連絡先	電話	088-847-8741(研究室)				
	E-mail	kiyopy@cc.kochi-wu.ac.jp				

授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、少子・高齢化の社会状況をふまえ、高齢者介護と児童福祉の制度内容を理解するとともに、施策の構造的特徴を明らかにする。
授業の進め方	基本的には、テキスト・板書とプリントによって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。
達成目標	(1) 社会保障の基本概念と体系、経済・財政との関係が理解できるようになる。 (2) 介護保険制度の導入背景と基本構造、制度改革の特徴について理解できるようになる。 (3) 少子化の背景と対応の基本的方向を学ぶ。 (4) 保育・児童虐待対策等の具体的な児童福祉制度の基本的構造と制度改革の特徴を理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	第 1 回 福祉・社会保障の基本概念 第 2 回 社会保障と経済・財政の基本的関係 第 3 回 社会保障の制度体系 第 4 回 高齢化をめぐる社会状況と介護問題 第 5 回 措置制度と介護保険 第 6 回 介護保険制度の基礎構造 第 7 回 介護保険法改正後の動向 第 8 回 少子化をめぐる社会状況と要因 第 9 回 少子化対応への基本的方向 第 10 回 保育所制度の沿革と行財政構造 第 11 回 保育所制度をめぐる政策動向 第 12 回 児童虐待の状況と要因 第 13 回 児童虐待をめぐる政策動向 第 14 回 児童諸手当の内容と改正動向 第 15 回 育児休業制度の内容と改正動向
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。
教科書	『少子高齢社会の社会保障論』田中きよむ著、中央法規出版(2010年)
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。
成績評価方法	学期末試験によって評価する。

科目名	社会保障・福祉論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0820	担当教員	田中 きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部	
連絡先	電話					088-847-8741(研究室)
	E-mail					kiyopy@cc.kochi-wu.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、年金・医療・障害者福祉の各分野に焦点を当て、その制度内容と構造的特徴を明らかにする。
授業の進め方	基本的には、テキストと板書によって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。
達成目標	(1) 年金制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (2) 医療制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (3) 障害者福祉制度の構造と制度改革の内容を理解できる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 年金保険制度の基本的しくみ 1 第 2 回 年金保険制度の基本的しくみ 2 第 3 回 年金制度改革の背景 第 4 回 年金制度改革の特徴 第 5 回 年金制度をめぐる今後の方向 第 6 回 医療保険制度の基本的しくみ 1 第 7 回 医療保険制度の基本的しくみ 2 第 8 回 医療制度改革の背景 第 9 回 医療制度改革の特徴 第 10 回 医療制度をめぐる今後の方向 第 11 回 障害の概念と障害者福祉の理念 第 12 回 社会福祉基礎構造改革の特徴 第 13 回 措置制度と支援費制度 第 14 回 障害者自立(総合)支援法の構造 第 15 回 障害者自立(総合)支援法の動向と今後の方向
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。
教科書	『少子高齢社会の福祉経済論』田中きよむ著、中央法規出版(2010年)
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。
成績評価方法	学期末試験によって評価する。

科目名	社会思想史	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0830	担当教員	森 直人	所属	高知大学 人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業の目的は、人間と共同体の関係に関心を向けること、「市民」や「市民社会」にまつわるヨーロッパの思想を学びこと、それを通じて現代の国家・市場・社会のあり方や問題について参加者自身が考えることです。 人間は、多かれ少なかれ何らかの「共同体」と関係しながら生活しています。人が関わる共同体の数や種類やあり方は、時代や場所やその人自身の選択によって様々でしょう。この授業では、まずこうした人間と共同体の関わり方について、関心を向けてもらいたいと思います。
授業の進め方	その上でこの授業では、人間と共同体の関係について、「市民」と「市民社会」という言葉を使って語られたヨーロッパの様々な思想を学びます。具体的には、古代のギリシャ、初期近代のイギリス、近代のドイツ、そして現代的な思想を中心に講義形式の進捗を促します人間が共同体とどのような関係を持つべきかという問いを問いかけ、その問いに可能な限り答える形を取りたいと思います。 また授業内容を学ぶ際の参考として、現代の国家・市場・社会のあり方や問題について、参加者自身の考えを述べてもらう予定です。
達成目標	(1) 人間と共同体の様々な関係に興味を持つ、関心を向ける (2) 「市民社会」に関わるヨーロッパの思想から、「国家」「市場」「新しい市民社会」という三つの内容を理解できるようになる (3) 以上を踏まえて、現代の国家、市場、社会のあり方や、その問題点などについて自分自身の考えを述べられるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション： この授業の主題/計画/成績評価+リーディング・リストの説明 第2回 「思想の歴史」「市民社会の思想の歴史」について。そこから見えるものなど。 第3回 「市民社会」と「国家」(1)：アリストテレス 第4回 「市民社会」と「国家」(2)：アリストテレス 第5回 「市民社会」と「国家」(3)：ホブズ 第6回 「市民社会」と「国家」(4)：ロック 第7回 小テスト一回目(10%配点)+ここまでの振り返り 第8回 「市民社会」と「市場」(1)：歴史的背景、マンデヴィル、ヒュームなど 第9回 「市民社会」と「市場」(2)：ファーガソンとスミス 第10回 「市民社会」と「市場」(3)：スミスとヘーゲル 第11回 「市民社会」と「市場」(4)：マルクス 第12回 小テスト二回目(10%配点)+ここまでの振り返り+期末テストの説明 第13回 「新しい市民社会」(1)：近代の国家と市場に対する批判 第14回 「新しい市民社会」(2)：ハーバーマスなど 第15回 全体のまとめ 第16回 期末定期試験(80%)
履修上の注意	履修の前に特に準備が必要な知識はありません。
教科書	講義にあたっては、毎回配布するレジュメに従って授業を進めて行きますが、同時に以下の文献を教科書として使用します。受講者は基本的に事前に購入しておいてください。 植村邦彦(2010)『市民社会とは何か 基本概念の系譜』、平凡社新書
参考書	教科書以外でこの授業に関わる文献としては、以下の文献を適宜参照してください。 エーレンハート、ジョン(吉田傑俊監訳)(2001)『市民社会論:歴史的・批判的考察』、青木書店 岡本仁宏(2004)『市民社会』、古賀敬太編『政治概念の歴史の展開 第一巻』晃洋書房
成績評価方法	成績評価は、基本的に二回の小テストおよび期末定期試験によって行います。各テストの配点は以下の通りです。 ・小テスト：各10%(二回合計10×2=20%) ・期末定期試験：80%

科目名	地方自治論	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0840	担当教員	城戸 英樹	所属	奈良県立大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本には、国・都道府県・市町村という3つのレベルの「政府」が置かれている。本講義では、これらの政府体系の中で、地方自治制度を支える都道府県と市町村の役割に焦点を当てる。その中で、理論的な流れを紹介した上で、実際の制度がどのように設計されているのか、どのようにして地方政府が政策を決定しているのか、どのようにして政策が実施されているのか、などを扱う。
授業の進め方	教科書の内容にそって、適宜質疑応答を交えながら講義を行う。
達成目標	1) 日本の地方自治制度の実態や制度に対する理解ができるようになる。 2) 地方自治に関する制度や政策がもたらす帰結の考察を行うことができるようになる。 3) 日本の地方自治について、自分自身の意見を的確に述べられるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	各講義のテーマや項目は、以下の通りである。 進行の状況によって、内容と順序を変更することがある。 1. イントロダクション 地方自治とは 2. 日本の地方自治制度 3. 日本の地方自治制度 4. 各国の地方自治 5. 自治体の統治システム 6. 自治体の統治システム 7. 地方税財政 8. 地方税財政 9. 地方自治体の組織と人事 10. 地方自治体の組織と人事 11. ガバナンス時代の地方自治 12. 合併と広域連携 13. 教育政策 14. 福祉政策 15. 講義のまとめ
履修上の注意	行政学など政治学系の科目を履修していることが望ましい。
教科書	『テキストブック地方自治第2版』村松岐夫編、東洋経済新報社（2010年）
参考書	授業中に適宜指示します。
成績評価方法	授業内アンケート（20%）と最終試験（80%）によって評価します。

科目名	行政学	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0861	担当教員	善教 将大	所属	東北大学国際高等研究機構
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、現代社会において重要な役割を担っている行政に関する知識を、体系的に理解していくことをめざす。したがって、抽象的な概念や理論枠組みの説明がこの講義の中心となるが、適宜、具体的な行政（自治体）の実態についても紹介・検討する。
授業の進め方	教科書の内容に即しつつ、各トピックごとに60分程度講義を行い、その後30分、ディスカッションの時間を設ける。
達成目標	(1) 日本の行政に関する理解を深める。 (2) 日本の行政について、自分自身の考えを持つことができるようになる。 (3) 日本の行政について、自分自身の考えを的確に述べるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	各講義のテーマや項目は、以下の通りである。 進行の状況によって、内容と順序を変更することがある。 第 部 行政学の概観 1. イントロダクション：講義の進め方、評価方法 2. 行政サービスの発展と福祉国家化：歴史的背景 3. 官僚制の成立と三権分立制：歴史的背景 4. 行政学の展開：アメリカと日本の行政学の概観 第 部 省庁・官僚制 5. 議院内閣制と中央省庁 6. 公務員制度の歴史と概要 7. 官僚制という概念：ウェーバーを中心に 8. 官僚制の組織原理と行動原理 9. 第一線職員という官僚 第 部 政策形成 10. 政策形成の視座：循環、漸増、相互作用 11. 中央省庁の意思決定方式 12. 予算編成とその仕組み 第 部 管理 13. 行政の合理性と効率性：行政改革 14. 行政統制とアカウンタビリティ 15. 講義のまとめ
履修上の注意	上記の通り、本講義では、ディスカッションや質疑応答を行うため、積極的に講義に参加すること。なお、本講義では地方自治に関するトピックは、基本的には扱わない。そのため、地方自治論などを受講しておくことが望ましい。
教科書	『行政学（新版）』西尾勝著、有斐閣（2001年）
参考書	『行政学』曾我謙悟著、有斐閣（2013年[近刊]） 上記以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。
成績評価方法	最終試験（100％）

科目名	社会学	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0880	担当教員	遠山 茂樹	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	コミュニケーションの社会学 社会学は現代の社会現象の実態やその原因を解明しようとする学問である。このような社会の実態や因果関係などを、人と人との相互作用やコミュニケーションという人間行為から捉えようとするのが本授業である。
授業の進め方	授業は講義形式で行い、教科書に沿って進める。必要に応じ、こちらで準備したレジメを配布する。 授業中にも簡単な課題を与えることもある。 期末試験を実施する。
達成目標	(1) コミュニケーションについて理解する (2) コミュニケーションを通して、社会現象の様々な局面について社会的視点から理解できるようなる。 (3) 日常生活におけるコミュニケーションに対しても自覚的になり、主体的に社会を理解する姿勢を身につける。
授業計画 (講義の具体的な内容)	本授業では社会現象をコミュニケーションという相互作用からの視点で捉えようとする社会学について取り上げる。 具体的にはコミュニケーションの社会学とは何かを説明し、その後コミュニケーションの社会学でなにかができるかについて、「対話として」「遊戯として」「非対称の」「フラット化する」コミュニケーションという視点から考察していく。 授業計画としては以下の内容を予定している。 第01回 コミュニケーションと社会学 第02回 対話と遊戯としてのコミュニケーション 第03回 パラドックスと接続としてのコミュニケーション 第04回 単独性とコミュニケーション 第05回 対話というコミュニケーション 第06回 権力というコミュニケーション 第07回 メディアというコミュニケーション 第08回 遊びと笑いというコミュニケーション 第09回 恋愛というコミュニケーション 第10回 友愛というコミュニケーション 第11回 家族というコミュニケーション 第12回 教育というコミュニケーション 第13回 ケアというコミュニケーション 第14回 フラット化するコミュニケーション 第15回 暴力と悪というコミュニケーション 第16回 期末試験
履修上の注意	社会学 を履修していなくてもよい。
教科書	『コミュニケーションの社会学』長谷正人・奥村隆編著、有斐閣アルマ(2009)
参考書	『社会学小辞典 新版増補版』濱嶋朗ほか編、有斐閣(2005年) 『社会学がわかる事典』森下伸也著、日本実業出版社(2000年)
成績評価方法	2/3以上の出席を期末試験受験資格とする。 成績評価は、期末試験(70%)および講義中の課題(30%)などから総合的に評価する。

科目名	ジェンダー論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0890	担当教員	池谷 江理子	所属	高知工業高等専門学校
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「ジェンダー」とは何か、なぜ、今、「男女共同参画」が謳われるのか、ということについて論じます。歴史を垣間見、現代の労働現場に立ち入り、「ジェンダー」の意味と含蓄を明らかにしながら、偏見や先入観にとらわれない社会の在り方を一緒に考えたいと思います。少子化や貧困の問題についても取り上げます。本講義は現代社会において欠落しがちな重要な視角を学ぶことを通し、受講者の社会的及び職業的自立を支援することを目指します。
授業の進め方	プリント等配布資料や画像を使い、主として講義形式で授業を行います。折にふれ、小テーマで意見交換やグループ討議を行います。小さなコメント用紙を配布しますので、意見や疑問等にぜひ利用してください。
達成目標	(1) ジェンダーの意味内容を理解できるようになる。 (2) 人類史とジェンダー概念の変容の概略を知る。 (3) 就業や社会保障におけるジェンダー・ギャップの実態を知る。 (4) 文化・教育におけるジェンダー・バイアスを知る。 (5) セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスの実態と背景を知り、その予防や防止につなげる。 (6) ジェンダーの視点を身につけ、社会人、職業人としての基礎的教養とする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 ジェンダーとは？(オリエンテーション) 第2回 歴史にみるジェンダー 日本と西洋におけるジェンダー 第3回 同上 西洋の場合 第4回 同上 日本の場合 第5回 仕事、就業とジェンダー 就業にみる男女格差 第6回 同上 男女賃金格差の実態と背景 第7回 同上 間接差別、ガラスの天井等 第8回 社会保障とジェンダー 制度におけるジェンダー・バイアス 第9回 同上 年金とジェンダー 第10回 育児とジェンダー 少子化を考える・・・合計特殊出生率の推移と背景 第11回 同上 国際比較からみた育児とジェンダー、育児休業と子育て支援 第12回 教育、メディア、文化とジェンダー - 学校とジェンダー、メディアに登場するジェンダー 第13回 同上 文化とジェンダー 第14回 セクシャルハラスメント、ドメスティック・バイオレンスとジェンダー - 実態と背景、課題 第15回 私たちのつくる今後の社会とジェンダー(授業のまとめ)
履修上の注意	日常生活や日頃の意識と密接に関わるテーマです。批判的に聴講し、積極的に意見を発表し、自由に議論をたかかわらせてほしいと希望します。
教科書	授業時にはプリントを用意するほか、適宜、文献・資料を紹介します。プロジェクターを使い画像や写真等を利用して理解を深めるようにします。
参考書	『岩波女性学事典』井上輝子他編著、岩波書店(2002年、4800円)、『男女共同参画統計データブック2009』独立行政法人国立女性教育会館著、ぎょうせい(2009年、2381円)、『女性のデータブック(第4版)』井上輝子他編著、有斐閣(2005年、3200円)他、適宜紹介。
成績評価方法	レポート評価を主とします(90%程度)が、講義や討論への参加状況、各種提出物等を加味(10%程度)し、総合的に評価します。

科目名	生涯教育論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0894	担当教員	内田 純一	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	人はどういふ学習や文化と出会い、どういふ人々とのつながりの中で、ものごとを見つめる力を確かにし、豊かな感性を育て、人間的資質を高めることができるのだろうか。このことを広くたずね、学校教育以外での学習文化活動の事例を数多く取り上げながら、そこに見られる「学び合い」「育ち合い」を検討して、生涯にわたる人間の成長と発達、その保障のあり方を考察していきます。
授業の進め方	P P (パワーポイント) や配布資料、VTR等を用いながら基本的には講義形式で授業をすすめます。
達成目標	(1)教育の本質を理解している。 (2)(1)を踏まえて社会教育・生涯学習に関する法制度・施設の仕組みを理解・説明できる。 (3)(1)を踏まえて社会教育・生涯学習に関する職員の専門性を理解・説明できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回：オリエンテーション 授業の進め方 第2回：生涯学習・社会教育の現場から(1) 第3回：生涯学習・社会教育の現場から(2) 第4回：生涯学習・社会教育に関する理論的・歴史的な理解(1) 第5回：生涯学習・社会教育に関する理論的・歴史的な理解(2) 第6回：生涯学習・社会教育に関する法・制度(1) 第7回：生涯学習・社会教育に関する法・制度(2) 第8回：生涯学習・社会教育に関する施設(公民館) 第9回：生涯学習・社会教育に関する施設(図書館) 第10回：生涯学習・社会教育に関する施設(博物館) 第11回：生涯学習・社会教育の国際的動向(1) 第12回：生涯学習・社会教育の国際的動向(2) 第13回：生涯学習・社会教育に関する専門職員(1) 第14回：生涯学習・社会教育に関する専門職員(2) 第15回：授業のまとめ
履修上の注意	
教科書	特に定めません。
参考書	授業中に適宜、紹介します。
成績評価方法	期末試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価します。

科目名	歴史学特殊講義（地域史）	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0900	担当教員	公文 豪	所属	高知近代史研究会、土佐史学会、高知市立自由民権記念館学芸資料整理課
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	講義テーマ：「植木枝盛の思想と生涯」 自由民権運動の理論的指導者・植木枝盛は、近代日本が生んだ最高の政治思想家として高い評価を得ている。彼は平易な文体で民主主義の神髄を当時の民衆に解き明かすことを心がけ、おびたしい論文、著作を残して33年の短い生涯を閉じた。幅広い読書と深い思索から紡ぎ出された独自の思想を素材に、現在、私たちが直面する民主主義の根本問題を考察する。
授業の進め方	毎回、レジュメと教科書に基づいて講義する。
達成目標	(1) 植木枝盛の自由民権思想とその生涯を理解する。 (2) 人類が到達した自由と人権思想の本質をつかむ。 (3) 日本における憲法と議会政治の成り立ちを理解する。 (4) 高知県の歴史について関心を高め、高知の歴史風土への愛着と誇りをつちかう。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 植木枝盛の生涯 第2回 植木枝盛の自由民権論 第3回 植木枝盛の地方自治論 第4回 植木枝盛の自由教育論 第5回 平和思想の系譜(1) 第6回 平和思想の系譜(2) 第7回 植木枝盛と女性参政権 第8回 植木枝盛の憲法構想 第9回 植木枝盛憲法草案と日本国憲法 第10回 実践家としての植木枝盛(酒屋会議など) 第11回 植木枝盛の社会改良論 第12回 植木枝盛の女権論(1) 第13回 植木枝盛の女権論(2) 第14回 植木枝盛と女たち 第15回 帝国憲法発布と植木枝盛
履修上の注意	2012年度以前の「地域史」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。出席をとります。教科書・参考書通読のこと。
教科書	プリント配付
参考書	「植木枝盛選集」家永三郎編、岩波文庫(2007年) 「植木枝盛の生涯」外崎光広著、高知市文化振興事業団(1997年)
成績評価方法	レポート提出。評価は、レポート90%、講義への参加姿勢10%。

科目名	政治学特殊講義（平和学）	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0960	担当教員	山根 和代	所属	立命館大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、現代的な平和学の課題について考察し、論議することである。また受講生が自らの専門分野から見た現代の平和問題について報告し、討論することである。
授業の進め方	講義、質疑応答、グループでの討論、研究発表
達成目標	(1) 平和学の歴史、平和学の方法、平和学の学際性について理解する。 (2) 現代の平和学が直面している問題を多面的に認識し、報告と討論を通じて理解を深化させる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 平和学の歴史、平和とは？ 第2回 戦争の原因について 第3回 核問題（核兵器）と核軍縮 第4回 平和運動 第5回 原発事故、放射能問題 第6回 テロリズムと非暴力主義 第7回 紛争解決（外交、交渉、調停） 第8回 人権問題（ジェンダー） 第9回 環境問題とNGO 第10回 貧困問題 第11回 戦後補償問題 第12回 和解（東アジア、パレスチナなど） 第13回 安保、沖縄問題、憲法9条 第14回 若者の平和教育、平和活動、国際交流 第15回 海外における大学院における平和研究、海外の平和教育
履修上の注意	2012年度以前の「平和学」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。
教科書	プリントを使用します。
参考書	『平和学を学ぶ人のために』君島東彦編、世界思想社 『新訂 平和事典』広島平和文化センター編、勁草書房 『岩波小辞典 現代の戦争』前田哲男編、岩波書店
成績評価方法	The Oxford International Encyclopedia of Peace Nigel J. Young (ed.) Oxford University Press 『敗北を抱きしめて（上・下）』ジョン・ダワー著、岩波書店 『構造的暴力と平和』ヨハン・ガルトゥング著、中央大学出版部 『ガルトゥングの平和理論 グローバル化と平和創造』ヨハン・ガルトゥング著、法律文化社 『訪ねてみよう戦争を学ぶミュージアム/メモリアル』「記憶と表現」研究会著、岩波ジュニア新書 『暴力についてのセビリア声明 戦争は人間の本能か』デービッド・アダムズ他編著、平和文化

- 『芸術と平和（平和研究）』日本平和学会編、早稲田大学出版部
- 『憲法九条の戦後史』田中伸尚著、岩波新書
- 『平和憲法の確保と新生』深瀬忠一ほか編、北海道大学出版会
- 『非武装のPKO　　NGO非暴力平和隊の理念と活動』君島東彦編、明石書店
- 『日本から発信する平和学』安斎育郎・池尾靖志著、法律文化社

講義への参加姿勢(30%)、討論(30%)、レポート(40%)などから総合的に評価する。

科目名	歴史学特殊講義 (西洋近現代史)	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0970	担当教員	柳川 平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代ヨーロッパの理解にとって重要なファシズムの成立・発展や大恐慌などの画期を取り上げ、イギリスの著名な歴史家ホブズボームの立論を手がかりに比較史的に考察します。主として、第一次世界大戦から20世紀後半までのイギリス、ドイツ、イタリア、ポーランド等を取り上げる予定です。
授業の進め方	主として、山川出版社刊『歴史から今を知る - 大学生のための世界史講義』(2010年)やミネルヴァ書房刊『西洋の歴史・近現代史編』(増補版、1998年)の代表的項目を選びながら、各回配布の資料に基づいて講義形式の授業を行います。その際、出来る限りビデオ映像資料を活用する方針です。
達成目標	(1)政治学・政治史にとって重要な諸概念(ファシズム等)を理解できるようにする。 (2)イギリス・フランス・ドイツなど西欧各国の比較を通して、各国の特質を把握する。 (3)現代社会の理解にとって西欧と東欧・南欧との比較から、20世紀史の特質を学ぶ。
授業計画 (講義の具体的な内容)	今年度は現代史編として以下の諸項目を中心に20世紀史の検討を行います。特に映画やドキュメンタリフィルムなどの映像資料を参考にして授業をすすめる予定です。 第1回 西洋現代史の対象と時代区分 第2回 序論 ホブズボームの20世紀論とその意義 第3回 第一次世界大戦 第4回 ロシア革命 第5回 ヴェルサイユ条約体制 第6回 ファシズムの成立 第7回 ワイマル共和制 第8回 中東における戦後処理 第9回 大恐慌 第10回 ナチズムの政権掌握 第11回 スターリニズム 第12回 第二次世界大戦 第13回 戦後処理と冷戦体制 第14回 戦後西独の非ナチス化 第15回 展望 - EUの成立へ
履修上の注意	2012年度以前の「西洋近現代史」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 高等学校地歴必修世界史(世界史A程度で可)の基礎知識を前提としますが、毎回当該領域の高校教科書プリントを配布しますので、未履修でも可能です。
教科書	購入の必要はありませんが、『歴史から今を知る - 大学生のための世界史講義』上杉忍他編、山川出版社(2010年)や『西洋の歴史・近現代史編』増補版、ミネルヴァ書房(1998年)の一部を参考にします。
参考書	『20世紀の歴史(上・下)』エリック・ホブズボーム著、三省堂など。
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。

科目名	現代社会特殊講義（環境論）	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0980	担当教員	北條正司・保坂哲郎	所属	高知大学理学部(北條) 高知大学人文学部名誉教授(保坂)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>環境汚染、特に水質汚染の実態や仕組み、エネルギー争奪戦の実情を理解し、その中からどのような新しい仕組みが生まれ、世界的な温暖化規制を打ち出せるのだろうか。現状を分析しながら、世界的な環境問題解決を目指す模索を自然科学、および社会科学の視点から考える。</p> <p>一昨年の東日本大震災や福島原発事故を契機にして日本の電力発電供給システムのあり方や今後の日本のエネルギー確保のあり方が大きな問題となり、それは単に電力の問題にとどまらず国民生活や政治のあり方にまで大きな影響をあたえようとしている。政権の変更もあり、事態の進行を跡付けながら現実の問題点と進められてきた改善の性格を分析する。</p>
授業の進め方	<p>半期（15週）の講義であるが、前半を北條が担当し、後半を保坂が担当する。北條は教科書を使い、保坂はレジュメ等を使った講義になる。</p>
達成目標	<p>(1) 現在の大きな環境問題である温暖化防止や水質汚染問題に深い関心を持つ。</p> <p>(2) 自然科学と社会科学の視点から環境汚染や原発問題に関する最新の成果を理解する。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>前半（北條担当）は、自然科学の立場から水質汚染および地球環境問題について講義する。 後半（保坂担当）は、社会科学の立場から、福島原発事故問題の実態と改革をめざす現状、日本や各国の新エネルギー政策の特徴、また地球温暖化問題への取り組みの現状について講義する。</p> <p>前半</p> <p>第1回 バイオエネルギー（アルコール発酵）の重要性 第2回 地球と水 第3回 水の循環と利用 第4回 産業排水による水質汚染 第5回 生活排水による水質汚染 第6回 水道水と健康について 第7回 地球温暖化のメカニズム</p> <p>後半</p> <p>第8回 福島原発事故の問題点：推進と規制 第9回 核燃料サイクル問題 第10回 核廃棄物処理問題 第11回 エネルギー・原発問題に対する政府の取り組み 第12回 政権交代後のエネルギー・原発政策 第13回 再生可能エネルギーの国際的な拡大と問題点 第14回 地球温暖化問題の現状 第15回 地球温暖化問題に対する国際的取り組みの現状</p>
履修上の注意	<p>2012年度以前の「環境論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 出席をとります。</p>
教科書	<p>前半：『酒と熟成の化学～響きあう水とアルコール』北條正司・能勢晶共著、光琳（2100円）</p>
参考書	<p>授業時にそれぞれ紹介します。</p>
成績評価方法	<p>成績評価は、前半と後半の平均点を基にします。 前半は受講態度（40%）、レポート（50%）と小テスト（10%）などを評価します。 後半は受講態度（50%）とレポート（50%）にもとづいて総合的に評価します。</p>

科目名	現代社会特殊講義 (マスコミ論)	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0990	担当教員	白水 盛博	所属	同志社大学大学院
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	講義の前半では、マス・コミュニケーション論の基礎的なコンセプトや理論、フレームワークなどの基礎的な知識を、多くの事例を通して学習する。講義の後半は現代の人間関係や社会、ビジネスを大きく変化させているインターネット・IT技術によるコミュニケーションの変化を中心に、豊富な事例を通して講義する。また、最終回には受講生によるプレゼンテーションをおこなってもらう。
授業の進め方	特定の教科書は指定しない。講義の際に、その都度適切な配布資料を用意する。 講義の運営は基本的には講義を中心に行うが、理論の説明だけでなく、事例を豊富に扱う。また、学生によるディスカッションと意見や論点を共有する機会を多く設ける。 講義の最終回では受講生により、実際のコミュニケーションの事例に関するプレゼンテーションと質疑応答を行うってもらう。
達成目標	(1) マス・コミュニケーション論の基礎的なフレームワークやコンセプトを理解できるようになる。 (2) 現代に求められるコミュニケーションのあり方と、社会が抱える問題点を構造的に捉え、自ら問題意識を持つようになる。 (3) インターネットの普及とIT技術による新しいコミュニケーションのあり方について、理解し実践的な知識を身につける。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 ガイダンス 第2回 マスメディアの歴史 第3回 コミュニケーションの過程と機能 第4回 マス・コミュニケーションの構造 第5回 マス・コミュニケーションの効果 第6回 ジャーナリズムとマスメディア 第7回 産業としてのマスメディア 第8回 マス・コミュニケーションと世論 第9回 情報化社会とマス・コミュニケーション 第10回 次世代メディア・コミュニケーション1 (ICT、インターネット) 第11回 次世代メディア・コミュニケーション2 (ソーシャルメディア1) 第12回 次世代メディア・コミュニケーション3 (ソーシャルメディア2) 第13回 次世代メディア・コミュニケーション4 (炎上問題1) 第14回 次世代メディア・コミュニケーション5 (炎上問題2) 第15回 事例研究発表
履修上の注意	2012年度以前の「マスコミ論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。
教科書	特に指定しない。 講義の際に、その都度適切な配布資料を用意する。
参考書	『新版マス・コミュニケーション概論』清水英夫・林伸郎・武市英雄・山田健太、学陽書房(2009) 『マス・コミュニケーション論』露木茂・仲川秀樹、学文社(2004)
成績評価方法	期末試験(70%)、小テスト(10%)、講義及びディスカッションへの参加姿勢(10%)、プレゼンテーション(10%)などから総合的に評価する。

科目名	現代社会論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G1000	担当教員	寺田 博	所属	元高知短期大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	わたしたち人間は社会のなかでしか生きることができません。したがってわたしたちがどのように生きることができるか、は社会のあり方によって決まります。{現代社会論}は、「現代」の「社会」のあり方を講義します。「現代」とは「太平洋戦争の敗北以後」=「戦後」から現在にいたる時代として、「社会」とは「家族・(略)・会社・政党・階級・国家などが主要な形態」(広辞苑)と定義されます。いま、日本社会は、若者の就職難などの雇用不安、格差・貧困の拡大、少子高齢化による育児・教育、医療・介護・年金問題、さらには原発崩壊による「いのち」そのもの・生活基盤そのものの崩壊の危機、などに直面しています。この講義では、こうした諸問題を考えることをとおして「現代日本社会」の課題を検討します。また、「現代日本社会」の理解は、法学・政治学・経済学を学ぶ上での基礎となるものだと考えます。
授業の進め方	授業は講義形式で、毎回配布するレジュメと資料により行います。 授業方法は、「新聞による教育」(NIEs)の方式をとります。 質疑はいつでも受け付けます。授業の途中、授業後、あるいはメールでの疑問・質問、いずれもOKです。できれば、問答形式の授業をめざします。
達成目標	新聞記事やインターネットの情報をとおして現代日本社会を読み取る力=リテラシーを獲得する。 現代社会で生じる諸問題は、いずれも自分の生活と密接に関係することを理解する。 現代の社会問題の多くは、自然現象のように不可避なことではなく、さまざまな人間の営みによって生じていることを理解する。 したがって、現代社会の諸問題は私たちを含む国民の意識、選択、参加によって変わりうるものであることを理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 現代社会論で何を学ぶか ・「日本社会は壊れている」 ・「限界にっぽん」「100円で夜をしのぐ」人たち ・「政府に期待なんかない」 第2回 現代社会における国民生活の諸相 「1%と99% ウォール街を占拠せよ」、格差社会をみる 第3回 「ネットカフェ難民」から「マクド難民」へ、失職 居場所求め街転々 第4回 「日本には過労死するほど仕事があり、自殺するほど仕事がない(ネットから)」、過労社会と自殺社会 第5回 「誰でもいいから殺したかった 秋葉原事件」、非正規雇用の拡大と若者の孤立 第6回 「おにぎりが食べたい」、餓死と生活保護 第7回 「無縁死3万2千人(NHK報道)」、家族の解体と高齢者の孤独死 第8回 「一度転んだらどん底まで、すべり台社会、にっぽん」、セーフティネットの崩壊 第9回 「原発は安全です」、「原発神話」と「想定外」そして国民生活の崩壊 第10回 現代日本社会と「構造改革」 「働き方の構造改革」と企業 第11回 「構造改革」と現代日本社会 第12回 医療・介護・年金と「構造改革」 第13回 現代社会と国家 9.11と3.11 第14回 現代社会における国家の役割 政治への「絶望」から国民のための国家へ 第15回 まとめ 現代社会は変えることができるか？
履修上の注意	特になし。
教科書	教科書は使わない。
参考書	参考書・参考資料は配付できる物は配布し、その他はその都度授業で紹介する。
成績評価方法	試験70% 講義への参加姿勢30%

科目名	高知学	単位数	2	期別	集中
科目コード	H0906	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	我が国の人口減少や高齢化等の進行が著しい現状において、地域として持続的発展を図るために、地域自らが意思をもって様々な取り組みが行われている。本講義では、実学的視点から高知県内における地域おこしの現場を訪問し、主にフィールドワークを通して地域課題の抽出・課題の分析・政策づくり、そして最も重要な担い手の育成と役割を考える場としたい。
授業の進め方	講義及びフィールドワークの実施。
達成目標	(1) 地域の課題を把握する。 (2) 地域課題を解決するための政策形成の過程を理解する。 (3) 受講生が「地域の担い手」となる可能性・必要性を意識する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 地域振興・地域政策とは 第3回 高知県の地域振興 第4回 地域振興の県外事例紹介 第5回 グローバル企業からみた高知県 第6回～14回 フィールドワーク なお、フィールドワーク中に、地域振興及び地域再生に関する講義を実施。 第15回 まとめ</p> <p>フィールドワークの実施(予定) 場所 高知県黒潮町、四万十市 実施時期 9月上旬(1泊2日) 費用 15,000円程度(宿泊代、体験実習代) 宿泊場所 黒潮町 内容 四万十流域における地域振興 地域振興に関する取り組み(四万十ドラマ株、NPO砂浜美術館) 環境保全への取り組み ・ビーチコーミング 漂流物から学ぶ(砂浜美術館) 地域資源を活かした商品づくり ・砂浜美術館と共同でグループワークし、学生から企画商品の提案をする。</p> <p>注) シラバスの記載事項は、現在調整中であることから、変更することもある。 詳しい内容は、後日掲示する。</p>
履修上の注意	地域振興に興味のある方に来て欲しい。また、フィールドワークは、地域の多くの方々のご支援によって成り立っていることを理解して、感謝の念を忘れず、学生時代の学びのよい機会としていただきたい。 受講申請の方法など別途掲示する
教科書	特になし。
参考書	『コミュニティデザイン』山崎亮著、学芸出版社(2011) 『100円商店街・バル・まちゼミ：お店が儲かるまちづくり』長坂泰之ほか著、学芸出版社(2012)
成績評価方法	レポート(50%)と参加姿勢(50%)より評価する。なお、フィールドワークへの参加は履修上の必須要件である。

科目名	高知学	単位数	2	期別	後期
科目コード	H0908	担当教員	今城 逸雄	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	生活に欠かせない「買い物」における諸問題を通して、地域社会を考えます。
授業の進め方	授業は、学内での講義及びグループワーク、商店街でのフィールドワークを組み合わせで行います。授業を通して得た成果をグループで発表し、各自でレポートにまとめてもらいます。
達成目標	(1) 買い物を通して、中心市街地及び高齢化社会における問題を説明することができる。 (2) 買い物を通して、今後の地域社会の姿を予測することができる。 (3) 地域政策を考え、行動を起す力を身に付けることができる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	消費行動の変化、都市政策・商業政策などから、地域が抱える問題を概観します。 その後、高知市中心商店街でのフィールドワークを行います。 商店街が抱える問題をグループごとに見つけ、それに沿った調査を行った上で、実施可能な解決策を発表してもらいます。 この授業は、課題に対して学生自らが考え行動し、積極的に意見交換することで問題の本質は何かを見つけ出す授業です。 後期の土・日・祝日を利用した、4日間の集中講義となります。 具体的日程については後期開始前に掲示します。 第1日目 第1～2回 9:00～12:00 全体のガイダンス、消費行動の変化 第2日目 第3～6回 9:00～17:00 商業の実態把握、商業政策・交通・都市政策の問題、商店街フィールドワーク 第3日目 第7～10回 9:00～17:00 商店街フィールドワーク、調査結果まとめ 第4日目 第11～15回 9:00～17:00 成果発表、買い物弱者問題、将来予測
履修上の注意	商店街でのフィールドワークを2回行います。 グループ発表の準備などは、基本的に授業時間外で行いますので、グループ内で時間調整をするようにしてください。 受講申請の方法などは別途掲示します。
教科書	特定の教科書は使用しません。
参考書	授業中に適宜紹介します。
成績評価方法	レポート(40%)、グループ発表(30%)、授業への参加姿勢・プロセスの評価(30%)から総合的に評価する

科目名	外書講読	単位数	2	期別	前期
科目コード	H0990	担当教員	團野 哲也	所属	高知県立大学地域教育研究センター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>一般向けに書かれた統計社会科学の本を読みます。 文章の逐語訳ではなく、著者の主張点、社会での実情との比較ができるように、丁寧に読み解いていきます。 4年制大学の3年次編入試験に対応した英語力を身につけることを目指します。 今期は、格差についての本を読みます。</p>
授業の進め方	<p>受講生主体に授業を進めます。 回読システムとします。 予習を主体に進めます。</p>
達成目標	<p>(1) 社会科学の語彙を増やす。 (2) 文章だけではなく、本文中の図表の意味が分かるようになる。 (3) 社会の格差現象について、さまざまな視座を通して理解できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>Lesson 1. オリエンテーション 著者紹介, 視聴覚教材 Lesson 2. Part 1 The end of an era Lesson 3. Poverty or inequality? Lesson 4. How inequality gets under the skin Lesson 5. Part 2 Community life and social relations Lesson 6. Mental health and drug use Lesson 7. Physical health and life expectancy Lesson 8. Obesity: wider income gaps, wider waists Lesson 9. Educational performance Lesson 10. Teenage births: recycling deprivation Lesson 11. Violence: gaining respect Lesson 12. Imprisonment and punishment Lesson 13. Social mobility: unequal opportunities Lesson 14. Part 3 Dysfunctional societies Lesson 15. Our social inheritance</p>
履修上の注意	<p>教科書を持参してください。 辞書(紙媒体, 電子辞書)を持参してください。</p>
教科書	<p>The Spirit Level: Why Greater Equality Makes Societies Stronger Kate Pickett (著), Richard Wilkinson (著) Bloomsbury Pub Plc (2011/4/26)</p>
参考書	<p>ISBN-10: 1608193411 ISBN-13: 978-1608193417</p>
成績評価方法	<p>授業への取り組み(30%) Reading Assignment(40%) 最終レポート(30%) などから総合的に評価します。</p>

科目名	外書購読	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1000	担当教員	寺田 博	所属	元高知短期大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「外書購読」は「英文」を「訳読」することを内容とします(英語のみを対象とします)。したがって授業では、英語の文章を「正確」に読み、それを的確な日本語に「訳読」することをめざします。ですから、英文を正しい発音で読み、それを日本語で「正しく表現」することが求められます。英語を「訳読」ということは、日本語の理解力を高め、日本語の表現力を磨き、思考力をつけることでもあります。
授業の進め方	授業では、あらかじめ英文を配布します。受講生はそれぞれ割り当てられた担当箇所を事前に予習をして「訳読」したうえで授業に参加することが求められます。そして、授業は各自が「訳読」してきた文章を発表してもらい、それを全員で検討するという方法で行います。 また、授業の初めに、メールで日々配信される英字新聞の最新記事から時事的に重要な表現を Quotation of the Day として取り上げ、その「訳読」をとおして現代国際社会、日本社会の理解を深めます。
達成目標	(1) 英文を音読させることで発音に対する関心と自覚をもたせる。 (2) 正しく発音することは、英語を聞き取る上で不可欠であることを理解させる。 (3) あらゆる機会にきちんと辞書を引くという姿勢を身につけさせる。 (4) 英単語の訳を機械的に辞書から選択するのではなく、どの訳語がもっとも適切であるかを英文全体の文意を考えながら選択できる力をつける。 (5) 英文を「訳読」ということは、日本語の理解力をつけ、表現能力を高め、さらには思考力を磨くことであることを理解させる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 外書購読 のオリエンテーション 英語の「訳読」と英会話 第2回 英語の「訳読」の意義のその方法 第3回 日本語の考え方、英語の考え方 第4回 日本語の考え方、英語の考え方 第5回 日本語の世界、英語の世界 第6回 日本語の世界、英語の世界 第7回 英字新聞を読む The New York Timesの記事を読む 第8回 英字新聞を読む The New York Timesの社説を読む 第9回 英字新聞の社説を読む The New York Timesの社説を読む 第10回 英字新聞のコラム欄を読む The New York TimesでPaul Krugmanを読む 第11回 英字新聞のコラム欄を読む The New York timesのOpinionを読む 第12回 日本国憲法を英語で読む 第13回 著名演説・歌詞を英語で読む 第14回 編入試験の英文を読む 第15回 補足とまとめ
履修上の注意	(1) 外書購読 との連携はありません。 (2) 対象者は主として編入希望者となりますが、必ずしもそれに限定しません。英文を 読むことに関心のある人も積極的に受講してください。
教科書	教科書は使いません。
参考書	なし
成績評価方法	授業における発音力、「訳読」力、英語に対する努力・姿勢を主として評価基準とします。 試験は「訳読」力の達成度を確認するために行う。 講義への姿勢、講義での達成度40%、試験60%。

科目名	キャリアデザイン	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1010	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	自分の生き方と職業との関係について学ぶ。
授業の進め方	プリントと新聞記事等を資料とし、質疑意見等含めて進める。
達成目標	(1) 働くことの意味を理解する。 (2) 職業や経済社会について理解する。 (3) 自己理解を深め職業と自己実現・生きがいについて理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1 回 オリエンテーション アンケート 第 2 回 キャリア・デザインとは 第 3 回 職業とは・・・とらえ方 職業観の移り変わり 第 4 回 職業と社会・・・今なぜキャリア・デザインか 第 5 回 働くとは・・・職業的規範 職業に対する意識 第 6 回 個人と職業・・・レディネス 第 7 回 自己と職業のかかわり 第 8 回 自己理解の意味 第 9 回 自己理解の方法 第 10 回 人との出会い 第 11 回 職業選択と自己理解 第 12 回 学生期のキャリアビジョン 第 13 回 生きがい 労働の人間化 第 14 回 自己実現と職業・生き方 第 15 回 職業をめぐる今日的な課題
履修上の注意	この授業では、より良い職業的自立のために必要な知識を講義する。
教科書	そのつどプリント等を配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験(80%)・レポート・発表等(20%)を考慮しながら総合的に評価する。

科目名	社会人基礎力養成講座	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1011	担当教員	坂本 ひとみ	所属	ほほえみクリエイティブ(キャリアコンサルタント)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	様々な角度からの自己分析をとおして、自分の価値観を知り、「強み」「弱み」を知る。また、社会の状況を知り、「求められている人材とは？」について考え、自分とのGAPを分析する。そこから、将来や職業観について考えていく。
授業の進め方	ワークシート、グループディスカッションを含めた授業の展開
達成目標	(1)自らの将来を考える機会を提供し、キャリア設計力を高める。 (2)「自分らしい就職・進学」のための戦略を考える。 (3)職業観の形成を支援し、基礎力の向上を図る。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション キャリアとは？ 第2回 ワークキャリアとライフキャリア 第3回 価値観発見 自分らしさを知る 第4回 自己分析 第5回 コミュニティとコミュニケーション 第6回 現代社会とキャリア 第7回 社会を知る 今求められている能力 第8回 世界、日本、高知を知る 第9回 業界、職種、組織を知る 第10回 職場の環境と職場の現象 第11回 人材マネジメントの戦略 第12回 キャリア開発と自己PR 第13回 履歴書と自己PR 第14回 ビジネスマナー 第15回 まとめ 自分らしい生き方・働き方
履修上の注意	この授業では、より良い職業的自立のために必要な知識を講義します。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート(70%)・発表(30%)等を総合的に評価する

科目名	消費生活論	単位数	2	期別	集中
科目コード	H1012	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。
授業の進め方	講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。
達成目標	(1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力を養成すること。 (2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量を身につけること。 (3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 消費者問題概論(ガイダンス含む) 第2回 消費生活に必要な民法の知識 第3回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第4回 生活に必要な特定商取引法・割賦販売法の知識 第5回 若者と高齢者被害の救済事例 第6回 公正な競争の確保のために～独占禁止法等～ 第7回 経済の仕組みと消費生活～税金・物価・社会保障・保険～ 第8回 調停・訴訟等に関する知識 第9回 消費者教育の意義 第10回 食品表示の基礎知識 第11回 食品表示の基礎知識 第12回 消費生活とお金に関する基礎知識 第13回 金融商品に関する基礎知識 第14回 情報通信サービスに関する基礎知識 第15回 環境問題に関する基礎知識 講義の順序に変更がある場合もあり
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。
参考書	講義のなかで紹介します。
成績評価方法	毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、国際法に関する国内の判例の分析を中心に行う。判例の分析を通して、理論が実際の裁判にどのように使用されているかを学ぶことにより、国際法の応用力を身に付けていく。
授業の進め方	演習形式で行い、学生による報告及び議論により進めていく。場合によっては、フィールドワークを行う。
達成目標	(1)判例を理解し分析できるようになる。 (2)議論に積極的に参加できるようになる。 (3)判例をまとめ報告できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	この演習は、報告や議論によって文章読解力を培うだけでなく、演習参加者との関係性や調和についても学ぶことを目的とする。 国際法は国家関係を規律する法であるが、その分野は領域、人権、貿易、環境、戦争等多岐にわたる。学生諸君には、各自が興味のある国内判例を選んでもらい、報告してもらう。 第1回 オリエンテーション 第2回 報告の方法及び判例の選択 第3回 教員による模擬報告 第4回 学生による報告 第5回 学生による報告 第6回 学生による報告 第7回 学生による報告 第8回 学生による報告 第9回 学生による報告 第10回 学生による報告 第12回 学生による報告 第13回 学生による報告 第14回 学生による報告 第15回 まとめ
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。受講手続きについては、別途、掲示します。
教科書	『ベーシック条約集』松井芳郎編、東信堂(2013年)、『判例国際法(第2版)』松井芳郎編、東信堂(2010年)の購入が望ましい。なお、条約集については、最新版を購入してほしい。
参考書	特に指定しない。
成績評価方法	授業態度(80%)、報告内容(20%)をあわせて評価。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、地域経済活性化に向けて、地域がどのように取組み、悩み、行動しているかを検討し、地域市民としての素養の醸成を図ることを目指す。
授業の進め方	演習方式で進め、学生による報告とそれに伴うディスカッションを実施する。 また、地域を知るためには、フィールドワークも重要であり、演習とあわせて実施する。
達成目標	(1) 地域が生活の場所であることを確認する。 (2) 地域の置かれている厳しい現状と課題を理解する。 (3) 地域の担い手としての自覚を確立できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 地域とは何か 第3回 地域調査手法について 第4回 フィールドワーク 第5回～7回 輪読 地域の課題 第8回～10回 輪読 多様性を受け入れるまちづくり 第11回 フィールドワーク 第12回～第14回 輪読 人と人、まちとまちをつなげるしくみ 第15回 まとめ
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。受講手続については、別途、掲示します。 地域に関心があることが望ましい。受講生の活発な発言なしでは演習は成り立たないことを自覚し、積極的な姿勢を期待している。また、本演習ではフィールドワークの参加が必須条件であることを認識してください。
教科書	『地域を変えるソフトパワー』藤浩志ほか著、青幻舎(2012)
参考書	『コミュニティデザイン』山崎亮著、学芸出版社(2011) 『100円商店街・バル・まちゼミ：お店が儲かるまちづくり』長坂泰之ほか著、学芸出版社(2012)
成績評価方法	報告レジュメの内容(30%)、フィールドワークの参加(20%)、講義への貢献度(50%)から総合的に評価する。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期	
科目コード	H1020	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	各受講者が政治社会に関する雑誌、書籍、論文などから関心のあるテーマを探し、それを報告し、受講生全員で議論することを通じて、テーマを発見し報告する力を養成することと、政治社会の様々な問題に対する理解を深めることを目指します。
授業の進め方	演習形式で進めます。具体的には、毎回担当者を決めたと、関心のあるテーマについて書かれた雑誌、書籍、論文などを探す、それを報告する、報告の後、全員で議論、教員の解説を行う、という手順で進めます。受講生が探してくるテーマについては、政治社会に関するものであれば、何でもかまいません(政治史、政治思想などでも可)。また、書籍を探してくることが難しいと考えている受講生には、下の参考文献などの書籍を提示しますので、その中から報告するテーマを選んでいただいてもかまいません。なお、詳しい進め方、テーマの探し方については、第1回と第2回の授業で説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治社会現象を理解し、説明できるようになる。 (2) テーマを発見し報告する力を身につける。 (3) 政治社会の様々な問題に対する理解を深める。
授業計画 (講義の具体的 内容)	以下の各回に書かれているテーマは例示です。テーマはそれぞれの受講生の関心によって決まります。 第1回 オリエンテーション 第2回 大阪維新の会の支持態度(教員による報告例) 第3回 教育行政の問題 第4回 脱原発問題 第5回 2012年アメリカ大統領選挙 第6回 生活保護 第7回 いじめ問題 第8回 モンスターペアレント 第9回 震災復興 第10回 国民投票 第11回 無縁社会 第12回 大学に行く価値 第13回 2012年衆院選 第14回 教育の国際化 第15回 まとめ
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。受講手続については、別途、掲示します。
教科書	使用しません。
参考書	『ポリティカル・サイエンス事始め【第3版】』伊藤光利編、有斐閣(2009年)；『公共政策学の基礎』秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉著、有斐閣(2010年)；『はじめて学ぶ政治学 古典・名著への誘い』岡崎晴輝・木村俊道編、ミネルヴァ書房(2008年)など。
成績評価方法	授業への参加態度(100%)によって評価します。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この演習では、刑法各論のトピックスを事例問題を通して取り扱っていきます。
授業の進め方	刑法各論のトピックスに関する事例問題を各自取り上げ、問題点や罪責の有無等を報告し、それを他の履修者と共に議論していきます。
達成目標	(1)刑法各論の知識を事例研究に応用する力を身につけること。 (2)議論することを通じて、各自の考察を深めること。 (3)自分の考察した問題について文章で表現できるようにすること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	この演習では、受講生各自が具体的な刑事の事例問題を取り上げ、自分なりの答えを見つけた後で、報告し、受講生全員で討議することで、よりよい解決方法を見つけていこうとするものです。 議論を通じて自分の考えをさらに練り上げ、それをレポートに反映することができるようになることを目標とします。 裁判員制度が始まり、4年目になりました。わたし達は刑事事件の解決について自らの考えを提示していかなければなりません。この演習がその一助になることを願います。 第 1回 はじめに 第 2回 生命・身体に対する罪(1) 第 3回 生命・身体に対する罪(2) 第 4回 生命・身体に対する罪(3) 第 5回 生命・身体に対する罪(4) 第 6回 自由に対する罪(1) 第 7回 自由に対する罪(2) 第 8回 自由に対する罪(3) 第 9回 財産犯(1) 第10回 財産犯(2) 第11回 財産犯(3) 第12回 財産犯(4) 第13回 社会的法益に対する罪(1) 第14回 社会的法益に対する罪(2) 第15回 国家的法益に対する罪 以上はあくまでも目安です。参加人数や議論の活発さによって進度は異なっていきます。
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。受講手続については、別途、掲示します。
教科書	課題はプリントを配布します。
参考書	執筆者等は指定しませんが、刑法総論及び各論の教科書と平成25年度版の六法を必ず持参すること。
成績評価方法	報告40%、議論などへの参加30%、レポート30%

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、労働法や社会保障法に関する最新の論文の検討を行う。最新の理論を検討することをおして、どのような点がいま社会で問題となっているかを理解し、法的知識の涵養を目指す。
授業の進め方	演習形式により、各自が関心をもつ問題を扱っている論文に関して、学生が毎回報告することによって授業を行うこととする。
達成目標	(1) データベースなどを用いて効率的に文献を調べる方法を学ぶ。 (2) 資料を収集し、報告することができるようになる。 (3) 報告者の報告の内容を理解した上で、議論に参加できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	以下の授業計画は例であって、受講生の関心によって適宜変更することはありうる。 第 1 回 はじめに 第 2 回 非正規労働者をめぐる問題 第 3 回 雇用保険と求職者支援制度 第 4 回 生活保護制度をめぐる今日的課題 第 5 回 介護保険法改正と障害者総合支援法 第 6 回 労働契約法の意義 第 7 回 高齢者医療をめぐる問題 第 8 回 ワークライフバランスの法的課題 第 9 回 障害者権利条約と障害者差別禁止 第 10 回 少子高齢化と公的年金 第 11 回 企業年金の減額・廃止 第 12 回 ひとり親家庭と社会手当 第 13 回 労働条件の決定と変更 第 14 回 待機児童と幼保一元化 第 15 回 まとめ
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。受講手続については、別途、掲示します(演習に参加する学生の定員は12名とし、面接その他の方法で選抜することなど)。 。 労働や社会保障に関心のある者であれば、事前の知識の有無は問わない。
教科書	とくに指定しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
成績評価方法	報告の内容(70%)、議論への参加度合い(30%)から評価する。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	企業取引法に関する現代的課題を事例問題を通じて取り上げる。日常生活の中で、どのような企業取引がなされ、法が取引の中でどのような役割を果たしているのか、またどのような課題があるのかについて学ぶ。
授業の進め方	企業取引法に関する事例問題を、各自が取り上げて報告し、全員で議論する。
達成目標	(1) 選択したテーマについて、資料を収集することができるようになる (2) 収集した資料を分析・考察し、レジュメとしてまとめることができる。 (3) 参加者にわかりやすいように報告することができる。 (4) 報告されたテーマについて
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 演習の進め方と報告方法について 第2回 教員による報告例 第3回～第15回 報告会
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。受講手続については、別途、掲示します。
教科書	なし
参考書	授業中に紹介する。
成績評価方法	報告の内容(60%)、演習への参加姿勢(40%)から評価する。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期	
科目コード	H1020	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	経済学に何ができるかを考える。
授業の進め方	演習形式で進める。具体的には、毎回、教科書の一部を、一人あるいは複数の受講生が報告し、その報告をもとに参加者全員で討論する。
達成目標	(1) 経済学の基本的な論理を理解できるようになる。 (2) 経済制度や慣行を歴史的な流れの中で捉え直すことができるようになる。 (3) 民主主義のもとにおける経済学の可能性と限界を考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 序章 制度と政策をめぐる二つの視点 第2回 第1章 税と国債 第3回 第2章 中央銀行の責任 第4回 第3章 インフレーションの不安 第5回 第4章 不確実性と投資 第6回 第5章 貧困と失業の畏 第7回 第6章 なぜ所得格差が問題なのか 第8回 (公開講座) 第9回 第7章 知識は公共財か 第10回 第8章 消費の外部性 第11回 第9章 中間組織の役割 第12回 第10章 分配の正義と交換の正義 第13回 第11章 経済的厚生と幸福 第14回 終章 経済学に何ができるか 第15回 おわりに</p> <p>*教科書の進度や輪読の順番は、受講生の希望や理解度等により変更することがある。</p>
履修上の注意	社会科学演習 ・ は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。受講手続については、別途、掲示します。
教科書	『経済学に何ができるか』猪木武徳、中公新書(2012年)
参考書	
成績評価方法	報告の内容(50%)と議論への参加状況(50%)により評価する。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	梅村 仁	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	桑原 尚子	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習 (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	坂本 ひとみ	所属	ほほえみクリエイト(キャリアコンサルタント)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく基礎的な力として、ディスカッションを通してコミュニケーションスキルの向上と基礎的な知識の習得を図り、就職につながる力を養成する。具体的には情報収集力を身につけ就職活動への活かし方を学ぶ。就職活動の現状を知り、自らの課題を見つめ、解決に向けた取り組みを考える。
授業の進め方	演習形式で進めます。円滑な就職活動に向けて、就職活動に必要な知識を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。
達成目標	(1) 読解、作文、プレゼンテーションなどの能力、現代社会を考える上での基礎的な知識など、就職に必要な基礎能力の向上を図る (2) 自分の将来展望を深く考察し、社会的自立に向けた素地を形成する。 (3) 就職活動をデザインし、キャリア設計力を高める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 就職活動とは 第2回 就職活動の流れ 第3回 自己分析・自己理解 第4回 エントリーシート・履歴書について 第5回 希望する業界・職種・企業について 第6回 希望する業界・職種・企業について 第7回 免許や資格を知る 第8回 就職活動の現状 第9回 情報収集と活用 第10回 ビジネスマナー 第11回 ビジネスマナー 第12回 適性試験について 第13回 面接対応 第14回 面接対応 第15回 まとめ 就職活動に向けて
履修上の注意	主に就職希望者を対象としています。社会科学演習は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。この就職対応の社会科学演習(坂本ゼミ)の受講希望者は第1、2回目の授業に出席し、受講希望を伝えてください。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート(70%) 発表(30%)等を総合的に評価する

科目名	社会科学演習（根岸）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習（下山）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習（青木）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習（菊池）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	
授業の進め方	
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	
履修上の注意	
教科書	
参考書	
成績評価方法	

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	坂本 ひとみ	所属	ほほえみクリエイト(キャリアコンサルティング)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、的確なコミュニケーションを行う能力と基礎的知識の習得を図り、就職につながる力を養成する。社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。具体的には、企業から求められる能力を理解し、対人スキルの向上を図る。自らの課題を明確にし、解決に向けた戦略を考える。社会人としての基礎力を身につける方法を学ぶ。
授業の進め方	演習形式で進めます。就職活動のための情報を提供し、個々人の就職を取り巻く課題の解決に向けて必要な知識を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。
達成目標	(1) 読解、作文、プレゼンテーションなどの能力、現代社会を考える上での基礎知識を養い、社会人としての基礎力の向上を図る (2) 自分の将来展望を深く考察し、主体的にキャリア形成する力を育てる (3) 職業生活の設計を行うための機会を提供し、就職力を高める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション キャリア設計 第2回 企業が求める人材とは 第3回 就職基礎能力について 第4回 自己理解とコミュニケーション 第5回 志望動機・自己PR 第6回 ビジネスマナー 第7回 適性試験 第8回 面接対応 第9回 面接対応 第10回 採用と選考 第11回 ストレスマネジメント 第12回 就職の基礎知識（法律・制度） 第13回 仕事の評価 第14回 働くことの意味 第15回 まとめ
履修上の注意	主に就職希望者を対象としています。社会科学演習は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。この就職対応の社会科学演習（坂本ゼミ）の受講希望者は第1、2回目の授業に出席し、受講希望を伝えてください。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート（70%）・発表（30%）等を総合的に評価する

科目名	地域政策演習	単位数	6	期別	通年
科目コード	SA011	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>テーマ「観光産業」</p> <p>観光は高知県の地域振興にとって重要な役割を期待されています。この演習では観光に関わる産業（宿泊、テーマパークなど）を調査し、経営学の視点から現状と課題を明らかにします。</p>
授業の進め方	<p>講義及びフィールドワークを実施。</p>
達成目標	<p>自分でテーマを設定し、調査・インタビューする能力を身につける。</p> <p>調査・インタビューで入手した情報を分析する能力を身につける。</p> <p>分析結果を論理的に整理し、論文としてまとめる能力を身につける。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第 1 回～第 1 0 回 観光産業についての基礎を学び、調査計画を立案する。</p> <p>第 1 1 回～第 3 0 回 フィールドワークの実施。</p> <p>第 3 0 回～第 3 5 回 フィールドワークで得たデータの整理。</p> <p>第 3 5 回～第 4 5 回 調査結果を論文にまとめる。</p> <p>フィールドワークの調査地は、受講生と相談して決定します。</p>
履修上の注意	<p>フィールドワークでは交通費等の経費が必要になります。</p> <p>経営学特講を合わせて履修してください。</p>
教科書	<p>特になし</p>
参考書	<p>適宜、参考図書を紹介。</p>
成績評価方法	<p>レポート（50%）と参加姿勢（50%）より評価する。</p>

科目名	地域政策特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SA021	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	グローバル化、厳しい財政等の影響を受け、わが国は大きな変革を求められている。 本講義は、変革期における地域の持続的発展に向けたパブリック（公共）の動きに焦点をあて、現状と課題を学習したのち、今後パブリックが進むべきか、公共経営の視点から検討する。
授業の進め方	講義形式を取るが、議論への積極的な参加も重視する。
達成目標	(1) 我が国の改革の現状と課題を理解する。 (2) パブリックの問題を生活者の観点から予測することができる。 (3) 地域と公共の近接性を理解し、最適な政策を考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 ガイダンス - 地域政策の潮流 第2回 ニューパブリックマネジメント(NPM) 第3回 英国におけるNPMの概要 第4回 地域政策に影響を与える課題 国と地方の役割 第5回 地域政策に影響を与える課題 財政問題 第6回 地域政策に影響を与える課題 人口減少と中山間地域 第7回 新たな地域の担い手 まちづくりと市民活動の活発化 第8回 新たな地域の担い手 NPOの活動 第9回 新たな地域の担い手 事業者（企業）の地域貢献 第10回 改革の手法 行政評価制度 第11回 改革の手法 公民連携PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ） 第12回 変わる地域政策 ソーシャルネットワークの活用 第13回 変わる地域政策 新しいリーダー（首長）の登場 第14回 変わる地域政策 進化する公務員（自治体職員ネットワーク） 第15回 まとめ：期待される地域づくり
履修上の注意	地域づくりに興味のある方の参加を望みます。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	『地域を変えるソフトパワー』藤浩志ほか著、青幻舎（2012）
成績評価方法	期末レポート（80%）、講義への参加姿勢（20%）より総合的に評価する。

科目名	地域経済論特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SA030	担当教員	石筒 寛	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	地域経済が抱える問題について、その原因や背景を分析した上で、それを取り巻く様々な見方について検討します。
授業の進め方	演習形式で行います。地域経済に関連する文献を使用し、その論点や課題について、報告を交えながら議論します。
達成目標	(1) 政策的な観点から地域の経済問題を考えることができるようになる。 (2) 自分と異なる意見や見方、立場についても考えることができるようになる。 (3) 時間軸と空間軸の双方で経済的な事柄をとらえることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 地域経済を取り巻く諸問題 1 第 3 回 地域経済を取り巻く諸問題 2 第 4 回 地域経済を取り巻く諸問題 3 第 5 回 地域経済を取り巻く諸問題 4 第 6 回 地域経済を取り巻く諸問題 5 第 7 回 空間的視点から経済を考える 1 第 8 回 空間的視点から経済を考える 2 第 9 回 空間的視点から経済を考える 3 第 10 回 空間的視点から経済を考える 4 第 11 回 空間的視点から経済を考える 5 第 12 回 地域経済を取り巻く自分の経験 1 第 13 回 地域経済を取り巻く自分の経験 2 第 14 回 地域経済を取り巻く自分の経験 3 第 15 回 まとめ
履修上の注意	文献は難しいものを使用することはありません。文献は第 1 回の授業の際に決めます。
教科書	授業中に指示します。
参考書	授業中に指示します。
成績評価方法	授業参加 (30%)、ディスカッションの内容 (40%)、報告内容 (30%)

科目名	地域財政論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SA040	担当教員	霜田 博史	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>地方分権改革は、1990年代以降現在に至るまで、日本の大きな政策課題となっている。地方分権改革が地域の自立と維持可能な発展につながるのかということが重要なポイントとなるが、そのためには地方自治体の財政が安定的に運営されることが必要不可欠である。</p> <p>本講義では、現在の日本の地方財政のあり方を概観しながら、今後の地方財政の改革課題とその方向性について考えてみたい。</p>
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	<p>(1)現代日本の地方財政に関する基礎知識を習得する。</p> <p>(2)地方財政の現状と改革課題についてが理解できるようになる。</p> <p>(3)地方財政改革の方向性についての問題意識を持つことができるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 現代社会における地方財政の役割 地方財政の仕組み</p> <p>第 3 回 現代社会における地方財政の役割 地方財政の理論</p> <p>第 4 回 現代社会における地方財政の役割 現代経済と財政</p> <p>第 5 回 地方自治体の予算制度</p> <p>第 6 回 地方経費</p> <p>第 7 回 地方経費</p> <p>第 8 回 地方税と課税自主権</p> <p>第 9 回 地方税と課税自主権</p> <p>第 10 回 国庫支出金からみる国と地方の財政関係</p> <p>第 11 回 国庫支出金からみる国と地方の財政関係</p> <p>第 12 回 地方交付税の仕組みと役割</p> <p>第 13 回 地方交付税の仕組みと役割</p> <p>第 14 回 地方財政改革の方向性</p> <p>第 15 回 まとめ</p>
履修上の注意	内容の順序については、事情により変更することもある。
教科書	特になし。レジュメおよび資料を配布する。
参考書	必要なものについて、授業中にそのつど推薦する。
成績評価方法	期末試験(100%)により評価する。

科目名	地域金融論	単位数	2	期別	前期
科目コード	SA053	担当教員	長瀨 裕士	所属	四銀キャピタルリサーチ(株)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>実態経済で発生する、あるいはメディア等を通じて見聞きする現象や施策などの因果関係や、その意味合い等を理解するための基礎知識の習得を目指します。</p> <p>併せて、本講義では、近年の金融・経済に関する事象（金融危機、インフレーションなど）や、中小企業金融やパーソナルファイナンスについても講義します。</p>
授業の進め方	<p>基本は講義形式ですが、双方向コミュニケーションや、受講者同士の意見交換など、適宜、ゼミナール要素も取り入れる予定です。</p>
達成目標	<p>(1)金融、および金融システムの基礎を学ぶことによって、各種経済指標や日々の経済・金融関連事象などについて、その概要や背景を理解できるようになる。</p> <p>(2)地域金融の実状と課題等について学習することにより、金融問題を地域経済と結びつけて理解することができるようになる。</p> <p>また、本講義は、現代経済社会を理解するうえで不可欠な金融の理解を通じて、受講者の社会的自立を支援することを目的の一つとしています。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>本講義では、金融、および金融システムの概要、金融の要となる金融機関の役割等、そして実態経済における経済活動の主体である企業や個人の経済活動といわゆる「経済」のかかわり、最後に、これらを踏まえて地域経済の在り方とその活性化への取り組み、について学習します。</p> <p>具体的な授業計画は、以下の通りです。</p> <p>講義計画</p> <p>第1回 ガイダンス、「金融」の概念</p> <p>第2回 経済活動と金融</p> <p>第3回 近年の経済・金融の動向</p> <p>第4回 金融機関の種類と役割（1） 金融機関の役割、現状と課題</p> <p>第5回 金融機関の種類と役割（2） 種類と歴史、再編動向</p> <p>第6回 金融業務（1） 伝統的な金融業務、信用創造と金利</p> <p>第7回 金融業務（2） 規制緩和、収益構造、金融行政の方向性</p> <p>第8回 地域密着型金融の概要と実状</p> <p>第9回 中小企業金融の概要と課題</p> <p>第10回 パーソナルファイナンス（PF）と地域経済</p> <p>第11回 地域経済・地域金融の現状</p> <p>第12回 地域活性化に向けた取組事例とその意義</p> <p>第13回 地域通貨の意義と課題</p> <p>第14回 地域経済再生への課題</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>2012年度以前の「地域金融システム論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。</p> <p>基本的な部分から学習する予定ですので、「金融論」や「経済原論」等の履修実績は必要ありません。</p>
教科書	<p>（講義時に、レジュメを配布します。）</p>
参考書	<p>講義の中で、紹介します。</p>
成績評価方法	<p>期末試験（またはレポート）50%、平常点50%の比率で総合的に評価します。</p> <p>平常点では、積極的に考えようとする受講姿勢を重視します。</p>

科目名	貿易論特講	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SA060	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	貿易論特講は、地域経済にとって、地域外との交易（地域間交易）の意味を検討します。地域間交易には、その地域と外国との交易（貿易）を含むだけでなく、その地域と同じ国内の、他の地域（都道府県など）との取引を含みます。地域間交易の視点から、グローバル化の中での、地域経済再生の条件を考えていきます。 今年度はTPP(環太平洋経済連携協定)に焦点をあて、日本と地域経済にとってどのような意味をもつかをじっくりと考えていくことにします。
授業の進め方	演習形式で行います。主に受講生からの報告を中心に、議論しながら学習を進めます。
達成目標	(1) WTOルールと地域貿易協定との関連を整理してとらえる。 (2) TPP（環太平洋経済連携協定）について基本的理解を深める。 (3) 地域経済にとってTPPがどのような意味をもつのか、検討すべき問題を理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	概ね、次のような項目を順に取り上げて問題を深めていく予定ですが、受講生と相談して学習内容を確定していきます。取り上げる文献を指定し、それを受講生が持ちまわりでレポートをする形で進めます。 第1回 オリエンテーション 第2回 WTO(世界貿易機構)と地域貿易協定 第3回 WTOと地域貿易協定 第4回 TPP(環太平洋経済連携協定)とは何か 第5回 TPPとは何か 第6回 TPP賛成論 第7回 TPP賛成論 第8回 TPP反対論 第9回 TPP反対論 第10回 TPP参加国と日本 第11回 TPP参加国と日本 第12回 EU(欧州連合)とTPP 第13回 農業再生の課題とTPP 第14回 日本経済の課題とTPP 第15回 まとめ
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。
教科書	特に指定しません。
参考書	文献は適宜紹介します。
成績評価方法	毎回の授業での受講生によるレポート(80%)を基本に、授業への参加姿勢(20%)を加味して総合的に評価します。

科目名	地方政治論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	SA080	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	『後藤新平 大震災と帝都復興』を手がかりとして、現在日本が抱えている都市計画の問題について検討します。
授業の進め方	演習形式で進めます。具体的には、毎回担当者を決めたとで、報告する、報告の後、全員で議論、教員の解説を行う、という手順で進めます。詳しい進め方については、第1回の授業で説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2) 戦後の都市計画を理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な地方政治、地方自治の知識を習得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 再評価されるべき後藤新平 第3回 生い立ち 水沢の気風と陪臣の心意気(1) 第4回 生い立ち 水沢の気風と陪臣の心意気(2) 第5回 地方の医師から内務省衛生局長に(1) 第6回 地方の医師から内務省衛生局長に(2) 第7回 台湾総督府の民政長官(1) 第8回 台湾総督府の民政長官(2) 第9回 満鉄の都市経営 大連と長春(1) 第10回 満鉄の都市経営 大連と長春(2) 第11回 東京の都市問題 都市計画法の制定(1) 第12回 東京の都市問題 都市計画法の制定(2) 第13回 関東大震災と帝都復興計画(1) 第14回 関東大震災と帝都復興計画(2) 第15回 帝都復興事業の遺産
履修上の注意	担当部分を要約する際、わからない部分が多く出てくると思いますが、どの部分がどのようにわからなくて、わからないなりにどのように考えたのか、を明確にするよう心がけてください。
教科書	『後藤新平 大震災と帝都復興』越澤明著、筑摩書房(ちくま新書)(2011年)
参考書	『テキストブック地方自治』村松岐夫編、東京経済新報社(2006年); 『ローカル・ガバナンス 地方政府と市民社会』辻中豊・伊藤修一郎編著、木鐸社(2010年)その他は、授業中に紹介します。
成績評価方法	授業への参加態度(100%)によって評価します。

科目名	社会調査論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SA085	担当教員	畠中 洋行	所属	特定非営利活動法人 NPO高知市民会議	
連絡先	電話					088-820-1540
	E-mail					granpamoon@gmail.com

授業概要 (テーマ等)	住民参加による住まいづくり・まちづくり・地域づくりの実践現場での経験をふまえ、こどもから高齢者まで、いろいろな人と人との関係性を紡ぎだしていくプロセスにおける、社会調査の意義やあり方を具体的に考察し、実践的な方策を見いだす力を養うことを目的とします。
授業の進め方	様々な事例を映像等で紹介し、その内容をふまえて、受講生と意見のやりとりをしながら、方向性を整理していく進め方を考えています。
達成目標	(1) 地域・まちに存在するヒト・モノ・コトの魅力を発見、感じる視点の持ち方に気づいてもらう (2) 地域・まちに存在する様々な課題に対し、「何だろうか?」と疑問を持ってもらう (3) 上記の魅力をどうすればもっと魅力的なものにできるか、課題を解消するにはどのように取り組んでいけばいいかについて、少しでも理解が深まるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 北方地区のまちづくり(住民参加による住環境改善)事例にみる地域の魅力と課題点の見つけ方について 第3回 県営住宅若草南団地の建て替えにみる、居住者参加方式による取り組みとコミュニティ形成のあり方について 第4回 赤岡のまちづくり(その1)モノ・ヒト・コトの魅力を見つけるしくみづくりについて 第5回 赤岡のまちづくり(その2)絵金蔵・弁天座が生まれるまでのプロセスについて 第6回 赤岡のまちづくり(その3)地域のキーパーソンの魅力について 第7回 赤岡のまちづくり(その4)絵金蔵蔵長が語る絵金と絵金蔵の魅力について 第8回 映像という手法を介したまちの魅力のとらえ方(切り口)について 第9回 道の駅の魅力・可能性について 第10回 「こどもとまち、こどもの社会参画」(その1)ドイツミュンヘンにおけるミニ・ミュンヘンの取り組みについて 第11回 「こどもとまち、こどもの社会参画」(その2)ミュンヘン市におけるこども議会等の取り組みについて 第12・13回 「こどもとまち、こどもの社会参画」(その3、その4)こどもが運営するまち「とさこタウン」の取り組みについて 第14回 高知市市民活動サポートセンターの取り組み事例にみる、市民活動・NPOの現状と今後の課題等について 第15回 授業のまとめ
履修上の注意	特になし
教科書	講義レジュメ及び関連資料の配布
参考書	同上
成績評価方法	講義への参加姿勢(70%)、各事例を聞いたうえでのコメントあるいはレポート(30%)などから総合的に判断する。

科目名	公法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB093	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	憲法及び行政法に関する正確な知識を修得し、かつ、そのことを前提に諸論点を考察していく。
授業の進め方	原則として、通常の講義形式で行う。ただし、受講生にテーマを課して、報告を求めることもある。
達成目標	(1) 憲法及び行政法に関する正確な知識を修得する。 (2) 憲法及び行政法の諸論点に関する判例・学説を理解する。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、憲法及び行政法に関する諸論点について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 司法審査の概念と限界について 第3回 国会及び内閣について 第4回 財政及び地方自治について 第5回 人権の概念について 第6回 信教の自由と政教分離原則について 第7回 表現の自由について 第8回 その他の人権について 第9回 行政法の基本原理について 第10回 行政組織法について 第11回 行政作用法について 第12回 行政救済法について(その1:国家補償法について) 第13回 行政救済法について(その2:行政争訟法について) 第14回 情報公開制度及び個人情報保護制度について 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題について
履修上の注意	2012年度以前の「憲法特講」または「行政法特講」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。受講生の希望に応じて、講義の進め方や内容については、変更があり得ます。また、受講生のなかに、行政書士試験や公務員試験(地方上級・国家種レベル)の受験希望者がいた場合には、受講生の希望に応じて、場合によっては、ある程度、試験対策を意識した講義にします。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	複数回の報告(60%)、および講義への参加姿勢など(40%)から総合的に評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、報告および講義への参加姿勢などからの評価で、60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	国際法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB100	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際判例の考察を通して、より高度に国際法を理解する。
授業の進め方	基本的にゼミ形式で行い、受講生に報告してもらう。教員が適宜解説を行う。
達成目標	(1)判例を理解し分析で きるようになる。 (2)議論に積極的に参加できるようになる。 (3)判例を自ら報告できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 報告判例の説明、報告方法について</p> <p>第3回 教員による模擬報告 (コルフ海峡事件)</p> <p>第4回 国連本部協定事件 (国際法と国内法の関係)</p> <p>第5回 光華寮事件 (国家の要件)</p> <p>第6回 ウィンブルドン号事件 (一般法と特別法)</p> <p>第7回 エクスチェンジ号事件 (国家免除)</p> <p>第8回 パルマス島事件 (島の領有、権原)</p> <p>第9回 北海大陸棚事件 (大陸棚の画定)</p> <p>第10回 ゼーリング事件 (人権の保護)</p> <p>第11回 ナミビア事件 (国家機関)</p> <p>第12回 東京裁判、ニュルンベルク裁判 (戦後処理)</p> <p>第13回 ジェノサイド条約事件 (留保の有効性)</p> <p>第14回 レインボー・ウォーリアー号事件 (国家責任と条約違反)</p> <p>第15回 MOXプラント事件 (環境保護と予防原則)</p> <p>あくまで上記の判例は例であり、学生と相談の上決定する。</p>
履修上の注意	活発な議論を期待する。
教科書	『ベーシック条約集2013年版』松井芳郎編、東信堂 (2013年)及び『判例国際法(第2版)』松井芳郎編、東信堂 (2006年)の購入が望ましい。なお、条約集については、最新版を購入してください。
参考書	特に指定しない。
成績評価方法	授業態度(80%)、報告内容(20%)を合わせて評価。

科目名	民事法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB121	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	文献の講読を通じて、「国造り」という視点から民事法の問題を考える。
授業の進め方	演習形式で行う。具体的には、毎回担当者を決め、文献の担当部分を報告する。
達成目標	(1) 「国造り」における民事法の意義を理解できるようになる。 (2) 比較の視点を通して民事法を理解できるようになる。 (3) 「法の支配」、「経済成長」との関係で、民事法の機能を考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 輪読 第3回 輪読 第4回 輪読 第5回 輪読 第6回 輪読 第7回 輪読 第8回 輪読 第10回 輪読 第11回 輪読 第12回 輪読 第13回 輪読 第14回 輪読 第15回 輪読
履修上の注意	すでに民法を履修していること。参加者全員が事前に該当部分を読んでおくこと。
教科書	受講生と相談の上決めます。
参考書	授業中に適宜指定します。
成績評価方法	授業への参加姿勢(30%)および報告内容(70%)により評価します。

科目名	刑事法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB130	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	少年法について講義を行います。
授業の進め方	初回の授業で受講生と協議して、決定しますが、現段階では講義をするだけでなく、様々な文献を読み、学生と教員の間で討論しよう
達成目標	(1)少年法のあらましについて理解すること。 (2)少年法の改正の流れについて理解すること。 (3)よりよい少年法とはどのようなものかを各自考えること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 はじめに 授業方法の確認 第2回 少年法とは何か 第3回 少年法のあらまし 第4回 少年法に何を求めるか 第5回 全件家裁送致主義の意義 第6回 家裁調査官の役割 第7回 検察官送致 第8回 原則、検察官送致事件 第9回 保護処分(1) 第10回 保護処分(2) 第11回 保護処分(3) 第12回 少年法の歴史(1) 第13回 少年法の歴史(2) 第14回 現行少年法改正の流れ 第15回 あらためて、少年法とは何か</p> <p>これはあくまでも目安に過ぎず、受講者の希望によっては別の刑事法に関する問題(例えば、有罪確定後の犯罪者の処遇問題など)を取り扱ったり、刑法や刑事訴訟法の問題を取り扱ったりします。</p>
履修上の注意	できるだけ、出席し、発言してください。
教科書	プリントを配布します。
参考書	特になし。
成績評価方法	報告内容(80%)、受講態度(20%)を総合して評価します。

科目名	社会法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB140	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会法を構成する法分野のうち、労働法と社会保障法に関して、これら法領域に関する最新の論文を読むことをとおして、どのようなことがいま社会で問題となっているかを理解し、法的知識の涵養を目指す。
授業の進め方	あるテーマについて、2週つづけて検討するが、1週目には教員がそのテーマについて制度の仕組みやいかなる問題があるかに関して述べ、その授業の終わりに、次回に議論する上で読んでほしい文献を提示する。それを受けて、2週目には先に指定された文献をもとに受講者全員で議論する。その際には、報告を求めることがある。
達成目標	(1) 論文の内容を正確に読むことができるようになる。 (2) 相手の意見を理解した上で、議論に参加できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	以下の授業計画は例であって、受講生の関心によって適宜変更することはありうる。 第 1 回 はじめに 第 2 回 介護保険法改正と障害者総合支援法(1) 第 3 回 介護保険法改正と障害者総合支援法(2) 第 4 回 高齢者医療をめぐる問題(1) 第 5 回 高齢者医療をめぐる問題(2) 第 6 回 少子高齢化と公的年金(1) 第 7 回 少子高齢化と公的年金(2) 第 8 回 企業年金の減額・廃止(1) 第 9 回 企業年金の減額・廃止(2) 第 10 回 高年齢者雇用安定法と高年齢者雇用(1) 第 11 回 高年齢者雇用安定法と高年齢者雇用(2) 第 12 回 雇用保険と求職者支援制度(1) 第 13 回 雇用保険と求職者支援制度(2) 第 14 回 生活保護制度をめぐる今日的課題(1) 第 15 回 生活保護制度をめぐる今日的課題(2)
履修上の注意	法に関する学習をすでに行っていることが望ましいが、雇用や社会保障に関心がある者であれば、事前の知識の有無は問わない。
教科書	とくに指定しないが、小型の法令集を毎回持参してもらいたい。
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	議論への参加の度合いによって評価する。

科目名	商事法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB161	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	私たちは、実に様々な企業から商品やサービスを購入・利用して、日常生活を営んでいます。商事法特講では、このように日常生活と密接な関係のある、企業との取引と法規制について学んでいきます。
授業の進め方	講義・演習を併用した形式で進めます。
達成目標	(1) 企業取引法とは何か理解できるようになる。 (2) 各種企業取引とその法規制について理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 企業取引法総論 第2回 企業主体としての商人 第3回 会社とは 第4回 企業取引総説 商人間取引と消費者取引 第5回 消費者契約法 第6回 特定商取引法 第7回 割賦販売法 第8回 商品の流通・サービス提供と仲介 第9回 運送営業 第10回 倉庫営業・場屋営業 第11回 保険取引総論 損害保険 第12回 生命保険 第13回 企業取引と担保 第14回 信託・組合 第15回 企業取引と決済 一応の目安ですので、講義の進捗状況によっては、テーマが変わることもあります。
履修上の注意	六法を持参してください。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	レポート(50%)、講義への参加姿勢(50%)

科目名	簿記学特講	単位数	2	期別	集中
科目コード	SB212	担当教員	中野 慶伸	所属	土佐コンピュータ学院非常勤教員
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日商簿記1級の基礎を学習します。
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等
達成目標	(1) 個別原価計算について理解できるようになる (2) 工業簿記について理解ができるようになる (3) 個別原価計算と工業簿記の関係について理解を深められるようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 総論 第2回 原価計算と工業簿記 第3回 財務諸表 第4回 個別原価計算の意義 第5回 個別原価計算の概要 第6回 個別原価計算の計算手続 第7回 原価記録と財務記録 第8回 原価の費目別計算 第9回 材料費会計総論 第10回 材料購入原価の計算と処理 第11回 材料消費額の計算と処理 第12回 月末材料の管理 第13回 労務費会計総論 第14回 支払賃金の処理 第15回 賃金消費額の計算
履修上の注意	商業簿記の理解が前提となる。
教科書	『日商簿記1級合格テキスト』TAC出版
参考書	同上
成績評価方法	講義への参加姿勢(60%)、期末試験(40%)などから総合的に評価する。

科目名	会計学特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB214	担当教員	玉置 雄次郎	所属	高知短期大学名誉教授
連絡先	電話				
	E-mail yjtamaki@gmail.com				

授業概要 (テーマ等)	社会科学科(本科)における、会計学の講義を前提として、企業会計のいくつかの問題点を深めることを目標とする。また、国際会計基準と監査の問題もとりあげる。
授業の進め方	テキストにより、あるいは資料を配付し、ゼミナール形式ですすめる。
達成目標	(1)企業の活動と、企業会計の関係についての理解を深める。 (2)企業会計に関する制度(企業会計原則、会社法会計、金融商品取引法会計)について 理解を深める。 (3)企業会計のいくつかの問題(有価証券会計、減損会計等)を理解する。 (4)国際会計基準、監査制度の基本的な問題についても理解することを目的とする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 企業の活動と会計との関係 第2回 日本の企業会計制度 第3回 企業のディスクロージャー制度 第4回 損益計算書をより深く理解する 第5回 貸借対照表をより深く理解する 第6回 キャッシュフロー計算書を理解する 第7回 金融商品会計基準と有価証券の時価評価 第8回 固定資産の会計(1) 第9回 固定資産の会計(2) 第10回 持分の会計 第11回 企業集団の会計(連結会計制度) 第12回 企業集団の会計(連結会計制度) 第13回 企業集団のディスクロージャー制度 第14回 国際会計基準 第15回 会計監査の理論と制度
履修上の注意	2010年以前の「財務諸表論」、2011、12年度の「国際財務報告基準論」、「監査論」のいずれかを履修済の場合、この科目を履修することはできません。 一応、社会科学科(本科)における会計学の理解を前提とする。
教科書	第1回目において指定する。
参考書	第1回目において指定する。
成績評価方法	講義への参加姿勢によって評価する。

科目名	税務会計論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB220	担当教員	梅田 昭彦	所属	梅田昭彦税理士事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	税務会計を理解するための前提となる法人税法を習得し、財務会計と税務会計の差異を理解する。
授業の進め方	受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。
達成目標	(1) 法人における税務会計の基礎知識を習得する。 (2) 財務会計と税務会計の違いを理解する。 (3) 税制の最新動向を把握する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	毎回、テキストを用いて講義した後、財務会計と税務会計の処理方法の違いを伝票イメージで解説します。 さらに、財務会計と税務会計の差異を調整する方法を、別表四と別表五(一)を用いて解説します。 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 財務会計・税務会計・管理会計の違い 第 3 回 損益の期間帰属 第 4 回 棚卸資産 第 5 回 減価償却 第 6 回 繰延資産の償却, 圧縮記帳 第 7 回 役員の給与等 第 8 回 租税公課等, 寄付金 第 9 回 交際費等 第 10 回 貸倒損失と貸倒引当金 第 11 回 受取配当等の益金不算入, 有価証券の譲渡損益・時価評価損益 第 12 回 別表四と五(一)の作成方法 第 13 回 税率, 所得税額の控除, 申告と納税 第 14 回 税制改正等 第 15 回 法人税と所得税の違い
履修上の注意	(特になし)
教科書	開講時に指定します。
参考書	(特になし)
成績評価方法	講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%)

科目名	税法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB230	担当教員	梅田 昭彦	所属	梅田昭彦税理士事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	我が国の代表的な税法の基礎知識を習得する。
授業の進め方	受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。
達成目標	(1) 租税の目的、及び租税法の基本原則を理解する。 (2) 所得税法・法人税法・相続税法・消費税法の構造を理解する。 (3) 税制の改新動向を把握する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	租税法 NO.1税(租税)とは何か? NO.2税金が決まるまで 所得税法 NO.3所得の種類 NO.4課税所得の計算方法(収入-経費) NO.5所得税額の計算 法人税法 NO.6企業会計と税法会計の違い NO.7課税所得の計算方法(益金) NO.8課税所得の計算方法(損金) NO.9法人税額の計算 相続税法 NO.10相続税の課税財産 NO.11相続税額の計算 NO.12贈与税額の計算 消費税法 NO.13課税の対象 NO.14消費税額の計算 その他 NO.15税制改正の動向
履修上の注意	(特になし)
教科書	開講時に指定します。
参考書	(特になし)
成績評価方法	講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%)

科目名	経営学特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB240	担当教員	青木 宏之	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、観光産業について学びます。観光は高知県の地域振興にとって重要な役割が期待されています。観光に関わる主要な産業（宿泊、テーマパークなど）を調査し、その現状と課題を経営学の視点から考えていきます。
授業の進め方	講義とフィールドワークを行います。
達成目標	自分でテーマを設定し、調査・インタビューする能力を身につける。 調査・インタビューで入手した情報を分析する能力を身につける。 分析結果を論理的に整理し、論文としてまとめる能力を身につける。 経営学の基礎概念と観光産業についての理解を深める。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第 1～10回 経営学の基礎概念と観光産業について学ぶ 第 11～15回 フィールドワーク
履修上の注意	地域政策演習を合わせて履修してください。
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	レポート（50%）、参加姿勢（50%）

科目名	情報処理応用演習	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SC280	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	自力でデータを分析できる力と、データの分析結果を読み解く力を養う。
授業の進め方	教科書の講義と実習。また、受講生は、自分で分析したいデータを用いてその分析経過や分析結果を授業内で報告する。
達成目標	(1) データを分析できるようになる。 (2) データの分析結果を読み解くことができるようになる。 (3) データ分析の背景にある統計学の理論を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに：何を分析したいのか 第2回 アンケート調査票の作成 第3回 データの入力とチェック 第4回 受講生からの経過報告(1) 第5回 グラフ 第6回 2つの関係性 第7回 受講生からの経過報告(2) 第8回 相関関係があるのか 第9回 2つの相関関係に差があるのか 第10回 クロス集計 第11回 2つに関連があるのか 第12回 受講生からの経過報告(3) 第13回 比率に差があるのか 第14回 平均値に差があるのか 第15回 受講生からの結果報告(4) ただし、受講生の希望や理解度により進度を変えることがある。
履修上の注意	データを使って分析したいことがあることが望ましい。
教科書	『Excelで学ぶアンケート処理 - 統計学って意外とやさしい?』石村貞夫・劉 晨・加藤千恵子、東京図書(2009年)
参考書	特になし。
成績評価方法	課題や授業への取り組み方(50%)と報告(50%)により評価する。

科目名	消費生活論	単位数	2	期別	集中
科目コード	SC290	担当教員	桑原 尚子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。
授業の進め方	講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。
達成目標	(1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力が養成される。 (2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量が身につくようになる。 (3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解することができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 消費者問題概論(ガイダンス含む) 第2回 消費生活に必要な民法の知識 第3回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第4回 生活に必要な特定商取引法・割賦販売法の知識 第5回 若者と高齢者被害の救済事例 第6回 公正な競争の確保のために～独占禁止法等～ 第7回 経済の仕組みと消費生活～税金・物価・社会保障・保険～ 第8回 調停・訴訟等に関する知識 第9回 消費者教育の意義 第10回 食品表示の基礎知識 第11回 食品表示の基礎知識 第12回 消費生活とお金に関する基礎知識 第13回 金融商品に関する基礎知識 第14回 情報通信サービスに関する基礎知識 第15回 環境問題に関する基礎知識 講義の順序に変更がある場合もあり
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。
参考書	講義のなかで紹介します。
成績評価方法	毎日の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。

科目名	特別研究	単位数	4	期別	通年
科目コード	SC291	担当教員	梅村 仁	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	学生の希望によるテーマについて調査・研究を進め、その成果を論文にまとめる指導を行う
授業の進め方	教員による個別指導
達成目標	(1) 研究課題を設定し、学習・研究計画を作成することを学ぶ (2) 研究論文作成の基礎的技法を学ぶ (3) 自らの学習・研究成果を論文にまとめる (4) 『学生論集』へ掲載することを目標とする
授業計画 (講義の具体的 内容)	専任教員と希望学生の間で決めることとなる(学習・研究計画の検討・作成、計画にそった学習・研究経過のチェックなどのスケジュールを教員と学生の間で決めて進める。)
履修上の注意	指導を希望する教員に相談した上で履修申請をすること。 学生自身の力で論文を書くこと。
教科書	なし
参考書	研究テーマに応じて必要な文献を探すことも学びの目的の1つとなる
成績評価方法	調査・研究への取り組みと研究成果である論文の完成度によって評価